

科目名	農学概論	科目名 (英文)	Introduction to Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	久保 康之、石川 幸男、井上 亮、奥本 裕、小野 雅之、小保方 潤一、川崎 通夫、喜多 大三、北川 太一、黒川 通典、田中 樹、寺林 敏、豊原 治彦、吉井 英文、和田 大
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	OAE1001a0		

授業概要・目的	自然を改変しながら生物資源を活かし、人間の衣食住を支えてきた「農学」は、人間の諸活動を支える根幹的な学問である。「農学」には持続可能で豊かな人間社会と地球環境の創出を目指して、課題を見出し対応するミッションがある。「農学」は生命を支える食料の科学であり、生命科学とも位置付けられる。さらには、「農学」は生産、加工、流通の6次産業に食栄養を加えた24次産業的視点で捉えることができる。農と食をとりまく環境は大きく変化した、「農学」における食栄養科学・健康科学の重要性も認識されている。本講義はこうした問題意識からテーマを設定し、オムニバス形式の講義により、受講者が「農学」とは何かを理解するとともに、「農学」のミッションに対応する「使命感」、「農学」的視点もたらす「俯瞰力」、「実践力」に関心をもち、主体的に課題を意識することができることを目的とする。
到達目標	① 「農学」が関わる領域について、関心をもつことができる。 ② 「農学」が関わる領域の課題を理解し、主体的に捉えることができる。 ③ 「農学」が関わる領域を学び、専門分野で何を学ぶかという動機や問題意識をもつことができる。
授業方法と留意点	授業方法は、オンデマンドの遠隔授業にて行う。
科目学習の効果 (資格)	摂南大学農学部の学びの基本となり、「農学」の全体像を理解するための基礎となる科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	農学を大学で学ぶとは	「農学」は、自然を改変しながら生物資源を活かし、人間の諸活動を支える根幹的な学問である。持続可能で豊かな人間社会と地球環境の創出を目指して、私たちは何を学び、何をすべきか、「農学」の世界観を俯瞰し、学修する。(担当：久保 康之)	事前：シラバスの理解 事後：レポートの提出
2	農学と社会	「農学」は、安全な食料生産と食料の安定供給、自然環境の保全、食を取り巻く多様化・複雑化する社会への対応、新しい作物生産の場とその生産技術の開発など、社会からの求めに応え、解決する使命を担っている。「農学」が社会とのかかわりの中で、いかなる研究が社会に貢献してきたか、と同時に「農学」の発展と可能性について学修する。(担当：寺林 敏)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
3	農業生産技術の進歩	農業生産技術の進歩は、人口増加、自然環境変動、および、社会変化に伴う農業生産課題を解決していく上で重要な要素である。フィールド栽培、施設園芸、植物工場、および、AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)を活用したスマート農業などに関する農業生産技術の進展について学修する。(担当：川崎 通夫)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
4	国際農業と開発援助	世界の農業の多様性を踏まえ、発展途上国における農業開発と、それに対する援助のあり方を学修する。(担当：田中 樹)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
5	農業とケミカルエコロジー	すべての生物は、同種または他種の他個体と相互作用を及ぼしあいながら生きており、この相互作用の仲介役として化学物質が大きな働きをしている。植物-昆虫、昆虫-昆虫間の相互作用における化学物質の働きについて、その害虫管理への応用を含めて概説する。(担当：石川 幸男)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
6	作物改良のための情報科学	現代の農業は近代育種が改良してきた品種を基盤に成立している。近年のゲノム解読技術と画像解析技術の急速な発展は、育種におけるDNA情報解析と高速フェノタイピングの利用を強く後押ししている。育種の現場で利用が進められているゲノム情報と圃場データ処理を利用する情報科学について概説する。(担当：奥本 裕)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
7	ゲノムと農学・生命科学	生物の設計図を読みみたい、というのは生物学者の長年の夢だったが、ゲノムの解読技術の飛躍的な発展によって、それは現実のものとなりつつある。ゲノム科学の急速な発展が、農学・生命科学や私たちの生活にどのような影響を与えつつあるのかを概説する。(担当：小保方 潤一)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
8	動物生命科学の新展開	動物を対象とした研究は、農学において	事前：事前学習課題の学習

			は産業動物の生産性向上のため、食品、医療においてはヒトの健康維持・増進、疾病予防・治療のために行われる。これらの動物を対象とした研究には遵守すべきルールや法令が存在する。これら動物を対象とした研究に関する現状を学修する。(担当：井上 亮)	事後：レポートの提出
	9	地球環境と海洋科学	水産業は一次産業の中でも特に天然依存性が高いことから、資源維持のために健全な海洋環境の保全が必須である。最新の増養殖技術の活用も含め、地球環境の保全と海洋科学の進展について学修する。(担当：豊原 治彦)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	10	食品科学と農業	農林漁業者（1次産業）が生産する農水産物の元々持っている価値をさらに高め農林水産業を活性化させるためには、食品加工（2次産業）は必須の技術である。最新の食品加工にかかわる食品科学技術の進展について学修する。(担当：吉井 英文)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	11	食文化と多様性	日本の食文化は大きな変革期にきており、食生活の大部分を外食産業に依存する家庭が急増している。本来、日本の伝統的食文化である「お茶」の歴史、伝統および特質について学修する。(担当：喜多 大三)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	12	微生物と食品	東洋、西洋を問わず、食品製造に微生物を利用することは長く行われてきた。農産物の2次加工としての微生物利用について概説する。(担当：和田 大)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	13	食栄養科学と健康	現代の栄養事情は欠乏と過剰の二極化といわれている。社会の仕組みが複雑になっている今、社会のあらゆる側面を視野に入れながら、人間栄養学の観点から健康問題を考える。(担当：黒川 通典)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	14	食品産業の役割とこれからの方向	消費者への食料供給において重要な役割を担う食品産業、特に食品流通業を取り上げ、その役割とこれからの展開方向を学修する。(担当：小野 雅之)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	15	これからの食と農を考える	今日の食と農の状況を踏まえながら、これからの食（消費者、都市）と農（生産者、農山漁村）をつなぐ共生のあり方とその方向を考える。(担当：北川 太一)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	講義内容に関する資料を配布		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	農学が世界を救う！ 食料・生命・環境をめぐる科学の挑戦	生源寺眞一・太田實行・安田弘法 編著	岩波ジュニア新書
	2			
	3			
評価方法 (基準)	事前課題（30%）、授業中の課題（40%）、事後課題（30%）で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	1) オンデマンドのオンライン形式で実施します。 授業は授業予定日に合わせて配信されます。 2) この授業は「Teams」と「Forms」を使用します。 3) 各回の授業で課題を課します。提出期限は次回の授業日までとします。 (例：4月12日(月)の授業は4月19日(月)午前0時まで提出)			
担当者の 研究室等	植物病理学研究室(久保)、応用昆虫学研究室(石川)、動物機能科学研究室(井上)、植物遺伝育種科学研究室(奥本)、食料・農業市場研究室(小野)、ゲノム生物学研究室(小保方)、作物科学研究室(川崎)、栄養薬理学研究室(喜多)、食農共生研究室(北川)、公衆栄養学研究室(黒川)、環境農学研究室(田中)、園芸科学研究室(寺林)、海洋生物学研究室(豊原)、食品加工学研究室(吉井)、応用微生物学研究室(和田)			
備考				

科目名	農学基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar in Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	寺林 敏、川崎 通夫、北村 祐人、佐野 修司、高木 大輔、玉置 雅彦、山川 武夫
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	OAE1002a0		

授業概要・目的	福井県と三重県にある農業体験施設を利用し、2日間で演習を行う。主に、我が国のイネ生産と消費の現状、水田の構造、稲作を成立させる農業技術並びに自然環境要因、水田の多面的価値、稲作文化等について講義する。実習内容として、春期の田植えと秋期の稲刈りを行う。日本の主食であるコメの栽培を学び、イネ栽培を体験することで、水田の構造、日本で水田稲作が成立する要因、稲という植物の生育特性を深く理解し、我が国における今後の稲作の在り方について学ぶことを目的とする。
到達目標	① 日本の地形・気象条件と稲作との関係を説明できる。 ② 稲作における種々作業の必要性、意義、効果を理解し、説明できる。 ③ イネという作物の生理・生態的、形態的特性を説明できる。 ④ 農業生産に及ぼす気象、土壌、病害虫、雑草などの環境要因の影響について知り、説明できる。
授業方法と留意点	演習は春（5月の田植え）と秋9月（イネ刈り）の2回行う。それぞれに、事前の講義、現地での講義、実習内容の説明と農作業、周辺地域の農村景観の観察、そして討論会をおこなう。演習の最終回は、まとめとして、2回の合宿演習での体験と学びをもとに、課題「水田の多面的機能と価値について」と自由課題を与え、レポート提出させる。

科目学習の効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>本演習の内容と目的の説明 日本の稲作の歴史、栽培品種、栽培理論、稲作文化等について概説</td> <td>事前：次回実習内容の確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>春合宿</td> <td>講義 (移動中) 日本のコメ生産および消費状況について</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>春合宿</td> <td>講義 訪問施設の農業生産、人材育成等の業務内容</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>春合宿</td> <td>実習 田植え実習</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>春合宿</td> <td>実習 田植え実習</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>春合宿</td> <td>討論会 テーマ「コメの消費量を増やすには」 (年ごとに変更)</td> <td>事後：レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>春合宿</td> <td>実習 野菜園の管理</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>春合宿</td> <td>見学・研修 周辺地域の農村景観と農村社会・稲作文化に触れる</td> <td>事後：レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>秋合宿</td> <td>講義 (移動中) コメの稈性と糯性について</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>秋合宿</td> <td>実習 稲刈り</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>秋合宿</td> <td>実習 稲刈り はさ架け</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>秋合宿</td> <td>討論会 テーマ「我が家の雑煮とお餅について」 (年ごとに変更)</td> <td>事後：レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>秋合宿</td> <td>実習 秋野菜の管理</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>秋合宿</td> <td>実習 果樹園の管理</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>水田の多面的機能と価値について</td> <td>事後：レポートの提出</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	本演習の内容と目的の説明 日本の稲作の歴史、栽培品種、栽培理論、稲作文化等について概説	事前：次回実習内容の確認	2	春合宿	講義 (移動中) 日本のコメ生産および消費状況について	事前：講義及び実習内容の予習	3	春合宿	講義 訪問施設の農業生産、人材育成等の業務内容	事前：講義及び実習内容の予習	4	春合宿	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習	5	春合宿	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習	6	春合宿	討論会 テーマ「コメの消費量を増やすには」 (年ごとに変更)	事後：レポートの提出	7	春合宿	実習 野菜園の管理	事前：講義及び実習内容の予習	8	春合宿	見学・研修 周辺地域の農村景観と農村社会・稲作文化に触れる	事後：レポートの提出	9	秋合宿	講義 (移動中) コメの稈性と糯性について	事前：講義及び実習内容の予習	10	秋合宿	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習	11	秋合宿	実習 稲刈り はさ架け	事前：講義及び実習内容の予習	12	秋合宿	討論会 テーマ「我が家の雑煮とお餅について」 (年ごとに変更)	事後：レポートの提出	13	秋合宿	実習 秋野菜の管理	事前：講義及び実習内容の予習	14	秋合宿	実習 果樹園の管理	事前：講義及び実習内容の予習	15	まとめ	水田の多面的機能と価値について	事後：レポートの提出
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	ガイダンス	本演習の内容と目的の説明 日本の稲作の歴史、栽培品種、栽培理論、稲作文化等について概説	事前：次回実習内容の確認																																																														
2	春合宿	講義 (移動中) 日本のコメ生産および消費状況について	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
3	春合宿	講義 訪問施設の農業生産、人材育成等の業務内容	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
4	春合宿	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
5	春合宿	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
6	春合宿	討論会 テーマ「コメの消費量を増やすには」 (年ごとに変更)	事後：レポートの提出																																																														
7	春合宿	実習 野菜園の管理	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
8	春合宿	見学・研修 周辺地域の農村景観と農村社会・稲作文化に触れる	事後：レポートの提出																																																														
9	秋合宿	講義 (移動中) コメの稈性と糯性について	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
10	秋合宿	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
11	秋合宿	実習 稲刈り はさ架け	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
12	秋合宿	討論会 テーマ「我が家の雑煮とお餅について」 (年ごとに変更)	事後：レポートの提出																																																														
13	秋合宿	実習 秋野菜の管理	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
14	秋合宿	実習 果樹園の管理	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
15	まとめ	水田の多面的機能と価値について	事後：レポートの提出																																																														

関連科目 土壌学や植物栄養学の学習につながる内容を含んでいる。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			

評価方法 (基準) 演習参加とレポート (100%) で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ 実習を通して、作物を栽培するための準備、管理方法、収穫がどのように行われているかを体感してください。また、作物栽培の楽しさと大変さを経験してください。コロナ感染状況によっては、現地での実習 (田植え、稲刈り) ができなく可能性があります。その場合は Teams での課題提供 (課題提出は WebHolder 使用)、本学農場での見学および実習を行う予定です。

担当者の研究室等備考 園芸科学研究室 (寺林、北村)、作物科学研究室 (玉置、川崎)、生産生態基盤学研究室 (山川、佐野)。

科目名	グローバル農業演習	科目名 (英文)	Seminar in Global Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	寺林 敏・戴 容秦思
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OAE2003a0		

授業概要・目的	私達の食生活は、我が国の食料生産だけでは決して支えられているものではなく、他国における食料生産への依存度は高まる一方である。海外に10日間ほど滞在し、その地域や国の農業についての講義や視察により、茶などの工芸作物を含む様々な農作物、野菜や花などの種々園芸作物が他国で、どのような気象・土壌環境で、どのような栽培技術で生産され消費・利用されているかを、それら地域の歴史的、文化的背景、社会情勢の理解とともに学ぶ。
到達目標	① 世界の農業との比較から日本の農業の特徴を説明できる。 ② 演習に訪れた国・地域の農業成立の歴史的背景、農業技術、現状、課題について説明できる。
授業方法と留意点	当面は、学術交流協定を結んだ中国の雲南農業大学を演習の訪問先とする。訪問時期は夏期休暇期間中で、おおよそ10日間の日程で行う。雲南農業大学は雲南省立の大規模大学で、多方面での農業に関する研究実績があり、日本の大学とは長年の交流実績を有しており、受け入れ態勢が整っている。各講義、視察地での解説は、基本、中国語、英語で行われる。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	演習実施時期、実施国、および演習内容(雲南農業大学における農学関連講義の受講、現地視察および雲南農業大学生徒との交流)の説明	事前: シラバスの理解 事後: レポートの提出
2	雲南農業大学の紹介	雲南農業大学の建学精神、組織、研究内容の紹介と学内施設見学	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
3	雲南省の概説	雲南省の地形、気象、生物(動植物)についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
4	雲南省の概説	雲南省の歴史と少数民族についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
5	視察	民俗村施設を訪問し、住居、農耕具、食文化、衣類、宗教等に関する展示物(一部再現物)を見学し、雲南省の少数民族の文化について学ぶ	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
6	中国の畜産業	豚をはじめとする中国の畜産業の現状と特徴についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
7	中国の稲作	中国全土の稲作の栽培技術、栽培品種、稲作文化についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
8	中国の作物栽培	雲南および中国での主要作物の栽培状況と栽培技術についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
9	中国の作物防除	作物、野菜、果樹等の作物栽培における病虫害被害の実態と防除技術についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
10	中国の野菜栽培	多種多様な野菜の類縁関係、品種特性、栽培技術、利用法および消費動向についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
11	雲南省の野菜	雲南省で栽培・消費されている野菜、ないし周辺の少数民族の野菜文化についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
12	雲南省の花弁	常春といわれる雲南省における、花卉植物の多様性、周年栽培、品質、並びに他地域・国外への供給体制についての講義	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
13	雲南省の茶栽培	雲南省の茶栽培、茶生産技術、飲茶文化についての講義と視察(茶間屋など)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
14	視察	全国から集荷される青果物市場、花卉市場を見学し、流通形態やその規模、取り扱い物の特徴を学ぶ	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出
15	総括	演習での学びと体験から、現在の中国の農業実態を理解・整理する。成果報告会を実施する	事後: 全実習のレポート提出

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>講義内容に関するプリントを配布</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	講義内容に関するプリントを配布			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	講義内容に関するプリントを配布																
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	別途、指示する																
2																	
3																	

評価方法 (基準)	事前課題レポート内容 (30%)、事後課題レポート (30%)、現地での演習時の取り組み姿勢・成果報告会での発表内容 (40%) で評価し、60%以上で合格とする。
学生へのメッセージ	現地での使用言語は、中国語、英語となっていますが、日本語でも会話は成立しますので安心してください。なお、コロナ禍が収束しない場合には、演習が中止になる場合があります。
担当者の	寺林敏 (農業生産学科 園芸科学研究室)、戴 容秦思 (食農ビジネス学科 食品流通研究室)

研究室等	
備考	

科目名	食農ビジネス学概論	科目名 (英文)	Introduction to Agri-Food Business
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 雅之, 浦出 俊和, 北川 太一, 成 耆政, 副島 久実, 田中 樹, 谷口 葉子, 戴 容秦思, 中塚 華奈, 濱田 英嗣, 柳村 俊介, 吉井 邦恒
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1008a0		

授業概要・目的
 食農ビジネス学とは新しい学問領域であり、他の大学にはない本学に独自の領域である。また、食農ビジネス学には多様な専門分野が含まれる。したがって、これから食農ビジネス学科で学ぶべき課題を見だし、主体的に取り組むうえで、まず食農ビジネス学とはどのような専門分野から成り立っているのかを理解する必要がある。本講義では、食農ビジネス学科の主な専門分野からテーマを設定し、オムニバス形式の講義により食農ビジネス学とは何かを理解し、主体的に取り組もうとする課題を見だせるようになることを目的として開講する。教員の中には中央官庁で長く農林水産政策に携わった経験を持つ者や農漁業界新聞の記者の経験者等もあり、授業ではそれらの経験を踏まえた事例紹介などを取り入れる。

到達目標
 ① 食農ビジネス学に関心を持つことができる。
 ② 食農ビジネス学で何を学ぶかを理解することができる。
 ③ 食農ビジネス学が関わる領域の課題を理解し、これからの勉学・研究のための問題意識を持つことができる。

授業方法と留意点
 パワーポイント、板書等を用いて講義を行う。講義の開始前に予習用プリントを配布するので、事前学習を行うこと。また、講義の理解度を高めるために、小テストを実施する。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	食農ビジネス学を学ぶために	科目全体のガイダンス、食農ビジネス学の目的と専門領域など。(担当：小野雅之)	事前：シラバスの理解 事後：講義内容の確認
2	食と農の変化と今日の姿	食と農がどのように変化してきたのかを概説したうえで、今日の食と農の姿について講義する。(担当：小野雅之)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
3	わが国と世界の食料需給の農産物貿易	わが国と世界の食料需給と農産物貿易の現状と課題について講義する。(担当：吉井邦恒)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
4	農業経営の発展方向	わが国の農業と農業経営の動向を踏まえて、今後の農業経営の発展方向について講義する。(担当：柳村俊介)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
5	農の6次産業化	農業・農村の活性化の方向として期待されている6次産業化の意義と課題について講義する。(担当：成耆政)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
6	地域のマネジメント	農村地域が抱える諸問題と、その解決をめざす取り組みについて講義する。(担当：浦出俊和)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
7	フードシステムと食品産業	フードシステムの全体像と、構成する産業の相互関係について講義する。(担当：濱田英嗣)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
8	農畜産物の流通	農畜産物の流通のしくみと課題について講義する。(担当：戴容秦思)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
9	水産物の流通	水産物の流通のしくみと課題について講義する。(担当：副島久実)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
10	農水産物のマーケティング	マーケティングの理論と農水産物への応用について講義する。(担当：副島久実)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
11	食品の表示と認証	食品表示・認証のしくみと意義について講義する。(担当：中塚華奈)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
12	農業と環境・生態系	農業と環境・生態系の関わりについて講義する。(担当：田中樹)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
13	循環型農業の理念とフードシステム	持続可能性を追求する循環型農業の理念やそのフードシステムについて講義する。(担当：谷口葉子)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
14	都市と農業	都市と農業の関係と、その今後のあり方について講義する。(担当：中塚華奈)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
15	協同組合の理念と役割	食(消費者、都市)と農(生産者、農山漁村)を繋ぐ共生に向けた協同組合の理念と実践について講義する。(担当：北川太一)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	別途、指示する		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新版 キーワードで読み解く現代農業と食料・環境	小池恒男・新山陽子・秋津元輝編	昭和堂
2			
3			

評価方法
 授業ごとのリアクションペーパー(授業内容の事後学習をまとめたレポート)70%と総合レポート30%で評価する。

(基準)	
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室（小野）、地域マネジメント研究室（浦出）、食農共生研究室（北川）、農業経済学研究室（成）、農水産物・食品マーケティング研究室（副島）、環境農学研究室（田中）、持続型フードシステム研究室（谷口）、食品流通研究室（戴）、食農教育研究室（中塚）、食品産業研究室（濱田）、農業経営学研究室（柳村）、食料・農業政策学研究室（吉井）
備考	

科目名	食と農の倫理	科目名 (英文)	Food and Agricultural Ethics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 雅之・谷口 葉子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1009a0		

授業概要・目的	食と農をめぐる様々な問題が存在するなかで、その解決に向けた行動規範として、食と農の倫理がある。これは、食（消費者）と農（生産者・供給者）の双方の倫理的な行動によって、問題の解決につなげようとするものである。本講義では、食と農をめぐる諸問題の所在を理解したうえで、食と農の倫理の思想と理念への認識を深めるとともに、その視点から課題の解決・緩和のための取り組みや制度を知ることが目的とする。
到達目標	① 食と農を取り巻く諸問題を理解することができる。 ② 食と農を取り巻く諸問題に対する倫理と思想を理解することができる。 ③ 課題の解決・緩和のための取り組みや制度を知ることができる。
授業方法と留意点	パワーポイント、板書等を用いて講義を行う。講義の開始前に予習用プリント等を配布するので、事前学習を行うこと。講義の理解度をはかるために小テストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	食と農の倫理	食と農の倫理をめぐる諸問題を概観する。(担当：小野雅之・谷口葉子)	事前：シラバスの理解
2	SDGs と倫理的消費	SDGs と倫理的消費の考え方を学ぶ。(担当：小野雅之)	事前：配布プリント等の予習 事後：小テストの復習
3	食料分配の不均衡と食への権利	世界的な食料分配の不均衡について食料安全保障の観点より理解し、食への権利という考え方を学ぶ。(担当：小野雅之)	事前：配布プリント等の予習 事後：小テストの復習
4	食料アクセス問題	食料への社会的・経済的なアクセス問題とその解消方法について理解する。(担当：小野雅之)	事前：配布プリント等の予習 事後：小テストの復習
5	食品ロスの削減	食品ロスをめぐる状況と削減に向けた取り組みを理解し、私たちができることを考える。(担当：小野雅之)	事前：配布プリント等の予習 事後：小テストの復習
6	企業の倫理とコンプライアンス	企業のCSR活動や、食品表示などの食にまつわる法規制へのコンプライアンス向上に向けた取り組みを理解する。(担当：小野雅之)	事前：配布プリントの予習 事後：小テストの復習
7	ソーシャルビジネスとCSV	社会的課題の解決を目的とする事業のあり方について理解する。(担当：小野雅之)	事前：配布プリント等の予習 事後：小テストの復習
8	農福連携と社会的包摂	就労支援の福祉サービスと農業との連携を通して展開される社会的包摂の取り組みについて学ぶ。(担当：小野雅之)	事前：配布プリント等の予習 事後：小テストの復習
9	寄付文化と応援消費	寄付行動の動向と災害時の応援消費を始めたとするエシカル消費について学ぶ。(担当：谷口葉子)	事前：配布プリント等の予習 事後：小テストの復習
10	ローカルフードシステム	食品流通の広域性にまつわる諸問題とローカルフードの取り組みについて学ぶ。(担当：谷口葉子)	事前：配布プリント等の予習 事後：小テストの復習
11	スローフード	食文化と食の多様性の保全について学ぶ。(担当：谷口葉子)	事前：配布プリント等の予習 事後：小テストの復習
12	食と持続可能性	近代的な食料生産システムがもたらしてきた環境面への影響やその緩和を目指した取り組みについて学ぶ。(担当：谷口葉子)	事前：配布プリント等の予習 事後：小テストの復習
13	アニマルウェルフェア	肉食の是非をめぐる議論や動物の福祉を守るための取り組みについて学ぶ。(担当：谷口葉子)	事前：配布プリント等の予習 事後：小テストの復習
14	公正と社会正義	農家や労働者の福祉の改善を目指したフェアトレードの取り組みについて学ぶ。(担当：谷口葉子)	事前：配布プリント等の予習 事後：小テストの復習
15	食のオルタナティブ運動	近代的な農業・食料システムに代わる新しい食のあり方について総括する。(担当：谷口葉子)	事前：配布プリント等の予習 事後：小テストの復習

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	農と食の新しい倫理	秋津元輝、佐藤洋一郎、竹之内裕文	昭和堂
	2	シビック・アグリカルチャー ～食と農を地域に取り戻す～	トーマス・ライソン	農林統計出版
	3	食の人権	伊藤恭彦編	リベルタス出版

評価方法 (基準)	各回の授業で実施する学習確認小レポート (70%) と期末レポート (30%) で評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室 (小野)、持続型フードシステム研究室 (谷口)
備考	

科目名	基礎経済学	科目名 (英文)	Basic Economics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	成 善政
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1010a0		

授業概要・目的	本講義は、食農ビジネス学科において、専門的研究を行うための基礎系科目として位置づけられた必修科目である。「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」の事前基礎科目としての本講義では、まず経済と経済学の基礎理論(原理と手法など)について講義を行う。その上で、我々を取り巻く現実の複雑な経済現象とさまざまな経済問題などについての分析と応用の能力を養う。また、現代経済における経済主体、すなわち家計、企業、そして政府の意思決定(経済活動)と役割に関する理論と手法、および国際経済学の理論と実態についても講義する。授業担当者は、農漁業経済新聞記者の経験を持ち、授業ではそれらの経験を踏まえた事例の紹介などを取り入れる。
到達目標	① 経済学の基礎理論(原理と分析手法など)について理解できる。 ② 経済理論と現実の経済との関係(関連)について理解できる。すなわち、理論と経済モデルの重要性と現実経済への適用・説明の難しさを理解できる。 ③ これらを通じて、現実のさまざまな経済問題(地域、国内、世界)を分析、応用・考察する能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	この科目は専門必修である。講義資料はできる限り講義日の1週間前までにTeamsにアップロードする。授業の理解度をはかるために、小テスト(数回)も実施する。シラバスを常に確認し、定められた事前・事後学習を必ず行うこと。受講生は必ず、講義日の日本経済新聞を読み(ウェブサイトでも読める)、日経平均株価と米ドルに対する日本円の為替レートを調べる(授業時間中に確認を行う)。

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション(高度資本主義社会と経済問題)	授業概要、学習目標、授業の進め方のほか、経済と経済学の定義、資本主義経済と民間部門、公共部門、経済主体と経済活動、経済学の方法、効率と公平、資源の希少性などの経済問題などについて講義する。	事前:シラバスの理解と、資本主義経済の特徴について調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
2	経済学の基本原理	経済主体のトレードオフ、機会費用の概念、限界原理、インセンティブ、交易と市場の役割、政府の機能、生産性、インフレーション、失業などについて講義する。	事前:経済用語に馴染めるためにも、テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
3	需要と供給理論(I):市場の機能	市場と競争、需要の作用(需要表、需要曲線など)、供給の作用(供給曲線、市場の供給など)、市場の均衡などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
4	需要と供給理論(II):市場と厚生	市場における需要と供給の弾力性(価格弾力性、所得弾力性、交差弾力性)、そして弾力性の応用などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
5	消費の経済理論	消費者余剰、市場の効率性と市場の失敗、そして課税の費用など、消費経済学について講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
6	生産の経済理論	生産と費用、生産関数、短期と長期の費用など、企業経済学について講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
7	税と効率・経済の公平、厚生経済理論	死荷重、税と効率、税と公平、効率と公平のトレードオフ、外部性の概念、厚生経済学、外部性と市場の非効率性、外部性に対する公共政策、コースの定理などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
8	小テスト(中間テスト)と解説によるまとめ	講義の理解度をはかるための小テスト(中間テスト)の実施とその解説などを行う。テストの時間は45分、残りは解説による今までの講義のまとめなどを行う。	事前:今までの講義の内容をテキストと配布資料などでしっかり理解し、中間テストに備えること。 事後:中間テストの内容をテキストや解説などで完全に理解すること。(4時間)
9	国民所得の測定	経済の所得と支出、国内総生産の測定、GDPの構成要素、名目GDPと実質GDPなどについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
10	生計費の測定	消費者物価指数(計算方法、生計費測定の諸問題、バスケットの中身など)、生産者物価指数、インフレーションの影響に対する経済変数の補正(異なる時点の金額、物価スライド制、実質利率と名目利率)などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
11	貯蓄、投資と金融システム	短期と長期の経済変動、経済変動に対する新古典派経済学の仮説、総需要と総供給のモデル、経済変動の原因などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
12	総需要と総供給(IS-LM分析)	IS-LMモデル分析、有効需要の原理、短期と長期の経済変動、経済変動に対する新古典派経済学の仮説、総需要と総供給のモデル、経済変動の原因などについて講義する。	事前:本講義において、最も難解な部分であるので、キーワードの意味をしっかりと調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること、テキストの関連章の応用問題を解くこと。(4時間)
13	生産と成長	主要国の経済成長、生産性の役割と決定	事前:生産と成長に関するキーワードの意味を調べ

			要因、生産開数、経済成長と公共政策、長期的成長の重要性などについて講義する。	ること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)																
	14	国際経済理論	生産可能性の原理、比較優位と絶対優位の理論、比較優位と交易、比較優位の応用例、国際貿易理論などについて講義する。	事前：国際経済に関するキーワードの意味を調べること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)																
	15	総まとめ	講義の総まとめ、現代経済学の潮流、経済理論で解決できない経済問題などについて講義する。	事前：各章の要約を読んで、しっかり理解すること。 事後：総まとめの資料を熟知することで、しっかり期末試験の準備をすること。(4時間)																
関連科目																				
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>講義 基礎経済学</td> <td>成 善政</td> <td>現代図書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	講義 基礎経済学	成 善政	現代図書	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	講義 基礎経済学	成 善政	現代図書																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入門経済学</td> <td>伊藤 元重</td> <td>日本評論社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>経済学</td> <td>山田 久</td> <td>実業出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	入門経済学	伊藤 元重	日本評論社	2	経済学	山田 久	実業出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	入門経済学	伊藤 元重	日本評論社																	
2	経済学	山田 久	実業出版																	
3																				
評価方法 (基準)	レポート3回(60%)、数回実施する小テスト(40%)で評価し、60%以上で合格とする。																			
学生への メッセージ	この科目は食農ビジネス学を勉強していくための最も基礎になる必修科目です。積極的な姿勢で、講義に臨み、Teamsなどを通じて質疑・応答にも積極的に参加していただきたい。																			
担当者の 研究室等	農業経済学研究室(8号館3階教員室314)																			
備考	指定の教科書を中心に授業を進めていきます。また、レポートなどの作成に必要なので、必ず指定の教科書を用意してください。																			

科目名	アグロ・エコロジー論	科目名 (英文)	Agro-ecology
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1011a0		

授業概要・目的	人びとの暮らしを支える農業（農耕、牧畜、狩猟採集、林業、漁業などを幅広く含む生業）は、それぞれの地域の気候や生態系および社会・経済・文化との密接な関わりの中で成立している。また、「風土」という言葉があるように、私たちが親近感（安らぎ、美しさなど）を感じる景観や生態系は、農業などの暮らしの営みのなかで形づくられてきた。本授業では、日本国内や海外の幾つかの地域の農業を参照して、それらと気候や資源・生態系（地形、植生、土壌など）および人びとによる働きかけとの関係を理解する。
到達目標	① 自然生態系と農業生態系の定義、類型、特徴を理解する。 ② 国内外のさまざまな生態環境や人間活動（農業や牧畜などの生業）との関わりとその総体である「風土」の成り立ちを知る。 ③ 現代社会が直面する諸問題を知り、その解決や未来社会の形成に向けて農業が果たしうる役割を考える。 ④ グループ討論や総合討論を通じて、共同作業による知識の共有や理解の深化を進める経験をする。
授業方法と留意点	パワーポイントや資料映像を用いる遠隔授業（Web 授業）を行う。遠隔授業は、ICT ツールとして【Teams】を用いてのリアル方式（時間割通りの曜日・時限に配信される教材や説明を受講する）とする。何らかの事情で受講できなかつたり通信不良が起こった場合には、非リアル方式（Web 上にアップした教材に随時アクセスする）でバックアップするなどの対応をとる。授業には、いくつかの質疑を織り込み、基本知識の理解度の確認と共有を図る。理解を深めるために、毎回の授業後にリアクションペーパー（授業レポート）を課す。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	農業生態系の基礎 (1)	自然生態系と農業生態系の定義、類型および基本的な特徴を理解する。	事前：シラバスの理解 事後：リアクションペーパーの作成と提出（授業日から5日以内）
2	農業生態系の基礎 (2)	農業生態系の構成要素（気候、植生、水、土壌など）と人間活動との関わりを理解する。	事後：リアクションペーパーの作成と提出（授業日から5日以内）
3	農業生態系の基礎 (3)	人為生態系（攪乱生態系）や農村景観、荒廃景観などから自然と人間活動（農業や牧畜、森林伐採、地形変化など）との関わりや風土の成り立ちを考える。	事後：リアクションペーパーの作成と提出（授業日から5日以内）
4	世界の風土と農業 (1)	西アフリカを事例に乾燥地・半乾燥地の農業と生態環境との関わりを知る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出（授業日から5日以内）
5	世界の風土と農業 (2)	環インド洋地域（南アジア、東アフリカ）を事例に亜湿潤地の農業と生態環境との関わりを知る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出（授業日から5日以内）
6	世界の風土と農業 (3)	東南アジアを事例に湿潤地の農業と生態環境との関わりを知る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出（授業日から5日以内）
7	日本の風土と農業 (1)	北海道、東北、関東、甲信越の生態環境と農業との関わりを知る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出（授業日から5日以内）
8	日本の風土と農業 (2)	近畿、四国、中国の生態環境と農業との関わりを知る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出（授業日から5日以内）
9	日本の風土と農業 (3)	九州、沖縄（島嶼地域）の生態環境と農業との関わりを知る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出（授業日から5日以内）
10	農業と環境問題 (1)	農業による生態環境（特に土壌、水、植生などの劣化や汚染）への影響と保全のあり方を知り、解決への糸口を探る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出（授業日から5日以内）
11	農業と環境問題 (2)	都市化や過疎化、高齢化に伴う生態環境や農業の変容状況と問題点を把握し、解決への糸口を探る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出（授業日から5日以内）
12	農業の未来	環境保全的な農業や社会的弱者層支援の取り組み事例を参照し、国内外の都市域や農村域の未来像と農業が果たす役割を考える。	事後：リアクションペーパーの作成と提出（授業日から5日以内）
13	グループ討論	授業やリアクションペーパーから抽出された課題についてのグループ討論および総合討論への準備作業を行う。	事前：抽出された課題群から割り当てられた課題についての予習 事後：リアクションペーパーの作成と提出（授業日から5日以内）
14	総合討論：日本の農業の特徴と課題	グループ討論から抽出された日本の農業に関する課題について、その特徴や解決策に関するグループ発表と質疑応答および討論を行う。	事前：総合討論の話題に関する予習 事後：関心ある課題についての総合レポートの作成と提出（講義日から7日以内）
15	総合討論：世界の農業の特徴と課題	グループ討論から抽出された世界（特にアジアやアフリカ）の農業に関する課題について、その特徴や解決策に関するグループ発表と質疑応答および討論を行う。	事前：総合討論の話題に関する予習 事後：関心ある課題についての総合レポートの作成と提出（講義日から7日以内）

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	季刊地域（バックナンバー各号）		

	2	宮本常一とあるいた昭和の日本 (全 25 巻)	監修：田村善次郎・宮本千晴	農山漁村文化協会
	3			
評価方法 (基準)	授業ごとのリアクションペーパー (授業レポート、70%) と総合レポート (30%) で評価し、60%以上を合格とする。			
学生への メッセージ	<p>(1) 農業や生態系を理解するには、授業や書籍から得る知識だけでなく、自身の感性を磨き働かせることも大切です。それは、必ずしも特別なことではなく、自身の日常の暮らしの風景 (地形、街並み、土地利用、植物、土、風、音、香りなど) とそれらの季節の移ろいに注意を向けることから始まります。</p> <p>(2) 教員の大切な仕事は学生との雑談だと思っています。当面は Web 経由になりますが、授業日 (毎週木曜日) の午後 14:00~17:00 をコアタイムとし、授業内容に関する質疑応答や雑談ができるようにします。希望があれば、コアタイム以外の日時でも対応するようにします。</p>			
担当者の 研究室等 備考	枚方キャンパス 8 号館 (農学部棟)・環境農学研究室 (213 号室)			

科目名	基礎統計学	科目名 (英文)	Basic Statistics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 葉子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1012a0		

授業概要・目的	統計学は世の中で起きている事象を限られたデータを用いて理解する上で役立つツールであり、社会で幅広く活用されている。本講義では、データのまとめ方（記述統計）や確率分布に関する理論、標本データから母平均や母比率を推定する方法や、2つの標本の代表値の差を検定する方法について学ぶ。また、相関分析や回帰分析を用いて2つの標本の関係性や因果関係を検定する方法を学ぶ。
到達目標	① データの代表値や散らばり指標の計算とその解釈ができる。 ② 標本から母平均や母比率の推定を行うことができる。 ③ 2標本の母平均や母比率の差の検定を行うことができる。 ④ 2変数を用いて相関分析や回帰分析を行うことができる。
授業方法と留意点	授業はパワーポイントと板書を用いて講義形式で実施する。教科書および配布プリントによる事前学習を必須とする。また、事後学習として練習問題に取り組むこと。成績は授業の中で実施する中間試験（第8回講義を予定）と定期試験の結果に基づき評価する。授業には毎回、教科書、配布プリント、電卓（8桁以上の表示ができ、ルート計算ができるもの。スマホ可）を持参すること。
科目学習の効果（資格）	統計学は様々な領域の学問にとって有用となる基礎的知識である。以降に学ぶ科目での予備知識となるだけでなく、卒業研究で取り組む社会調査や、社会人となってからのビジネススキルに大いに役立つものである。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	記述統計の基本(1)	度数分布表とヒストグラムの作成方法を理解する。	事前：教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後：練習問題による復習
2	記述統計の基本(2)	データの代表値の計算方法を理解する。	事前：教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後：練習問題による復習
3	記述統計の基本(3)	データの散らばりの指標の計算方法を理解する。	事前：教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後：練習問題による復習
4	確率変数と確率分布	確率変数の考え方とさまざまな確率分布について学ぶ。	事前：教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後：練習問題による復習
5	母集団と標本	標本平均や標本比率の分布について学ぶ。	事前：教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後：練習問題による復習
6	母平均の推定	標本から母平均を推定する方法を学ぶ。	事前：教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後：練習問題による復習
7	母比率の推定	標本から母平均を推定する方法を学ぶ。	事前：教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後：練習問題による復習
8	仮説検定の考え方・中間試験	仮説検定の考え方について学ぶ。 第1回～第7回の講義内容について中間試験を実施する。	事前：配布プリントを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後：練習問題による復習
9	母平均の検定	1変数による母平均の検定の方法について学ぶ。	事前：教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後：練習問題による復習
10	母比率の検定	1変数による母比率の検定の方法について学ぶ。	事前：教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後：練習問題による復習
11	母平均の差の検定	母平均の差の検定方法について学ぶ。	事前：教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後：練習問題による復習
12	母比率の差の検定	母比率の差の検定方法について学ぶ。	事前：配布プリントを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後：練習問題による復習
13	相関係数	相関係数の計算や検定の方法を学ぶ。	事前：教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後：練習問題による復習
14	回帰分析の基本	回帰分析の考え方や最小二乗法について学ぶ。	事前：教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後：練習問題による復習
15	回帰分析における仮説検定	単回帰分析における仮説検定の方法について学ぶ。	事前：配布プリントを読み、練習問題に取り組んでおくこと。

				事後：練習問題による復習
関連科目	情報リテラシーI 食農ビジネス学基礎演習 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	例題で学ぶ初歩からの統計学	白砂堤津耶	日本評論社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初めて学ぶ統計学	菅民郎	現代数学社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	中間試験 (50%) と定期試験 (50%) で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	初めはとっつきにくいと感じるかもしれませんが、繰り返し問題を解くうちに慣れてきます。練習問題をたくさん解きましょう。			
担当者の 研究室等	8号館 3階 教員室316 持続型フードシステム研究室			
備考	採点后、中間試験・定期試験の解答用紙を返却します (定期試験は希望者のみ)。 中間試験・定期試験は対面で実施します。 やむを得ず対面授業を欠席する場合は担当教員まで相談してください。			

科目名	食と農の近現代史	科目名 (英文)	Modern History of Food and Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小野 雅之
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1013a0		

授業概要・目的
 今日のわが国の農業・農村社会や食生活・食料消費は歴史的に形作られてきたものであり、その現状の特徴や課題を理解するためには、農業・農村社会や食生活・食料消費の歴史的な変遷について理解することが必要である。本講義では、近現代のわが国の農業・農村社会と食生活・食料消費の歴史的な変遷を画期区分し、それぞれの段階における経済・社会の状況、農業と食生活の状況と特徴、課題について、特に現代（第2次世界大戦後）を中心に講述する。そのことにより、今日の食料・農業の姿が形づくられてきた歴史的な経過に関する理解を深めることを目的とする。授業担当者は、地方自治体の農林技術部門における実務経験を持ち、授業ではその経験を踏まえた事例の紹介などを取り入れる。

到達目標
 ① わが国の経済社会の歴史的な変遷についての知識を得ることができる。
 ② わが国の農業・農村社会の歴史的な変遷についての知識を得ることができる。
 ③ わが国の食生活・食料消費の歴史的な変遷についての知識を得ることができる。
 ④ これらの知識をもとに、今日の農業や食生活・食料消費の姿が形づくられた経緯を理解することができる。
 ⑤ これらの知識を、これからの農業や食生活・食料消費のあり方を考えるために応用できるようになる。

授業方法と留意点
 配付資料、パワーポイント、板書等によって行う。授業内容の理解を深めるために、小テストや小レポートを実施する。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	わが国の農業と食生活の画期	ガイダンスと授業計画・授業方法の説明、農業と食生活の画期区分	事前：シラバスの理解 事後：農業・食生活の画期の確認
2	近世の社会と農業・農村	近世（江戸時代）の社会、近世の農業と農村の特徴	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
3	明治・大正期の経済・社会と農業・農村、食生活	明治・大正時代の社会と経済、地租改正と地主・小作関係の形成、農業の特徴、家族と生活、食料消費・食生活の特徴	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
4	昭和戦前期の社会・経済と農業、食生活	資本主義の形成と社会構造の変化、小作争議と地主制の動揺、農業生産力の発展、勤労者の形成と食生活、戦時体制下の農業と食生活	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
5	第2次大戦直後の社会・経済と食生活（第5回以降、対面授業で実施）	1945年～1950年代前半：第2次大戦後の社会、食料不足と食料援助、学校給食の開始	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
6	戦後改革・復興期の農業・農村	1945年～1950年代前半：第2次世界大戦の終了と戦後改革、農地改革と地主制、食糧増産政策と農業生産力の発展	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
7	高度経済成長期の社会・経済と食生活	1950年代後半～1960年代：高度経済成長と社会・経済の変化、家族の生活の変化、食生活の洋風化・高級化、スーパーの誕生と食料・農産物の流通の変化	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
8	高度経済成長期の農業・農村	1950年代後半～1960年代：農業基本法の制定と基本法農政の展開、農業・農村の変化、農産物輸入の本格化	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
9	安定成長期の社会・経済と食生活	1970年代～1980年代：安定成長への移行と社会・経済の変化、食料消費の成熟と多様化、日本型食生活への着目	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
10	安定成長期の農業・農村	1970年代～1980年代前半：高度経済成長から安定成長への移行、米過剰の発生と生産調整、農業・農村の変化	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
11	国際化時代の農業政策と農業	1980年代後半～1990年代前半：国際化と農業、内外価格差の拡大の農産物輸入の新たな傾向、「新しい食料・農業・農村政策の方向」と農業政策の転換、農業・農村の多面的機能への着目	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
12	WTO加盟と食料・農業・農村基本法	1990年代後半：ガット・ウルグアイラウンド交渉合意・WTO発足と農業への影響、食料・農業・農村基本法の制定	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
13	1990年代以降の社会と食生活	1990年代以降の社会、食の安全・安心への不安と不信、食の簡便化の進行、食をめぐる格差の拡大	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
14	2000年代の農業・農村	農業経営の減少と農業従事者の高齢化の進行、新たな農業の担い手の登場	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
15	食と農の変遷と将来	授業のまとめ	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本の農業 150年	暉峻衆三	有斐閣
2	消費者の歴史	田村正紀	千倉書房

	3	未来を語る日本農業史	野田公夫	昭和堂
評価方法 (基準)	定期試験または期末レポート (40%) と毎回の授業中小テスト・レポート (60%) で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室			
備考				

科目名	ミクロ経済学	科目名 (英文)	Microeconomics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦出 俊和
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1014a0		

授業概要・目的	経済学とは、現実の経済（生きるために必要な財・サービスを生産し、分配し、消費すること）を説明する学問であり、特にミクロ経済学では、個々の企業や家計といった経済主体の行動の分析や、市場における需要と供給の分析を通じて、現実の経済を理解する。本講義では、需要および供給の特質、市場における需要と供給の調整のしくみ、経済主体である家計および企業の行動を学ぶとことを通じて、ミクロ経済学の基本的知識と考え方を農学の視点から理解することを目的とする。
到達目標	① 経済循環と個々の経済主体（家計・企業・政府）の活動について理解する。 ② 需要と供給の特質を理解する。 ③ 市場における需要と供給の調整メカニズムについて理解する。 ④ 市場取引や市場均衡の意義を理解する。
授業方法と留意点	主に、板書による講義を行い、適宜、資料プリントを配布する。講義の理解度をはかるために、小テストを実施する。毎回、前回授業の復習を行うこと。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ミクロ経済学とは	ミクロ経済学で学ぶ内容や考え方を理解する。	事前：シラバスの理解
2	経済循環と経済主体	個々の経済主体との活動と経済循環構造との関係を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
3	需要曲線と供給曲線	需要曲線と供給曲線の定義とその意味を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
4	市場均衡	市場メカニズムによる需要と供給の調整を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
5	需要曲線と供給曲線のシフト	需要曲線と供給曲線のシフト要因と市場価格変動を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
6	価格規制	価格規制が市場に及ぼす影響について理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
7	価格弾力性	需要および供給の価格弾力性の定義とその決定要因を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
8	需要の価格弾力性の応用	需要の価格弾力性と支出額、税負担との関係を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
9	経済余剰分析	消費者余剰、生産者余剰の定義と市場均衡における経済余剰について理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
10	経済余剰分析の応用	経済余剰について、税金と補助金、関税と数量割当の比較を行う。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
11	市場の失敗	市場の失敗の意味とその要因を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
12	消費者行動の基礎	消費者行動に関する仮定と無差別曲線、効用関数を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
13	需要曲線の理論的背景	予算制約と効用最大化に基づいた需要曲線の導出を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
14	生産者行動の基礎	生産者行動に関する仮定と等量曲線、生産関数、費用関数を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
15	供給曲線の理論的背景	利潤最大化条件に基づいた供給曲線の導出を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	別途、指示する		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ミクロ経済学をつかむ	神戸伸輔・寶多康弘・濱田弘潤 著	有斐閣
2	マンキュー経済学 ミクロ編	N・グレゴリー・マンキュー 著	東洋経済新報社
3			

評価方法（基準） 講義内容についての学習確認小テスト（40%）、中間試験および期末試験（60%）で評価し、60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 地域マネジメント研究室

備考

科目名	マクロ経済学	科目名 (英文)	Macroeconomics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修B(食農ビジネス学科)
学期	前期	授業担当者	成 着政
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2015a0		

授業概要・目的	本講義は、食農ビジネス学科において、専門的研究を行うための基礎系科目として位置づけられた選択必修科目である。マクロ経済学は個別経済主体の相互作用の結果で発生する国民経済の総体的な現象を研究対象とする経済学の一分野で、分析対象は国民経済、または国家経済全体である。したがって、「基礎経済学」「ミクロ経済学」受講後となる本講義では、まずマクロ経済学的視点で、経済学の基礎理論(原理と手法など)について講義する。その上で、我々を取り巻く現実の複雑な経済現象とさまざまな経済問題などについての分析と応用の能力を農学の視点から養う。そして、現実経済において非常に重要なテーマである株式や投資信託などへの投資、公的年金、医療などの社会保障などについても講義と分析を行う。
到達目標	① マクロ経済理論の修得により経済全体の動きが理解できる。 ② 上記①により、経済理論を現実経済に応用(適用)する力を身につけることができる。 ③ 食料と農業(産業)を対象に、マクロ的な視点で経済分析ができる。
授業方法と留意点	講義を原則とし、プロジェクターを用いたスライド、映像や配付資料等に基づいて講義を進める。また、必要に応じて(できる限り、毎回)講義内容に関連したトピック(経済常識と時事問題など、主に、日本経済新聞の記事)も取り上げて講義を進めていく。受講生はシラバスを常に確認し、定められた事前・事後学習を必ず行うこと。そして、講義日の日本経済新聞を読み、日経平均株価と米ドルに対する日本円の為替レートを調べておくこと。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション(国民経済とマクロ経済学)	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の方法のほか、マクロ経済学の視点と対象、さまざまなマクロ経済モデル、マクロ経済学の研究方法などについて講義する。	事前:シラバスの理解と日本経済の現状について調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
2	国民所得の測定(GDP)	経済の所得と支出、国内総生産の測定、GDPの構成要素、名目GDPと実質GDPなどについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
3	生計費の測定	消費者物価指数(計算方法、生計費測定の諸問題、バスケットの中身など)、生産者物価指数、インフレーションの影響に対する経済変数の補正(異なる時点の金額、物価スライド制、実質利子率と名目利子率)などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
4	生産と成長	主要国の経済成長、生産性の役割と決定要因、生産関数、経済成長と公共政策、長期的成長の重要性などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
5	貯蓄、投資と金融システム	短期と長期の経済変動、経済変動に対する新古典派経済学の仮説、経済変動の原因などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
6	金融システム	米国と日本経済における金融機関、国民所得勘定における貯蓄と投資、貸付資金市場などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
7	ファイナンスの分析手法	貨幣の現在価値の計算方法、リスクの概念と管理、保険市場の役割、資産評価、市場の合理性などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
8	失業と景気	失業の概念と識別、職探しと公共政策、最低賃金法、労働組合、効率賃金理論などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
9	貨幣システムと中央銀行	貨幣の意味と機能、貨幣の種類、中央銀行、銀行と貨幣供給、中央銀行による貨幣供給調節手段などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
10	インフレーション理論	インフレーションの古典派理論、インフレーションのコスト、インフレーションの現実経済への影響などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
11	為替市場・株式市場	為替の概念、為替相場と為替市場、証券取引所の仕組み、株式の仕組み、為替相場決定理論などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
12	総需要と総供給(IS-LM分析)	IS-LMモデル分析、有効需要の原理、短期と長期の経済変動、経済変動に対する新古典派経済学の仮説、総需要と総供給のモデル、経済変動の原因などについて講義する。	事前:本講義において、最も難解な部分であるので、キーワードの意味をしっかりと調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知することと、テキストの関連章の応用問題を解くこと。(4時間)
13	財政政策と金融政策	財政政策と金融政策などの政策手段が市場(現実経済)に与える影響、年金・医療などの社会保障の経済分析などについて詳しく説明する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
14	マクロ経済政策	マクロ経済政策をめぐる6つの主要な	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べ

			論争（経済政策と経済の安定化、景気後退と減税、金融政策におけるルール、中央銀行の使命、財政均衡、貯蓄の促進）について講義する。	ること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。（4時間）
15	総まとめと日本と世界経済の行方		マクロ経済学の総まとめ、日本と世界経済の行方についての講義、そして定期期末試験の対策などを行う。	事前：テキストの関連章のキーワードの意味を調べること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。（4時間）
関連科目	基礎経済学、ミクロ経済学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マクロ経済学	吉川 洋	岩波書店
	2	マクロ経済学・入門	福田 慎一	有斐閣
	3	入門マクロ経済学	井堀 利宏	新世社
評価方法（基準）	小テスト3回(60%)、レポート(40%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生へのメッセージ	この科目は食農ビジネス学を勉強していくための基礎になる専門科目である。積極的な姿勢で、講義に臨み、Teams などを通じて質疑・応答にも積極的に参加していただきたい。			
担当者の研究室等	農業経済学研究室（8号館3階教員室314）			
備考				

科目名	農業簿記・会計学	科目名 (英文)	Agricultural Bookkeeping and Accounting
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浦出 俊和
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE2016a0		

授業概要・目的	農業経営を営む主体にとって、現在の経営の状態を正確に把握することは必須であり、それを計数で把握するためのツールが農業簿記であり、農業簿記・会計は、経営活動を取引として記録・分類・計算・整理に加えて、それらを評価して財務諸表を作成することを対象としている。本授業では、複式農業経営簿記を取り上げ、農業簿記会計に関する基礎的知識とその意義、農業特有の取扱いを踏まえた簿記記帳、決算時の会計処理、財務諸表の作成・分析について学ぶ。																																																																		
到達目標	① 農業経営における簿記・会計の役割と意義を理解する。 ② 複式簿記の記帳原理と計算方法を理解する。 ③ 複式簿記の記帳手続きを修得する。 ④ 決算手続きを修得し、財務諸表の作成が行える。 ⑤ 財務諸表に基づく経営分析方法を理解する。																																																																		
授業方法と留意点	主に、板書による講義を行い、適宜、資料プリントを配布する。講義の理解度をはかるために、小テストを実施する。毎回、前回授業の復習を行うこと。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>農業経営と農業簿記</td> <td>農業経営の課題と農業簿記の意義・目的を理解する。</td> <td>事前：シラバスの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>農業簿記の概要</td> <td>農業簿記の基礎的知識と簿記手続きの概要を修得する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>取引と勘定</td> <td>取引と勘定について理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>仕訳と転記</td> <td>簿記記帳方法を修得する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>試算表</td> <td>試算表の目的・機能・限界を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>勘定科目</td> <td>農業簿記における勘定科目について理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>収益と費用</td> <td>収益・費用の仕訳について理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>固定資産</td> <td>固定資産の評価と仕訳について理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>決算の意義と手続き</td> <td>決算の意義を理解し、決算手続きを修得する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>財務諸表の作成</td> <td>帳簿の縮切と財務諸表の作成手続きを修得する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>農産物の原価計算</td> <td>原価の意義と原価計算の目的を理解し、その手続きを修得する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>農業経営分析の意義と方法</td> <td>農業経営分析の意義と方法を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>収益性・生産性分析</td> <td>収益性分析・生産性分析の分析指標について理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>成長性分析・総合評価</td> <td>成長性分析・総合評価の分析指標について理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>キャッシュ・フロー計算書とその分析</td> <td>キャッシュ・フロー計算書の見方と経営分析方法について理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	農業経営と農業簿記	農業経営の課題と農業簿記の意義・目的を理解する。	事前：シラバスの理解	2	農業簿記の概要	農業簿記の基礎的知識と簿記手続きの概要を修得する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	3	取引と勘定	取引と勘定について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	4	仕訳と転記	簿記記帳方法を修得する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	5	試算表	試算表の目的・機能・限界を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	6	勘定科目	農業簿記における勘定科目について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	7	収益と費用	収益・費用の仕訳について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	8	固定資産	固定資産の評価と仕訳について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	9	決算の意義と手続き	決算の意義を理解し、決算手続きを修得する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	10	財務諸表の作成	帳簿の縮切と財務諸表の作成手続きを修得する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	11	農産物の原価計算	原価の意義と原価計算の目的を理解し、その手続きを修得する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	12	農業経営分析の意義と方法	農業経営分析の意義と方法を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	13	収益性・生産性分析	収益性分析・生産性分析の分析指標について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	14	成長性分析・総合評価	成長性分析・総合評価の分析指標について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	15	キャッシュ・フロー計算書とその分析	キャッシュ・フロー計算書の見方と経営分析方法について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	農業経営と農業簿記	農業経営の課題と農業簿記の意義・目的を理解する。	事前：シラバスの理解																																																																
2	農業簿記の概要	農業簿記の基礎的知識と簿記手続きの概要を修得する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
3	取引と勘定	取引と勘定について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
4	仕訳と転記	簿記記帳方法を修得する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
5	試算表	試算表の目的・機能・限界を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
6	勘定科目	農業簿記における勘定科目について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
7	収益と費用	収益・費用の仕訳について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
8	固定資産	固定資産の評価と仕訳について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
9	決算の意義と手続き	決算の意義を理解し、決算手続きを修得する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
10	財務諸表の作成	帳簿の縮切と財務諸表の作成手続きを修得する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
11	農産物の原価計算	原価の意義と原価計算の目的を理解し、その手続きを修得する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
12	農業経営分析の意義と方法	農業経営分析の意義と方法を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
13	収益性・生産性分析	収益性分析・生産性分析の分析指標について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
14	成長性分析・総合評価	成長性分析・総合評価の分析指標について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
15	キャッシュ・フロー計算書とその分析	キャッシュ・フロー計算書の見方と経営分析方法について理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>改訂 現代農業簿記会計</td> <td>古塚秀夫・高田理 著</td> <td>農林統計出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	改訂 現代農業簿記会計	古塚秀夫・高田理 著	農林統計出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	改訂 現代農業簿記会計	古塚秀夫・高田理 著	農林統計出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業中の小テスト (60%)、定期試験 (40%) で評価し、60%以上で合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等																																																																			
備考																																																																			

科目名	農業経営学	科目名 (英文)	Farm Business
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柳村 俊介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2019a0		

授業概要・目的	農業経営のあり方は、商工業と異なる特徴をもつとともに、国や地域の個性があらわれる。農業経営に関する多様な事象を認識するためには一般理論が欠かせない。本講義では、現代の農業経営の発展に関する理論を解説することを第一の目的とする。ただし、農業経営学を学ぶ目的は実際の農業経営活動やそこにひそむ問題を認識することであり、理論はそのためのものである。また、実態認識に裏付けられてこそ理論に対する深い理解が可能になる。そこで、我が国や諸外国を題材に農業経営に関わる様々な事象を取り上げ、実態と理論の関係を重視して講義をすすめる。
到達目標	① 農業経営学で用いる基本概念を理解できる。 ② 農業経営の企業形態、経営規模、経営組織、経営計画等の諸理論を学び、農業経営学の体系を認識する。 ③ 商工業と対比した農業経営の特徴、国・地域・時代によって異なる多様な農業経営のあり方を理解できる。 ④ 我が国の農業経営の動向と問題に関する認識を深め、課題解決の方向を体系的に考察できる。
授業方法と留意点	毎回資料を配布し、板書とスライドを用いて説明する。また予習・復習のための文献・資料を都度、配布する。授業内容の理解を深めるために下記の参考図書に目を通すことが望ましい。さらに参考図書以外にも農業専門雑誌や新聞等を通じて最近情報を得るように努めて欲しい。授業内容の理解を促し、その達成水準を把握するために定期試験に加え中間試験を行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	農業経営学の課題	我が国における農業経営の動向を概説しながら、農業経営学の課題を論じる。	事前：シラバスの理解
2	農業技術と生産力の動向	我が国の稲作を例に農業技術の変化を説明し、農業統計を用いて稲作生産力の動向を把握する。	事後：学習課題の学習
3	農業技術の特徴と農業経営	農業経営活動の基礎となる農業技術の特徴を説明した上で、近年のICTを活用した技術進歩に伴う農業経営の新たな可能性について考える。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
4	家族農業経営と農企業	農業経営の主流をなす家族経営と、近年注目を集める農企業について理論的に対比する。	事後：学習課題の我が国農業の企業形態
5	我が国農業の企業形態	農企業の事例を紹介しつつ、企業形態の多様化という点で、我が国農業が急激に変化していることを説明する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
6	農業経営の費用と収益	農林水産省が実施している農業経営統計調査に基づいて、農業経営の費用と収益に関する諸概念を解説する。	事後：学習課題の学習
7	農業経営統計の利用	農業経営統計調査の結果を利用して、農業経営の収支および主要農産物の生産費の動向を把握する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
8	中間試験/農業経営の規模	授業の前半に前回までの授業内容の理解度を問う中間試験を行う。後半では農業経営規模のとらえ方について学ぶ。	事前：第1回～7回の復習 事後：学習課題の学習
9	農業経営の規模拡大と集約化	農業経営の規模拡大と集約化の概念を解説する。また、規模および集約度の指標について説明し、それらを用いた経営分析の方法を紹介する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
10	農業経営組織のとらえ方	農業経営組織を把握する際に用いる諸概念について解説する。	事後：学習課題の学習
11	農業経営組織の形成	農業経営組織の形成に関する理論を解説する。また、農業経営組織の統計的把握、農業経営方式・農法等の関連事項について説明する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
12	農業経営の多角化	農業経営の多角化についての基礎知識を学ぶ。その上で、農業経営の複合化や6次産業化に関する最近の動向を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
13	農業経営の計画	農業経営計画の意義について理解した上で、農業経営の部門の組み合わせに関する線形計画法を学ぶ。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
14	農業経営と政策	農業経営に関する政策について解説する。政策の対象や効果に関する一般的知識とともに、我が国農政の動向を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
15	農業経営の継承	講義のまとめとして、農業経営の次世代継承を取り上げる。我が国と海外の状況について概説した上で、問題解決方法について考える。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習

関連科目 農業経営管理論、農業簿記・会計学、食農ビジネス最前線、食農ビジネス実践論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	農業経営概論	大泉一貫・津谷好人・木下幸雄ほか	実教出版
	2	新版 キーワードで読みとく現代農業と食料・環境	小池恒男・新山陽子・秋津元輝編	昭和堂
	3	食料・農業・農村白書（各年度版）	農林水産省 編	農林統計協会
評価方法 （基準）	オンライン授業が続くことを考え、2回、レポートを課す。合計100点を満点とし、60点以上で合格とする。そのほかに毎回小テストをおこなう。これは受講確認のためにおこなうもので、15回のうち12回以上小テストに解答しなければ成績評価の対象としない。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	8号館・3階・教員室315			
備考				

科目名	食料・農業経済学	科目名 (英文)	Food and Agricultural Economics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修B(食農ビジネス学科)
学期	前期	授業担当者	吉井 邦恒
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2020a0		

授業概要・目的	食料は人間が生きていく上で必要不可欠であるが、個人の消費能力には限界がある。このような食料の必需性と飽和性、さらには自然条件に左右される農業生産の不安定性や乏しい貯蔵性等から、農業や食料関連産業は、一般の商工業とは異なる特徴を有している。本講義では、このような食料・農業の特殊性を踏まえながら、食料消費の動向、農業及び食料関連産業の現状と問題点・課題等について、経済学的な考え方にに基づき、理解し考察する。授業担当者は、中央政府の行政官としての実務経験を持ち、授業ではその経験を踏まえた事例の紹介などを取り入れる。
到達目標	① 食料・農業経済学で用いられる基本概念と経済理論を理解する。 ② 食料・農業経済の活動を生産から消費までのフードシステムとしてとらえて理解する。 ③ 経済学に基づく分析には、理論的な定量的な分析とデータを用いた定量的な分析の両方が必要であることを理解する。 ④ 行政機関や企業・団体の農業・食料・食品部門の担当者とのコミュニケーションに必要な食料・農業経済学に関する基礎知識を身につける。
授業方法と留意点	資料プリントを配布し、スライドと板書を用いて講義形式で行う。教科書や配付資料等により、予習・復習を行うこと。 ふりかえりシート(毎回)のほか、小テストやレポートにより、授業の理解度を把握する。 質問等には、授業後やオフィスアワー、電子メールで対応するので、積極的に利用すること。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	農業・食料関連産業の経済計算	農業・食料関連産業の経済活動と食用農水産物の生産から飲食料の最終消費に至る流れについて、理解する。	事前：シラバスの理解 事後：講義資料に記載した内容を学習する。
	2	食料需要の経済理論	ミクロ経済学を用いて、食料需要の決定メカニズムや食料の特性について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	3	食料消費構造の変化と要因	食の外部化、簡便化等の食料消費構造の変化とその要因について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	4	人口・世帯構成と食料消費	人口構成・世帯構成の違いや変化が食料消費に及ぼす影響について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	5	食料供給の経済理論	ミクロ経済学を用いて、完全競争市場と独占市場における生産量の決定メカニズムについて、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	6	食品製造業の現状と特徴	食品製造業の産業としての特徴について、製造業一般と比較しながら、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	7	生鮮食料品の流通と市場	生鮮食料品の流通における市場の役割と食品流通業の産業として特徴について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	8	外食産業の現状と特徴	外食産業の産業としての特徴について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	9	食の外部化と中食産業	食の外部化に伴う中食産業の成長について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	10	世界食料需給と食料自給率	世界の人口・食料生産・食料消費と各国の食料自給率の動向について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	11	米の生産と流通・消費	米の生産と流通・消費の動向について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	12	野菜・畜産物の生産と流通・消費	野菜・畜産物の生産と流通・消費の動向について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	13	農林水産物・食品の貿易	農林水産物・食品の輸入及び輸出の動向について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	14	食品の安全性と表示	食品の安全性と表示に関する規制について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
	15	食品ロスと環境問題	食品ロスと廃棄物のリサイクルについて、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。

関連科目 基礎経済学、ミクロ経済学、食農共生論、フードシステム論、食農ビジネス学基礎演習Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	フードシステムの経済学 第6版	時子山 ひろみ, 荏開津 典生, 中嶋 康博	医歯薬出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食料・農業・農村白書(各年度版)	農林水産省編	農林統計協会
	2	その他、必要に応じて紹介する		
	3			

評価方法(基準) ①期末レポート50%、②小テスト・小レポート・ふりかえりシート50%で評価し、①と②を合計して60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ 新聞、テレビ、インターネットなど、情報を得る手段は何でもよいので、身近にある食料・農業に関する情報に関心を持つようにしましょう。

担当者の研究室等 食料・農業政策学研究室(農学部2階214)

科目名	食料・農業・農村政策論	科目名 (英文)	Food, Agriculture and Rural Area Policy
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修B(食農ビジネス学科)
学期	後期	授業担当者	吉井 邦恒
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2021a0		

授業概要・目的
日本をはじめ、アメリカやEU等の先進国では、国内総生産に占める農業の割合は低くなっているものの、農業・農村を守るため、多額の予算が投入されている。食料自給率が4割を下回り、農業従事者も減少・高齢化する等、日本の農業は様々な課題を抱えているが、一方で良質で安全安心な農産物の供給や地域社会の維持・活性化に寄与している。本講義では、わが国の食料・農業・農村の現状を把握した上で、諸問題に対応するために講じられている政策について、内容を整理し、経済的効果を考察する。授業担当者は、中央政府の行政官としての実務経験を持ち、授業ではその経験を踏まえた事例の紹介などを取り入れる。

到達目標
① 日本の食料・農業・農村の基本的な特徴や主な食料・農業・農村政策の内容を理解する。
② 日本の食料・農業・農村政策の変遷とその背景にある食料・農業・農村の状況の変化を理解する。
③ 国際的な視点から、日本の食料・農業・農村の動向と食料・農業・農村政策を理解する。
④ 行政機関や企業・団体の農業・食料・食品部門の担当者とのコミュニケーションに必要な食料・農業・農村政策に関する基礎知識を身につける。

授業方法と留意点
資料プリントを配布し、スライドと板書を用いて講義形式で行う。配付資料等により、予習・復習を行うこと。ふりかえりシート(毎回)のほか、小テストやレポートにより、授業の理解度を把握する。質問等には、授業後やオフィスアワー、電子メールで対応するので、積極的に利用すること。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	農業基本法と農政の変遷	農業基本法の下で展開されてきた食料・農業・農村に関する施策の変遷と食料・農業・農村基本法について、理解する。	事前：シラバスの理解 事後：講義資料に記載した内容を学習する。
2	食料消費構造と食料自給率	食料消費構造の変化と食料自給率の低下の要因について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
3	農業の担い手と農業構造	農業経営体、農地面積等の動向や望ましい農業構造について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
4	農産物価格政策と経営安定	農産物の価格安定を図る制度及び農業経営を安定させる制度の仕組みと経済的効果について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
5	米政策の変遷	農政の中心に位置してきた米政策の変遷と経済的効果について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
6	農地政策と農業農村整備	農地の確保及び有効利用のための政策の変遷・仕組みと農業生産性向上のための基盤整備事業について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
7	担い手政策と農村振興	担い手の育成・確保対策と多面的機能の発揮を促進するための施策について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
8	農業技術革新	コスト削減や高付加価値化のための技術革新・IT農業について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
9	農産物流通・食品安全政策	農産物流通における卸売市場の機能と食品の安全性確保対策・食品表示について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
10	農業団体	農業協同組合、農業委員会、農業共済組合等の農業団体の機能について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
11	アメリカの農業と農業政策	アメリカの農業構造と農業法に基づく農業政策の変遷について、日本と対比しながら理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
12	EUの農業と農業政策	EUの農業構造と共通農業政策の変遷について、日本と対比しながら理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
13	農業保護と国際交渉	これまでの国際交渉における農業保護政策の取り扱いについて、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
14	輸出促進と知的財産	日本の農産物貿易の動向・輸出促進のための施策と地理的表示保護制度等の知的財産保護について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
15	農業予算と政策評価	農業予算の変遷と食料・農業・農村政策に対する政策評価手法について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。

関連科目 食と農の近現代史、食農共生論、フードシステム論、食料・農業経済学、食農ビジネス学基礎演習Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特に指定しない		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食料・農業・農村白書(各年度版)	農林水産省編	農林統計協会
2	その他、必要に応じて紹介する			
3				

評価方法 (基準)	①期末レポート 50%、②小テスト・小レポート・ふりかえりシート 50%で評価し、①と②を合計して 60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	新聞、テレビ、インターネットなど、情報を得る手段は何でもよいので、身近にある食料・農業に関する情報に関心を持つようにしましょう。
担当者の 研究室等	食料・農業政策学研究室（農学部 2 階 214）
備考	

科目名	農業経営管理論	科目名 (英文)	Farm Business Management
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修B(食農ビジネス学科)
学期	後期	授業担当者	柳村 俊介
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2022a0		

授業概要・目的
現代の農業経営は、家業の継続にとどまらず、周到かつ発展的な経営戦略を確立し、それを実行することが求められている。その基礎をなすのが経営管理である。本講義では、経営の基本となるモノ・ヒト・カネに関わる管理分野を取り上げ、経営管理問題が顕在化した背景と経営管理の課題・方法について解説する。農業経営管理は1990年代以降に論じられるようになった領域である。企業的農業経営が広がり、積極的な事業展開が見られるようになったことが、農業経営管理論の創成を促した。本講義では、1990年代以降の農業経営の動向に注意を払いながら、一般経営学における経営管理論と共通する領域と農業経営の特質を反映した独自の領域とを識別し、農業経営管理を体系的に論じる。

到達目標
① 農業経営学(必修科目)に加え本講義を履修することにより、農業経営活動の実際について深く理解する。
② 農業経営管理の重要分野であるモノ・ヒト・カネの管理問題を体系的に理解し、農業経営管理の全体像を把握する。
③ 経営管理の観点から、実際の農業経営が抱える問題を分析し、経営改善の方向を考えることができる。
④ 農業経営管理を担う経営者の機能を理解し、明確な農業経営者像を示すことができる。

授業方法と留意点
毎回の授業で資料を配布し、板書とスライドを用いて説明する。また予習・復習のための文献・資料を都度、配布する。授業内容の理解を深めるために下記の参考図書に目を通すとともに、農業専門雑誌・新聞等を通じて最近情報を得ることが望まれる。授業内容の理解度ををはかるための問題を含めたレポートを中間・期末の2回行う。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	農業経営管理論の課題	農業経営管理が重視されるようになったのは比較的最近である。その背景を概観し、農業経営管理論の課題を解説する。	事前：シラバスの理解
2	農業生産の特質とその管理	農業生産の特質をふまえ、工業生産と対比した農業における生産管理の特徴とその重要項目を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
3	生産技術の進歩と新たな生産管理	近年におけるICTを活用した農業技術と生産管理手法を学び、今後の可能性について考える。	事後：学習課題の学習
4	農産物のマーケティング	農産物マーケティングの特徴や最近の動向について学び、農業経営が取り組むべき課題を考える。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
5	農業労働力の特質	長期的な動向を視野に入れながら、農業労働力の調達と従事、関連する法制度等の基本事項を学ぶ。	事後：学習課題の学習
6	農業者の能力形成の特徴	経営者能力と技能の観点から農業者の能力形成を論じる。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
7	農業における人的資源管理の課題	伝統的家族経営と比較しながら、近代的家族農業経営および農企業における人的資源管理の課題を解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
8	農業経営の資金循環	経営と家計が未分離状態にある農家経済を取り上げ、農業経営の資金循環の一般的状況を理解する。	事前：第1回～7回の復習 事後：学習課題の学習
9	農業経営と金融システム	農業経営を取り巻く金融システムについて概説したうえで、我が国における農業金融システムの動向を説明する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
10	農業経営の財務・資金管理の課題	農業経営と金融システムの双方が変貌する下で必然化する、農業経営の財務・資金管理に関する新たな課題を論じる。	事後：学習課題の学習
11	農業法人制度の推移	諸外国との比較を交えながら、我が国における農業法人制度の変遷について解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
12	農業経営の企業形態選択	農業経営の企業形態が多様化する下で、経営管理の課題として企業形態の選択問題が浮上している。問題の捉え方について解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
13	地域農業の諸タイプ	農業経営の事業は個別経営の内部で完結せず、周囲の農業経営との共同や農協等の共・公セクターが重要な要素となる場合が多い。国・地域によってその様相は異なるので、地域農業の諸タイプを整理する。	事後：学習課題の学習
14	地域農業のマネジメント	地域農業のマネジメントが農業経営における重要な管理課題となるので、その要点を解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
15	農業における経営戦略	講義のまとめとして、農業経営戦略の考え方とその構築について解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習

関連科目 農業経営学、農業簿記・会計学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	戦略的農業経営	渋谷征男	日本経済新聞社
	2	動き始めた「農企業」	小田滋晃・長命洋佑・川崎訓昭	昭和堂
	3	アグリビジネス進化論	トーマツ農林水産業ビジネス推進室	プレジデント社
評価方法 (基準)	提出されたレポート(2回)を2回提出してもらい、合計点で評価とする。100点を満点とし、60点以上で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	8号館・3階・教員室 315			
備考				

科目名	農村社会学	科目名 (英文)	Rural Sociology
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柳村 俊介
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE2023a0		

授業概要・目的
 イエとムラを軸に形成された我が国の伝統的な農村社会は長期にわたる安定性を示し、日本社会の基層をなしてきた。このような我が国農村の特質を海外と比較しながら認識するとともに、急激な変化を示す農村の実態をとらえること、そして政府の政策を含め、新たな農村づくりに向けた諸々の取り組みについて理解を深めることが本講義の目的である。イエとムラをどのように理解するかは、長い歴史をもつ我が国農村社会学の最大のテーマであり、多くの研究蓄積がある。これら学説の要点を説明しながら、我が国の伝統的な農村社会を説明する。一方、このような伝統社会は安定的であったがゆえに、変化が始まるとその速度は急である。変化の諸相を説明しながら農村コミュニティの近未来像を考える。農村の内外にわたる多様な主体が農業と農村社会に関わりながら、農業・農村の多面的機能を維持・発展させるためにつくられる仕組みを考察する。

- 到達目標**
- ① 農村社会学が扱ってきた問題群と代表的な学説を理解する。
 - ② 我が国の農村社会を構成してきたイエとムラについて深い認識をもつ。
 - ③ 我が国と海外における農村社会の変化とそこで生じる問題についての知識をもつ。
 - ④ 農村コミュニティの近未来像について、その主体・組織・仕組みについて考える力をもつ。

授業方法と留意点
 毎回の授業はテキストを1章ずつ熟読する。各章は10前後の項目に分かれる。各項目について担当者を割り当て、要約を中心に報告してもらう。また教員から事前にポイントを示すので、各章の担当者のグループはそれについて調べ、考察を深める。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	農村社会学の課題	農村社会学が誕生した背景に触れながら、海外および我が国における農村社会学の課題について解説する。	事前：シラバスの理解
2	農村の空間と資源	都市と分離された農村空間の特質を説明した上で、農村資源の種類とその利用や保全に関する諸特徴について論じる。	事後：学習課題の学習
3	農業・農村の多面的機能	「農業・農村の多面的機能」が注目されるようになった背景を説明し、その価値評価や保全方法・政策について説明する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
4	伝統的農村家族	伝統的農村家族が多様であることを説明した上で、代表的な学説の紹介を交えて我が国のイエについて解説する。	事後：学習課題の学習
5	農村家族の変容	農村家族の変容についての一般的な説明をした上で、我が国のイエの変容について詳しく論じる。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
6	農村の伝統社会	農村伝統社会のあり方が多様であることを説明した上で、代表的な学説の紹介を交えてイエと結びついた我が国のムラについて解説する。	事後：学習課題の学習
7	農村伝統社会の変容	農村伝統社会の変容についての一般的な説明をした上で、我が国のムラの変容について、イエの変容と関連させて論じる。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
8	農業近代化と農村政策	授業の前半に前回までの授業内容の理解度を問う中間試験を行う。後半では、農業近代化と農村政策について一般的な説明をした後、1961年の農業基本法前後の農政について詳しく論じる。	事前：第1回～7回の復習 事後：学習課題の学習
9	農業構造調整と農村政策	農業近代化のみならず、農業構造調整の課題は広範囲に及ぶ。その観点から、EUを中心とする海外と我が国の農村政策の動向を論じる。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
10	農村女性問題	伝統的農村社会が克服すべき問題のひとつとして農村女性問題が挙げられる。問題の構図、農村での取り組み、政策について説明する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
11	高齢化する農村と福祉問題	顕著に高齢化によって表面化したのが高齢者福祉問題である。問題構図を説明した上で、その対応方向について説明する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
12	農村移住と新規農業参入	農村社会と農業の担い手を確保するために外部からの人材確保が重要な課題となっている。その取り組みについて解説する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
13	農村環境問題	農業近代化はしばしば深刻な環境問題を引き起こす。農村環境問題を網羅的に説明し、その改善と環境保全について論じる。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
14	農業・農村問題に対する消費者との連携	農業・農村問題に対する消費者の関心が高まっており、問題解決に向けて消費者との連携が不可欠である。リスク社会論や食料社会学等の近接分野の成果を紹介しながら、消費者との連携について論じる。	事後：学習課題の学習
15	新たな農村コミュニティの形成	本講義のまとめとして、農村社会における多様な主体、消費者やNPO、企業等と	事後：学習課題の学習

			の連携を含む、新たな農村コミュニティのあり方を論じる。	
関連科目	地域マネジメント論、社会調査論、農村コミュニティビジネス論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本の農村—農村社会学に見る東西南北—	細谷昂	ちくま新書
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	むらの社会を研究する	日本村落研究学会	農山漁村文化協会
	2	むらの資源を研究する	日本村落研究学会	農山漁村文化協会
	3	農山村は消滅しない	小田切徳美	岩波書店（新書）
評価方法 （基準）	授業中の発表等と提出されたレポート（2回）で成績を評価する。発表等40%、レポート30%+30%の比率で総合し、最終評価とする。100点を満点とし、60点以上で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	8号館・3階・教員室315			
備考				

科目名	6次産業経営論	科目名 (英文)	Sextiary Industry Management
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	成 春政
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE2024a0		

授業概要・目的	本講義は、食農ビジネス学科において、農業経済・経営分野の専門科目として位置づけられた選択科目の一つである。本講義では、主に、日本農業における大きな可能性ともいえる6次産業（1次産業：生産物の生産×2次産業：農産加工・製造業など×3次産業：生産物や外注加工品の流通その他の利用など）を対象にさまざまな経営学的手法と理論からアプローチを行う。そして、6次産業の制度的仕組み、政策的支援、実態と課題、今後の可能性などについて講義を行う。
到達目標	① 6次産業経営のための基礎的経営理論を理解できる。 ② 農の6次産業化の制度的仕組みと実態が理解できる。 ③ 付加価値を高めることで、所得と雇用の場を確保し、農村地域の活性化という6次産業化の目的を理解できる。 ④ ケーススタディの手法について理解できる。
授業方法と留意点	講義室での講義を原則とし、プロジェクターを用いたスライド、映像や配付資料等に基づいて講義を進める。また、必要に応じて講義内容に関連したトピックも取り上げて講義を進めていく。受講生はシラバスと担当教員から提示された事前・事後学習を必ず行うこと。とくに注意事項として、レポートの配点が高い（30%）ので、提示されたテーマに対してしっかり調べ、レポートを作成・提出すること。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション (6次産業化と日本農業・地域活性化)	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価の方法のほか、日本農業の現状、6次産業化による農業・農村地域活性化などについて講義する。	事前：シラバスの理解と日本農業の現状などについて調べること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
2	6次産業化の理解 (I) - 背景、概念 -	日本における6次産業化が必要な根拠、背景、発想の根拠、概念などについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
3	6次産業化の理解 (II) - 政策、現況、課題 -	6次産業化に対する国の政策と支援、現況、主な基本課題などについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
4	6次産業のビジネスモデル	ビジネスモデルに対する概念的考察、ビジネスモデルの開発、6次産業化のビジネスモデルをコミュニティタイプ、プランチャイズタイプ、そしてネットワークタイプに分けて、その適用などについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
5	6次産業経営組織論	6次産業経営を対象にし、そのモチベーション、リーダーシップ、組織デザイン、組織構造、組織文化と意思決定、組織学習などについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
6	6次産業戦略論 (I) - ブランド戦略 -	経営戦略の基礎、ブランドの概念と地域ブランドの構築とその手法、特徴、課題などについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
7	6次産業戦略論 (II) - 成長戦略 -	成長戦略に関する基礎概念、市場での優位性の確保、新製品・サービスの開発の手法と課題、新市場の開拓、新規価値の創造などについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
8	事業計画書の作成	事業計画の動機 (資源、市場と分野、事前調査)、事業アイデア、実際の計画書の作成、注意事項、良い例、悪い例などについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
9	6次産業化と商品開発	商品開発の概念、プロセス、マネジメント、デザイン、商品開発の求められるスキルなどについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
10	6次産業化と知的財産	知的財産に関する基本概念 (定義、分類、必要性) の考察、6次産業に対する知的財産の評価手法 (間接的評価手法と直接的評価手法) の考察、知的財産評価の事例分析 (背景、管理体制、課題など) などについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
11	ケーススタディ (I) - 地域自給向上型 -	地域自給向上型6次産業経営を対象に、経営の概要、取り組みに至った経緯、課題と対応策、取り組みの効果、そして今後の展望などについてケーススタディを行う。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
12	ケーススタディ ((II) - 農業経営向上型 -	農業経営向上型6次産業経営を対象に、経営の概要、取り組みに至った経緯、課題と対応策、取り組みの効果、そして今後の展望などについてケーススタディを行う。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
13	ケーススタディ (III) - 地域食品産業発展型 -	地域食品産業発展型6次産業経営を対象に、経営の概要、取り組みに至った経緯、課題と対応策、取り組みの効果、そして今後の展望などについてケース	事前：担当教員より事前に提示された課題をやってくること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)

			タディを行う。	
	14	第4次産業革命と6次産業経営	第4次産業革命の概要、農業・農村コミュニティに及ぼす影響、とくに、6次産業経営への影響、具体的な対応策と課題、展望などについて講義する。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
	15	総まとめと定期試験対策	6次産業経営論の総まとめと定期期末試験の対策などを行う。	事前：担当教員より事前に提示された課題をやること。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知し、しっかり定期試験対策を行うこと。(4時間)
関連科目	農業経営学、農業経営管理論、食品産業論など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地域からの六次産業化	室屋 有宏	創森社
	2	農の6次産業化と地域振興	熊倉 功夫	春風社
	3	六次産業化の実践	高橋 信正	筑波書房
評価方法 (基準)	オンライン形式による定期試験(40%)、レポート(30%)、授業後の確認テスト(30%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	積極的な姿勢で授業に臨み、質疑・応答にも積極的に参加していただきたい。			
担当者の 研究室等	8号館3階314研究室			
備考				

科目名	フードシステム論	科目名 (英文)	Economics of Food System
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	濱田 英嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1027a0		

授業概要・目的	農漁業生産からそれら生産物を取り扱う流通業を経由して、川下の食品小売業、外食産業さらに最終需要者である消費者に至る食料品全体の流れをフードシステムとして理解する。生産現場から食卓に至る過程を社会的分業という視点にたつて、フードシステムを構成している生産者、中間流通業者、小売業者それぞれがどのような役割(機能分担)を演じているのかを総合的に学ぶ。さらに、魚離れ問題に代表される日本人の食生活・食文化の崩壊・食品需要の縮減の中で、新たに取り組みされている農水産物の輸出や消費者に対する食育についても理解を深める。
到達目標	① フードシステム(生産者、中間流通業者、小売業者)それぞれの役割分担が理解できる。 ② 一次産業の現状について理解できる。 ③ なぜ、食料品の価格変動が工業製品に比べ激しいのか、需給構造等から説明できる。 ④ 魚屋などの家族経営が減少し、食品スーパーなどに小売業が移行したことが理解できる。 ⑤ 食の外部化のメリット、デメリットについて説明することができる。
授業方法及び留意点	講義内容に沿って必要資料などを組み込み、わかり易い授業を心がける。 講義の理解度をはかるため授業終了時に適宜課題を提示するので、レポートを作成すること(1時間)。また、事前学習内容と準備すべき点を毎回指示するので予習を行うこと(1時間)。

科目学習の 効果(資格)	
-----------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	フードシステムの概要	我が国のフードシステムを構成する業種・業態の概要(社会的分業)を説明する。	事前: シラバスの理解
2	農漁業担い手問題	一次産業の衰退とその背景を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
3	低い食料自給率	輸入農水産物の流入経緯と一次産業への影響を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
4	中間流通の仕組み	卸売市場流通の誕生とその仕組みを理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
5	中間流通の変化	市場外流通の進展と卸売市場の変容を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
6	専門小売店の衰退	専門小売店の衰退とスーパーチェーンの成長を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
7	スーパーチェーンの成長理由	スーパーチェーン組織の仕組みと運営を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
8	スーパーチェーンの取引実態	スーパーチェーンの売買取引と価格形成への影響を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
9	中食・外食産業	中食・外食産業の成長を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: レポートの提出
10	食生活の変貌	文化的消費から文明的(記号価値)消費への移行を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
11	社会問題としての食料消費	飽食・豊食と食育の必要性を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
12	和食文化	肉食文化と米・魚食文化の比較と背景を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
13	トレーサビリティ	食の安全・安心につながるトレーサビリティについて理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
14	食育基本法	食の乱れに対し、国が制定した食育基本法について理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習
15	食をめぐる生産・流通・消費の展望	フードシステム問題の総括	事後: 学習課題の学習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	フードシステムの経済学	時子山ひろみ・荏開津典生・中嶋康博	医歯薬出版株式会社
2				
3				

評価方法(基準)	毎回の小テスト 30%、対面による課題提出が 70%
----------	----------------------------

学生へのメッセージ	フードシステム論で身近な食を色々な観点から深く学びましょう。
-----------	--------------------------------

担当者の研究室等備考	8号館2階 食品産業研究室(217)
------------	--------------------

科目名	食品産業論	科目名 (英文)	Food Industry
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修B(食農ビジネス学科)
学期	前期	授業担当者	濱田 英嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2028a0		

授業概要・目的	農漁業、食品製造業、外食産業、食品流通業等で構成される食品産業の就業者数は我が国産業全体の約20%を占め、重要な産業として位置している。本講義では食品産業の多様性や特徴について、個別業種の技術革新や競争構造さらに市場戦略などを含め総合的に学び、食品ビジネスに関する理解を深める。また、食生活に密着した食品産業の特色として、その盛衰が消費者ニーズの変化に大きく関係していることから、家庭・家族の変容(単身世帯・高齢化・女性の社会進出等)や食生活の変化に食品産業がどのように対応してきたかについても学ぶ。																																																																		
到達目標	① 戦後から高度経済成長を経て低成長に至った日本経済について理解する。 ② 日本経済の状況変化の中で、家族・家庭と食生活がどう変化したのか理解する。 ③ 家族・家庭構造の変化とともに、食品産業がどう推移したのか理解する。 ④ 食品市場が文化的消費から合理的な文明的消費に推移したか、説明できる。 ⑤ 食品産業が近代的な食品産業に推移していることが理解できる。																																																																		
授業方法と留意点	パワーポイント、板書を主に講義を行い、資料プリントを配布する。講義の理解度をはかるために、中間テストとレポートを実施する。また、指示された事前学習を行うこと。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>食品産業の構成主体</td> <td>食品産業の枠組を理解する。</td> <td>事前：シラバスの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>産業構造の変化</td> <td>日本経済の推移と一次産業の地位変化を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>核家族化</td> <td>社会構造の変化と家族・家庭構造の推移を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>食の簡便化</td> <td>食生活の全般的推移を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>業種から業態への移行</td> <td>食品スーパーの成長を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>肉食比率の低下</td> <td>外食・中食の成長を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>原料調達先の変化</td> <td>加工業から製造業への移行(食品製造業の規模等)を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>個別業種</td> <td>小麦粉製造業の歴史と特徴を理解する。1～7回授業に関する中間テストの実施。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>個別業種</td> <td>肉製品業の歴史と特徴を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>個別業種</td> <td>ビール製造業の歴史と特徴を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>個別業種</td> <td>清酒製造業の歴史と特徴を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>個別業種</td> <td>即席麺製造業の歴史と特徴を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>個別業種</td> <td>水産練製品業の歴史と特徴を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>個別業種</td> <td>カツオ節・加工海苔業の歴史と特徴を理解する。</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>食品産業の盛衰</td> <td>食品市場(マーケット)の変容と食品産業の盛衰を理解する。</td> <td>事後：レポートの提出</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	食品産業の構成主体	食品産業の枠組を理解する。	事前：シラバスの理解	2	産業構造の変化	日本経済の推移と一次産業の地位変化を理解する。	事前：学習範囲の予習	3	核家族化	社会構造の変化と家族・家庭構造の推移を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	4	食の簡便化	食生活の全般的推移を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	5	業種から業態への移行	食品スーパーの成長を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	6	肉食比率の低下	外食・中食の成長を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	7	原料調達先の変化	加工業から製造業への移行(食品製造業の規模等)を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	8	個別業種	小麦粉製造業の歴史と特徴を理解する。1～7回授業に関する中間テストの実施。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	9	個別業種	肉製品業の歴史と特徴を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	10	個別業種	ビール製造業の歴史と特徴を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	11	個別業種	清酒製造業の歴史と特徴を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	12	個別業種	即席麺製造業の歴史と特徴を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	13	個別業種	水産練製品業の歴史と特徴を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	14	個別業種	カツオ節・加工海苔業の歴史と特徴を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	15	食品産業の盛衰	食品市場(マーケット)の変容と食品産業の盛衰を理解する。	事後：レポートの提出
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	食品産業の構成主体	食品産業の枠組を理解する。	事前：シラバスの理解																																																																
2	産業構造の変化	日本経済の推移と一次産業の地位変化を理解する。	事前：学習範囲の予習																																																																
3	核家族化	社会構造の変化と家族・家庭構造の推移を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
4	食の簡便化	食生活の全般的推移を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
5	業種から業態への移行	食品スーパーの成長を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
6	肉食比率の低下	外食・中食の成長を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
7	原料調達先の変化	加工業から製造業への移行(食品製造業の規模等)を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
8	個別業種	小麦粉製造業の歴史と特徴を理解する。1～7回授業に関する中間テストの実施。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
9	個別業種	肉製品業の歴史と特徴を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
10	個別業種	ビール製造業の歴史と特徴を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
11	個別業種	清酒製造業の歴史と特徴を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
12	個別業種	即席麺製造業の歴史と特徴を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
13	個別業種	水産練製品業の歴史と特徴を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
14	個別業種	カツオ節・加工海苔業の歴史と特徴を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
15	食品産業の盛衰	食品市場(マーケット)の変容と食品産業の盛衰を理解する。	事後：レポートの提出																																																																
関連科目	フードシステム論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	別途、指示する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>食品産業新展開の条件</td> <td>山本博信</td> <td>農林統計出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	食品産業新展開の条件	山本博信	農林統計出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	食品産業新展開の条件	山本博信	農林統計出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験(60%)、中間テスト(30%)、レポート課題(10%)。																																																																		
学生へのメッセージ	様々な地域に様々な規模の食品企業があることを学びましょう。																																																																		
担当者の研究室等備考																																																																			

科目名	食料・農業市場論	科目名 (英文)	Food and Agricultural Market
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修B(食農ビジネス学科)
学期	前期	授業担当者	小野 雅之
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2029a0		

授業概要・目的	今日の市場経済のもとでは、農業経営や食品製造業、さらには消費者も、さまざまな側面で市場との関係を持っており、食農ビジネス学を学ぶうえで、食料・農業市場に関する知識を身につけることが必要である。本講義は、食料・農業市場に関して、第一に、食料・農産物の市場と流通に関する基礎理論を踏まえて、その特徴と構造、現状について講義するとともに、第二に、農業経営に関連する諸市場の構造の特徴と、生産資材流通の現状について講義する。さらに、食料・農業市場の今後のあり方について講義する。授業担当者は、地方自治体の農林技術部門における実務経験を持ち、授業ではその経験を踏まえた事例の紹介などを取り入れる。																																																																		
到達目標	① 食料・農業の市場と流通に関する理論的な考え方を身につけることができる。 ② 食料・農産物の市場構造と流通の現状について理解することができる。 ③ 農業経営をとりまく諸市場の構造と現状について理解することができる。 ④ これらの知識をもとに、食農ビジネスの課題を発見し、これからの食農ビジネスのあり方を考えるために応用できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	配付資料、パワーポイント、板書等によって行う。授業内容の理解を深めるために、数回的小テストや小レポートを実施する。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>ガイダンスと授業計画・授業方法の説明、食料・農業市場のとらえ方</td> <td>事前：シラバスの理解 事後：食料・農業市場のとらえ方の確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>I 食料・農産物の市場と流通 1. 農産物の市場と流通</td> <td>農業生産の特徴と農産物の市場構造、農産物の取引関係</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2. 加工食品の市場と流通</td> <td>食品製造業の構造と特徴、加工食品の取引関係</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>3. 流通のとらえ方</td> <td>流通の必要性和役割、流通の機能</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4. 流通チャネル</td> <td>流通チャネルの多様性とその要因</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5. 流通の担当者</td> <td>流通における卸売業者・小売業者・物流業者の役割</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>6. 生産者・消費者と流通</td> <td>生産者・消費者にとっての流通の役割、流通活動と流通コストの考え方</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>II 農業と農業市場 1. 農業経営に関連する諸市場</td> <td>農業経営に関連する市場の種類と役割</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>2. 農産物の市場</td> <td>農業経営にとっての農産物市場の役割、農産物流通の流通経路</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>3. 農業機械市場</td> <td>農業機械産業の構造と特徴、農業機械流通の特徴と現状</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>4. 農薬市場</td> <td>農薬産業の構造と特徴、農薬流通の特徴と現状</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>5. 肥料市場</td> <td>肥料産業の構造と特徴、肥料流通の特徴の現状</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>6. 飼料市場</td> <td>畜産農業経営と飼料市場、飼料供給の構造と特徴、飼料流通の特徴と現状</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>7. 農地市場</td> <td>農地市場の特徴、農地の権利移動の現状</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>講義のまとめ</td> <td>食料・農業市場の課題と今後のあり方</td> <td>事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	ガイダンスと授業計画・授業方法の説明、食料・農業市場のとらえ方	事前：シラバスの理解 事後：食料・農業市場のとらえ方の確認	2	I 食料・農産物の市場と流通 1. 農産物の市場と流通	農業生産の特徴と農産物の市場構造、農産物の取引関係	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	3	2. 加工食品の市場と流通	食品製造業の構造と特徴、加工食品の取引関係	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	4	3. 流通のとらえ方	流通の必要性和役割、流通の機能	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	5	4. 流通チャネル	流通チャネルの多様性とその要因	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	6	5. 流通の担当者	流通における卸売業者・小売業者・物流業者の役割	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	7	6. 生産者・消費者と流通	生産者・消費者にとっての流通の役割、流通活動と流通コストの考え方	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	8	II 農業と農業市場 1. 農業経営に関連する諸市場	農業経営に関連する市場の種類と役割	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	9	2. 農産物の市場	農業経営にとっての農産物市場の役割、農産物流通の流通経路	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	10	3. 農業機械市場	農業機械産業の構造と特徴、農業機械流通の特徴と現状	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	11	4. 農薬市場	農薬産業の構造と特徴、農薬流通の特徴と現状	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	12	5. 肥料市場	肥料産業の構造と特徴、肥料流通の特徴の現状	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	13	6. 飼料市場	畜産農業経営と飼料市場、飼料供給の構造と特徴、飼料流通の特徴と現状	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	14	7. 農地市場	農地市場の特徴、農地の権利移動の現状	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	15	講義のまとめ	食料・農業市場の課題と今後のあり方	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	ガイダンスと授業計画・授業方法の説明、食料・農業市場のとらえ方	事前：シラバスの理解 事後：食料・農業市場のとらえ方の確認																																																																
2	I 食料・農産物の市場と流通 1. 農産物の市場と流通	農業生産の特徴と農産物の市場構造、農産物の取引関係	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
3	2. 加工食品の市場と流通	食品製造業の構造と特徴、加工食品の取引関係	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
4	3. 流通のとらえ方	流通の必要性和役割、流通の機能	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
5	4. 流通チャネル	流通チャネルの多様性とその要因	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
6	5. 流通の担当者	流通における卸売業者・小売業者・物流業者の役割	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
7	6. 生産者・消費者と流通	生産者・消費者にとっての流通の役割、流通活動と流通コストの考え方	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
8	II 農業と農業市場 1. 農業経営に関連する諸市場	農業経営に関連する市場の種類と役割	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
9	2. 農産物の市場	農業経営にとっての農産物市場の役割、農産物流通の流通経路	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
10	3. 農業機械市場	農業機械産業の構造と特徴、農業機械流通の特徴と現状	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
11	4. 農薬市場	農薬産業の構造と特徴、農薬流通の特徴と現状	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
12	5. 肥料市場	肥料産業の構造と特徴、肥料流通の特徴の現状	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
13	6. 飼料市場	畜産農業経営と飼料市場、飼料供給の構造と特徴、飼料流通の特徴と現状	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
14	7. 農地市場	農地市場の特徴、農地の権利移動の現状	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
15	講義のまとめ	食料・農業市場の課題と今後のあり方	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習																																																																
関連科目	フードシステム論, 農畜産物流通論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>毎回講義資料等を配付する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	毎回講義資料等を配付する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	毎回講義資料等を配付する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>必要に応じて紹介する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて紹介する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	必要に応じて紹介する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	毎回の授業中小レポート(70%)と期末レポート30%で評価し、60%以上で合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	食料・農業市場研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	農畜産物流通論	科目名 (英文)	Distribution of Agricultural and Livestock Products
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	戴 容 泰 思
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE2030a0		

授業概要・目的
 TPPやメガEPAなど関税削減・撤廃の動きは、より多くの安価な海外農畜産物が日本に輸入されることを意味する。消費者にとって安価かつ多様な食材が手に入るという安易な考え方もある。しかし中長期的にみれば、食料自給率のさらなる低下に拍車がかかり、日本農業がほぼ完全に国際競争にさらされ、国内の食料生産基盤が存続の危機に直面することが、次世代の食卓に関わってくる重大な問題である。特に関税収入などによる補助金支援の下で成り立っている畜産部門が大きな衝撃を受ける。畜産物のフードシステムは、採れた状態で流通できる青果物と異なり、繁殖や肥育、と畜、搾乳などの工程を必要のため、加工流通業者など非農業資本の企業的動きが大きな影響をもたらす。本講義では、こうした背景と特徴をもつ農畜産物とりわけ食肉や卵、牛乳・乳製品など馴染みのある品目の流通システムについて理解する。海外の農畜産物流通についてもふれる。

到達目標
 ① 日本における農畜産物流通の現状と背景について理解し、自分の言葉をもって説明・記述できる。
 ② 授業で取り上げた品目別の生産・流通・消費の特徴を理解し、自分の食生活や日常経験などに関連付けて説明できる。
 ③ ①と②を踏まえて、国際市場に取り込まれている日本の農畜産物流通の現状と課題に対する自分（いち消費者 or 将来的に食農分野に従事したい者などとして）の意識と行動がどうあるべきかを考え、説明できる。

授業方法と留意点
 ○ MS Teams、Forms等を使用する。Teamsコードを用いて事前に授業チームに登録すること。
 ○ 授業中の学習：要点などのメモを取りながらレクチャーに集中すること。積極的に学習活動に参加すること。
 ○ 授業外の学習：
 1) 毎回の学習資料を予習、復習に活用し、課題（小テストやふりかえりシート等）を完成させること。
 2) 提出物を期限までに提出すること。期限は延長しない。
 3) 農業、食品工場、スーパーやコンビニなど身近な産業、そして自分自身の「食卓」に、どんな商

科目学習の効果（資格）

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	翻弄される日本の「食卓」	自由化・グローバル化する農畜産物市場とその中に置かれる我々の「食卓」の現実について概説し、食料・農産物流通の基礎知識についておさらいした上で、本授業のねらい、進め方、皆さんがこの授業で達成すべきゴールおよび成績の評価方法について共有する。	事前：シラバスの理解 事後：課題の完成
2	農畜産物の商品特性と流通	農畜産物全般の流通について復習しつつも、とりわけ加工が必要とされる農畜産物の商品としての共通した特性、それによる流通上の特徴について理解する。	事後：課題の完成
3	世界の食肉市場	日本に大きく影響を及ぼす世界の食肉市場のトレンドについて理解する。	事後：課題の完成
4	日本人はどう肉を食べているのか？	我々が誇る和牛への思いとかけ離れた日本食肉市場の現実とその特徴的な傾向を、いくつかのエビデンスをもって示し、日本の食肉市場の立ち位置を再確認する。	事後：課題の完成
5	鶏：システムティック生産と流通	消費者にとっても手頃なイメージをもつ鶏肉と鶏卵を、誰か、どのように生産・流通されているかについて学び、その特徴について理解する。	事後：課題の完成
6	豚肉は食卓から消えるのか？	豚肉の生産・流通に取り巻く環境と差額関税の問題点について解説し、豚肉の安定供給と国内養豚産業の存続の課題について考える。	事後：課題の完成
7	牛肉のフードシステム	欧米との比較分析からみる日本の牛肉のフードシステムについて学び、現段階の国産牛肉市場の問題点について検討する。	事後：課題の完成
8	食肉の小売流通	我々の身近にある食肉小売流通の今日的特徴について理解する。	事後：課題の完成
9	世界の酪農と乳業	世界の乳利用の状況、酪農・乳業の発展傾向について理解する。	事後：課題の完成
10	日本の生乳流通と乳業	牛乳・乳製品の原料となる生乳の市場構造の変化メカニズムについて解説し、日本の酪農・乳業の特徴について理解する。	事後：課題の完成
11	酪農経営への乳業企業参入	日本の生乳流通の自由化議論が進む中、乳業企業による酪農経営への参入が可能となる。先例である中国の事例と比較しながら、日本の生乳流通が直面する課題について論じる。	事後：課題の完成
12	生産者と消費者を結ぶ牛乳論	誰もが新鮮な牛乳を飲むことを当たり前のようになっているが、実際に「新鮮な」牛乳を飲んでいる人は少ない。新鮮な牛乳を提供する流通のあり方について論じる。	事後：課題の完成
13	農畜産物流通に係る人々	農畜産物の加工や物流を担う人々の存在がなければ、フードシステムが成り立たない。とりわけ畜産物加工・流通業の労働者の社会的地位や現状について説	事後：課題の完成

			明し、これらの人々の役割とその重要性について理解する。																	
	14	「私」の食卓を支える農畜産物の流通①	自分自身の食生活に関連づけながら、この授業を通して考えたことについて、パワーポイントを用いて発表してもらう。受講者数を半々に分けて、2回に分けて行う。	事前：発表スライドの作成と提出 事後：期末レポートの提出																
	15	「私」の食卓を支える農畜産物の流通②	自分自身の食生活に関連づけながら、この授業を通して考えたことについて、パワーポイントを用いて発表してもらう。期末レポートについても説明する。	事前：発表スライドの作成と提出 事後：期末レポートの提出																
関連科目	食料・農業市場論（2年次前期） 食品産業論（2年次前期） 水産物流通論（2年次後期） 農水産物マーケティング論（3年次前期）																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>農産物・食品の市場と流通</td> <td>日本農業市場学会</td> <td>筑波書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	農産物・食品の市場と流通	日本農業市場学会	筑波書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	農産物・食品の市場と流通	日本農業市場学会	筑波書房																	
2																				
3																				
評価方法（基準）	発表（20%）、課題（30%）、期末レポート（50%）で評価し、60%以上で合格とする。																			
学生へのメッセージ	到達目標を達成できるように、お互いががんばりましょう。																			
担当者の研究室等	8号館2階215教員室																			
備考																				

科目名	水産物流通論	科目名 (英文)	Distribution and Marketing System of Fishery Products
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	副島 久実
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE2031a0		

授業概要・目的	水産業の現状と課題、水産物の商品特性、水産物流通の仕組みを学び、水産物流通の特徴（産地市場と消費地市場の制度や機能等）や現代的な特徴（市場外流通の拡大、産地販売力の強化、水産物ブランド化の取り組み、6次産業化、量販店における水産物販売の動向等）について理解する。また、現代的な水産物消費の動向とその背景や要因、水産物流通・消費の中の輸入水産物の浸透等についても学び、これからの日本の水産物流通や水産物消費のあり方について検討していく。																																																																		
到達目標	① 水産業の基本的な構造を理解できる。 ② 水産物の商品特性や水産物流通の仕組み、特徴等について理解する。 ③ 水産物流通の現代的な特徴を理解する。 ④ 水産物消費の動向とその背景・要因、輸入水産物の関係等について理解する。 ⑤ これからの日本の水産物流通や水産物消費のあり方について検討できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	講義の理解度をはかるために、毎回、講義の終わりの時間に小テストを行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>水産物と水産業の特徴</td> <td>水産物と水産業の特徴について理解する。</td> <td>事前：シラバスの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>水産業の現状と課題</td> <td>水産業の現状と課題について学ぶ。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>水産物消費</td> <td>水産物消費の現状と課題および特徴について学ぶ。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>水産物流通のしくみ</td> <td>水産物流通の基本的な仕組みを学ぶ。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>産地市場の仕組みと機能</td> <td>産地市場の仕組みと機能、現状と課題等について学ぶ。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>消費地市場の仕組みと機能</td> <td>消費地市場の仕組みと機能、現状と課題等について学ぶ。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>市場外流通</td> <td>水産物の市場外流通についての特徴、現状と課題等について学ぶ。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>水産物の輸出入</td> <td>水産物の輸出入の現状と課題や水産物流通・消費における輸入水産物の現状等について学ぶ。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>量販店における水産物販売</td> <td>量販店における水産物販売の特徴や実態について学ぶ。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>水産物の加工品の特徴</td> <td>水産物の加工品の特徴や特性や特性等について学ぶ。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>水産加工業の現状や動き</td> <td>水産加工業の現状や最近の動き等について学ぶ。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>水産物のブランド化</td> <td>水産物のブランド化の取り組みや課題等について学ぶ。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>新しい水産物流通</td> <td>6次産業化、農商工連携、産地直結型流通等の特徴や課題等について学ぶ。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>国際的な水産物需給の動向</td> <td>諸外国における水産業や水産物消費等の現状や特徴について学び、日本の状況を相対的に把握する。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>水産業のこれから</td> <td>一連の講義を通してこれからの水産業や水産物消費、漁村のあり方等について考察する。</td> <td>事後：学習課題の学習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	水産物と水産業の特徴	水産物と水産業の特徴について理解する。	事前：シラバスの理解	2	水産業の現状と課題	水産業の現状と課題について学ぶ。	事後：学習課題の学習	3	水産物消費	水産物消費の現状と課題および特徴について学ぶ。	事後：学習課題の学習	4	水産物流通のしくみ	水産物流通の基本的な仕組みを学ぶ。	事後：学習課題の学習	5	産地市場の仕組みと機能	産地市場の仕組みと機能、現状と課題等について学ぶ。	事後：学習課題の学習	6	消費地市場の仕組みと機能	消費地市場の仕組みと機能、現状と課題等について学ぶ。	事後：学習課題の学習	7	市場外流通	水産物の市場外流通についての特徴、現状と課題等について学ぶ。	事後：学習課題の学習	8	水産物の輸出入	水産物の輸出入の現状と課題や水産物流通・消費における輸入水産物の現状等について学ぶ。	事後：学習課題の学習	9	量販店における水産物販売	量販店における水産物販売の特徴や実態について学ぶ。	事後：学習課題の学習	10	水産物の加工品の特徴	水産物の加工品の特徴や特性や特性等について学ぶ。	事後：学習課題の学習	11	水産加工業の現状や動き	水産加工業の現状や最近の動き等について学ぶ。	事後：学習課題の学習	12	水産物のブランド化	水産物のブランド化の取り組みや課題等について学ぶ。	事後：学習課題の学習	13	新しい水産物流通	6次産業化、農商工連携、産地直結型流通等の特徴や課題等について学ぶ。	事後：学習課題の学習	14	国際的な水産物需給の動向	諸外国における水産業や水産物消費等の現状や特徴について学び、日本の状況を相対的に把握する。	事後：学習課題の学習	15	水産業のこれから	一連の講義を通してこれからの水産業や水産物消費、漁村のあり方等について考察する。	事後：学習課題の学習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	水産物と水産業の特徴	水産物と水産業の特徴について理解する。	事前：シラバスの理解																																																																
2	水産業の現状と課題	水産業の現状と課題について学ぶ。	事後：学習課題の学習																																																																
3	水産物消費	水産物消費の現状と課題および特徴について学ぶ。	事後：学習課題の学習																																																																
4	水産物流通のしくみ	水産物流通の基本的な仕組みを学ぶ。	事後：学習課題の学習																																																																
5	産地市場の仕組みと機能	産地市場の仕組みと機能、現状と課題等について学ぶ。	事後：学習課題の学習																																																																
6	消費地市場の仕組みと機能	消費地市場の仕組みと機能、現状と課題等について学ぶ。	事後：学習課題の学習																																																																
7	市場外流通	水産物の市場外流通についての特徴、現状と課題等について学ぶ。	事後：学習課題の学習																																																																
8	水産物の輸出入	水産物の輸出入の現状と課題や水産物流通・消費における輸入水産物の現状等について学ぶ。	事後：学習課題の学習																																																																
9	量販店における水産物販売	量販店における水産物販売の特徴や実態について学ぶ。	事後：学習課題の学習																																																																
10	水産物の加工品の特徴	水産物の加工品の特徴や特性や特性等について学ぶ。	事後：学習課題の学習																																																																
11	水産加工業の現状や動き	水産加工業の現状や最近の動き等について学ぶ。	事後：学習課題の学習																																																																
12	水産物のブランド化	水産物のブランド化の取り組みや課題等について学ぶ。	事後：学習課題の学習																																																																
13	新しい水産物流通	6次産業化、農商工連携、産地直結型流通等の特徴や課題等について学ぶ。	事後：学習課題の学習																																																																
14	国際的な水産物需給の動向	諸外国における水産業や水産物消費等の現状や特徴について学び、日本の状況を相対的に把握する。	事後：学習課題の学習																																																																
15	水産業のこれから	一連の講義を通してこれからの水産業や水産物消費、漁村のあり方等について考察する。	事後：学習課題の学習																																																																
関連科目	農畜産物流通論、フードシステム論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ポイント整理で学ぶ水産経済</td> <td>廣吉勝治・佐野雅昭 編</td> <td>北斗書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>食料・農産物の流通と市場</td> <td>日本農業市場学会 編</td> <td>筑波書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ポイント整理で学ぶ水産経済	廣吉勝治・佐野雅昭 編	北斗書房	2	食料・農産物の流通と市場	日本農業市場学会 編	筑波書房	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ポイント整理で学ぶ水産経済	廣吉勝治・佐野雅昭 編	北斗書房																																																																
2	食料・農産物の流通と市場	日本農業市場学会 編	筑波書房																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回の小テスト 50%、最終レポート 50%で評価し、60%以上で合格とする。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	農学部 2階教員室 216																																																																		
備考																																																																			

科目名	食農共生論	科目名 (英文)	Symbiosis of Food and Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北川 太一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1036a0		

授業概要・目的
近年、さまざまな側面から「食と農の距離の拡大」(食と農の乖離)の問題が指摘されている。私たちが真に豊かな食を実現し、日本の農業を守り発展させていくためには、食と農の距離を少しでも短くすること、すなわち食と農を結び両者が「共生」していく道筋を考えていかなければならない。本講義は、食農共生・循環型農業論系の概論として「食と農の距離」の問題を考えながら、農業と食料問題の特性を理解したうえで、生産者と消費者、農村(むら)と都市(まち)、産地と食卓を結び食農共生の課題や方向性について考える。

到達目標
① 近年の「食と農の距離の拡大」の状況について理解する。
② 食と農の距離を短くする、食と農を結ぶためのさまざまな取り組みの現状を知る。
③ ①②を通じて、農業・農村の発展や食料問題に解決のためには、食と農を結ぶこと(食農共生)の考え方が重要であることを理解し、食と農の共生の方向性について考えることができるようになる。

授業方法と留意点
・授業形式: 講義中心で、補足プリント(講義レジュメ、資料など)を配布して進める。
・実態をリアルに把握できるように、DVDなど映像教材を活用する。可能ならば、ゲストスピーカーによる講義を行う。
・質問等がある場合、授業時間内に質疑の時間をとることは難しいため、授業後やオフィスアワー、電子メールやICTツール等を積極的に利用すること。
・事前の予習と復習(講義後の所感)を重視する。そのために、ほぼ毎回、予習確認小テストと振り返りシートの提出を課す。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	農学、食農ビジネス学における食農共生の問題	農学、食農ビジネス学を学ぶ上での食農共生の問題の位置づけ、重要性について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
2	食と農の距離の拡大①(時間的・地理的距離の拡大)	農産物・食料の輸送・輸入距離をはじめとする、時間的・地理的距離の拡大について現状を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
3	食と農の距離の拡大②(段階的距離の拡大)	農産物・食料の流通・加工過程をはじめとする、段階的距離の拡大について現状を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
4	食と農の距離の拡大③(心理(意識)的距離の拡大)	農や食に関する消費者の意識をはじめとする、心理(意識)的距離の拡大について現状を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
5	地産地消・農産物直売所①(理念と背景)	地産地消の理念と歴史的背景、農産物直売所の運営原則などについて理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
6	地産地消・農産物直売所②(現状と課題)	地産地消、農産物直売所の取組み実態を知り、その役割と課題を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
7	農商工連携①(理念と背景)	農商工連携の理念と歴史的背景、法制度などについて理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
8	農商工連携②(現状と課題)	農商工連携の取組み実態を知り、その役割と課題を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
9	産直・産消提携①(理念と背景)	産直・産消提携の理念と歴史的背景、制度や事業のしくみなどについて理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
10	産直・産消提携②(現状と課題)	産直・産消提携の取組み実態を知り、その役割と課題を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
11	農村都市交流・グリーンツーリズム①(理念と背景)	農村都市交流・グリーンツーリズムの理念と社会的・経済的背景、法制度などについて理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
12	農村都市交流・グリーンツーリズム②(現状と課題)	さまざまな種類の農村都市交流・グリーンツーリズムの取組み実態を知り、それらの役割と課題を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
13	食農共生の主体形成	食農共生の主体形成(担い手づくり)について、農業者や消費者の組織化、民間事業者や自治体の取組み状況を知り、それぞれの役割を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
14	食農共生の政策	食と農を結ぶための政策の現状を理解し、これからの食農共生政策の課題と方向性について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
15	まとめ	これまでの復習を行うとともに、私たちにとって食農共生を進めていくための課題と方向性について考える。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。

関連科目 食農ビジネス学概論、食と農の倫理、協同組合論など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食と農を学ぶ人のために	祖田修/杉村和彦編	世界思想社
2	地域産業の発展と主体形成-食と農、資源を活かす-	北川 太一	放送大学教育振興会	
3	農と食の新しい倫理	秋津・佐藤・竹之内編著	昭和堂	

評価方法 (基準)	次の①②の方法により評価し、60%以上で合格とする。 ①予習確認小テストと振り返りシート、ならびに期間中に出題するレポート課題 (40%程度) ②定期試験もしくは期末レポート (60%程度) ※②については、今後の新型コロナの感染状況も見ながら判断し、決定次第連絡する。
学生への メッセージ	日々の食卓から農業の生産現場に、枚方キャンパスから自然豊かな農山漁村に思いを馳せることの大切さを実感しましょう！
担当者の 研究室等 備考	農学部 3 階 318 研究室

科目名	循環型農業論	科目名 (英文)	Issues in Sustainable Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修B(食農ビジネス学科)
学期	前期	授業担当者	谷口 葉子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2037a0		

授業概要・目的	農業やその川下のフードシステムにおける持続可能性の追求が国内外で重要性・緊急性を増してきている。本講義では、農業がもたらしてきた様々な環境問題を学ぶと共に、環境問題の解消や緩和のための循環型農業の取り組みについて、その効果、技術、関連政策の学修を通して深く理解することを目的とする。また、循環型農業に取り組む経営の学修を通して、環境に配慮した農業生産の技術の実際や施策の活用実態について理解を深める。
到達目標	① 食料生産が社会にもたらす環境問題について理解する。 ② 循環型農業の方法論とその環境保全効果を理解する。 ③ 循環型農業に関連する様々な概念や取り組み事例を知る。
授業方法と留意点	パワーポイントと板書を用いた講義を行う。講義の開始前に予習用のプリント等を配布する。また、配布プリントの事前学習を行うこと。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	近代農法の環境負荷	近代農法がもたらしてきた環境問題を俯瞰し、循環型農業の発展の経緯を学ぶ。	事前：シラバスの理解
2	農業の多面的機能	農業に備わる環境保全機能を始めとする多面的機能について学ぶ。	事前：配布プリント等による予習
3	食料生産とエネルギー	食料生産におけるエネルギー使用の現状とそれを抑制する技術的・制度的対応策について学ぶ。	事前：配布プリント等による予習
4	食料生産と地球温暖化	食料生産における温室効果ガスの排出の現状とそれを抑制する技術的・制度的対応策について学ぶ。	事前：配布プリント等による予習
5	食料生産と生物多様性	食料生産における生物多様性への影響と循環型農業による生物多様性の保全効果を学ぶ。	事前：配布プリント等による予習
6	食料生産と窒素循環	食料生産における窒素循環と循環型農業による改善効果を学ぶ。	事前：配布プリント等による予習
7	農薬の安全性をめぐる議論	農薬の安全性をめぐる諸議論と農薬の残留基準や使用基準について学ぶ。	事前：配布プリント等による予習
8	遺伝子組み換え技術をめぐる議論	遺伝子組み換え技術が環境や人々の健康に与える影響をめぐる議論や考え方、関連する法規制について学ぶ。	事前：配布プリント等による予習
9	循環型農業における土づくり	循環型農業で用いられる土づくりの方法を学ぶ。	事前：配布プリント等による予習
10	循環型農業における除草と病虫害防除	循環型農業で用いられる除草と病虫害防除の方法を学ぶ。	事前：配布プリント等による予習
11	農業環境政策	循環型農業を推進するための環境直接支払い等の政策について、国内とEUにおける展開状況を学ぶ。	事前：配布プリント等による予習
12	循環型社会の形成に向けた政策	循環型社会の構築に向けた諸政策と食品廃棄物の再資源化の取り組みを知る。	事前：配布プリント等による予習
13	循環型園芸の取り組み事例	循環型農業に取り組む農家の事例を学ぶ。	事前：配布プリント等による予習
14	循環型水稲作の取り組み事例	循環型農業に取り組む農家の事例を学ぶ。	事前：配布プリント等による予習
15	循環型果樹作の取り組み事例	循環型農業に取り組む農家の事例を学ぶ。	事前：配布プリント等による予習

関連科目	食と農の倫理、アグロ・エコロジー、有機農業論
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	有機農業の技術と考え方	中島紀一、金子美登、西村和雄	コモンズ
	2	戦後日本の食料・農業・農村 第9巻 農業と環境	中島紀一、古沢広祐、横川洋	農林統計協会
	3			

評価方法 (基準)	課題等の提出物および授業中のディスカッションへの取り組み (ルーブリック評価・60%) とレポート (40%) で評価し、60%以上で合格とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	食料生産における持続可能性を取り巻く様々なトピックスについて学ぶ授業です。SDGs や循環型経済 (サーキュラーエコノミー) に関心のある皆さんへお勧めしたい科目です。
-----------	--

担当者の研究室等	8号館 3階 教員室316 持続型フードシステム研究室
----------	-----------------------------

備考	成績評価では毎回の授業の予習とディスカッションへの取り組み姿勢を重視します。
----	--

科目名	食農教育論	科目名 (英文)	Dietary and Agricultural Education
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修B(食農ビジネス学科)
学期	前期	授業担当者	中塚 華奈
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2038a0		

授業概要・目的	食農教育とは、「食」が有する多様な役割の大切さを伝える「食育」に、「食」を育む根本である農林水産業に関する知識や体験を含めた総合教育のことである。2005年に施行された食育基本法では、国民の「食」に関する考え方を育み、健全な食生活の実現を目標とし、都市と農山漁村の共生・対流をすすめる、「食」に関する消費者と生産者との信頼関係を構築して、地域社会の活性化、豊かな食文化の継承及び発展、環境と調和のとれた食料の生産及び消費の推進並びに食料自給率の向上に寄与することが期待されている。本講義では、食農教育とは何かを理解し、自らで食農教育プログラムを企画する知識と経験を修得する。
到達目標	① 食農教育とは何かを理解する。 ② 食農教育で伝える内容を理解する。 ③ 自ら食農教育のプログラムを企画し、実行することができる。
授業方法と留意点	基本的に TEAMS にオンデマンドで動画を配信するが、第2回目と最終回のみは、リアルタイムで配信する。適宜、資料は TEAMS のファイルにアップする。基礎知識を学んだあと、食農教育プログラムの企画立案、準備、資料作成を行い、最後に TEAMS にて個別に発表をする。
科目学習の効果 (資格)	自治体や NPO などにおいて、地域農家と食農教育プログラムを企画する機会があれば、知識と企画力を活かすことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	食農教育とは	食育と食農教育の違いを理解し、食農教育とは何かを理解する。	事前：シラパスの理解 事後：リアクションペーパー
2	「バケツ稲」で学ぶ食農教育	食農教育で全国的に取り組まれている「バケツ稲づくり」の仕組みや狙いを学び、自らも「バケツ稲づくり」を行う。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS で回答
3	食農教育における「食べ事」	食農教育において、食べものを「食べる」ということは何かをどのように伝えるべきかを理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS で回答
4	食農教育と食文化学	食農教育において、食文化の観点から何を食べるべきか、どのような食文化があるかということなどをどのように伝えるべきかを理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS で回答
5	食農教育と身体づくり	食農教育において、食べものと身体づくりの関わりをどのように伝えるべきかを理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS で回答
6	食農教育と土壌学	食農教育において、土壌とは何か、土づくりと食べものの関わりをどのように伝えるべきかを理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS で回答
7	食農教育と生物学	食農教育において、植物と動物の共生、生物多様性と食べものとの関わりをどのように伝えるべきかを理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS で回答
8	食農教育と環境学	食農教育において、環境と農業と食べものとの関わりをどのように伝えるべきかを理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS で回答
9	食農教育と経済学	食農教育において、望ましい農業生産活動や消費行動を経済学的な視点からどのように伝えるべきかを理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS で回答
10	食農教育と消費生活学	食農教育において、望ましい消費生活のありかたをどのように伝えるべきかを理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS で回答
11	食農教育プレゼン企画立案	食農教育プログラムの企画立案を個別に行う。	事前：企画立案の情報収集 事後：企画実行準備
12	食農教育プレゼン企画準備	食農教育プログラムのプレゼンテーション資料を作成する。	事前：企画実行 事後：企画実行
13	食農教育プレゼン発表①	食農教育プレゼンテーションを TEAMS にアップし、相互に視聴する。	事前：プレゼン練習 事後：振り返り
14	食農教育プレゼン発表②	食農教育プレゼンテーションを TEAMS にアップし、相互に視聴する。	事前：プレゼン練習 事後：振り返り
15	振り返りと総合討議	全体の発表を振り返り、相互評価を行い、食農教育に関する討論を行う。	事前：プレゼン視聴 事後：振り返り

関連科目 食と農の倫理

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特に指定しない		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	たべもの・食育絵本 野菜の教え	藤原 勝子	群羊社
2	NHK ためしてガッテン	NHK 科学番組部	汐文社	
3				

評価方法 (基準) FORMS による提出物 70%、最終プレゼン資料 30%。60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ 命を育む食は、単なるエネルギー源としてや身体づくりのための原材料としてだけではなく、地球環境や地域経済とも深いかわりがあります。オリジナルな食農教育プログラムを企画立案できるようになりましょう。

担当者の研究室等	8号館317号室
備考	毎回の課題はFORMSで回答・提出していただきます。個別質問は、メールにて受け付けます。

科目名	協同組合論	科目名 (英文)	Co-operatives
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北川 太一
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE2039a0		

授業概要・目的	最近「農協改革」という言葉をよく耳にする。農協は民間の企業(株式会社)とは異なる「協同組合」だが、ではいったい協同組合とはどのようなものであるのか。本講義では、食料・農業・フードシステム等の問題と深い関わりがある農協(農業協同組合:JA)を中心に、協同組合の存在・役割が、日本の農業・食料や農山村をはじめとする地域の経済・社会、さらには私たちのくらしの問題と密接に関わっていることを理解する。
到達目標	① 協同組合が掲げる理念・原則を理解し、株式会社との違いを組織、事業、経営の面から理解する。 ② 日本の農協(特に総合農協)の特徴と実態を理解する。 ③ ①②を踏まえて、農協をはじめとする協同組合が社会的に果たしている役割、今後の課題や改善方法について考えることができるようになる。
授業方法と留意点	・ 授業形式: 講義中心で、プリント(講義レジュメ、資料など)を配布して進める。 ・ 実態をリアルに把握できるように、DVDなど映像教材を適宜活用する。 ・ 現場の声を聴くために、可能ならばゲストスピーカーを呼ぶことがある。 ・ 質問等がある場合、授業時間内に質疑の時間をとることは難しいため、授業後やオフィスアワーを積極的に利用すること。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	協同組合に関する基礎的理解①(種類、世界的状況)	協同組合の種類、法制度、世界的にみた協同組合の現状について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
2	協同組合に関する基礎的理解②(基本特性、運営原則)	株式会社やNPOと比較した場合の協同組合の基本特性、協同組合原則について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
3	協同組合に関する基礎的理解③(歴史)	イギリス、ドイツ、フランスを中心とした協同組合の歴史の変遷を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
4	農協の組織①(「日本型総合農協」の成立)	「日本型総合農協」と呼ばれるわが国農協の特質について理解し、産業組合以来の成り立ちを知る。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
5	農協の組織②(組合員制度、組織活動)	農協の組合員制度(正組合員、准組合員の存在など)、女性組織や青年組織、生産部会の活動状況を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
6	農協の組織③(広域合併と連合組織問題)	農協の広域合併の変遷と組織の規模を概観し、連合組織(中央会、事業連)の存在形態と役割について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
7	農協の事業①(指導事業)	農協事業の基盤をなす、営農指導事業と生活指導事業のしくみと現状について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
8	農協の事業②(経済事業)	農協の農畜産物販売事業および生産資材を中心とした購買事業のしくみと現状を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
9	農協の事業③(信用・共済事業)	農協の信用事業と共済事業の成り立ち、しくみ、現状を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
10	農協の事業④(厚生・福祉事業など)	農村における病院・健康管理や高齢者の生活支援など、農協の厚生・福祉事業の役割と現状について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
11	農協の経営①(ガバナンス問題)	農協の経営管理のしくみとガバナンス(理事選出、組合員による関与、職員参加など)の特徴と現状を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
12	農協の経営②(経営収支構造)	農協の経営収支構造について、信共依存型経営と経済事業の採算性の側面から現状を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
13	これからの農協(創造的的自己改革)	農協が抱える課題と今後の方向性について、農協が取り組む「自己改革」(農業者の所得増大など)の観点から理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
14	協同組合間協同	農協、漁協(漁業協同組合)、森林組合など、第一次産業に関わる協同組合どうしの連携(協同組合間協同)の現状について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
15	まとめ	これまでの復習を行うとともに、協同組合、農協が果たすべき社会的役割について考える。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新 協同組合とは 四訂版 そのあゆみとしくみ	日本協同組合連携機構編	日本協同組合連携機構
2	農業協同組合論(第3版)	JA全中/北川太一・柴垣裕司編著	JA全中	
3	1時間でよくわかる SDGsと協同組合	日本協同組合連携機構	家の光協会	

評価方法 (基準)	次の①②の方法により評価し、60%以上で合格とする。 ①予習確認小テストと振り返りシート、ならびに期間中に出題するレポート課題 (40%程度) ②定期試験もしくは期末レポート (60%程度) ※②については、今後の新型コロナの感染状況も見ながら判断し、決定次第連絡する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	都市農業論	科目名 (英文)	Urban Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中塚 華奈
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE2040a0		

授業概要・目的
都市農業とは、市街化区域内農地とその周辺で営まれる農業のことである。市街化区域内農地は、国内の全農地の約2%しかないが、都市農家の戸数や販売金額は全国の約10%を占めており、食料生産をはじめ、環境保全、景観形成、文化の継承、食農教育、防災空間、福祉との連携などにおいて様々な機能を有している。都市政策における都市農地の位置づけや税制措置は、高度経済成長期の「宅地化すべきもの」から、都市農業振興基本法が施行された近年では「都市にあるべきもの」へと目まぐるしく変化してきた。本講義では、都市農業の成立経緯や都市農業が有する多面的機能、都市農業の実践事例について学ぶとともに、ディベートやワークショップを通して、都市農業に対する自らの知見を深める。

到達目標
① 都市および都市農業の定義や意義を理解する。
② 都市政策および農業政策における都市農業の位置づけの変遷を理解する。
③ 都市農業に対して自分の見解を述べることができる。

授業方法と留意点
・原則、対面授業とし、適宜、資料をアップする。
・オンライン授業になる場合には、事前に TEAMS や講義中にお知らせする。
・TEAMS 内のチャネルや講義室にて自分自身の言葉で都市農業についての意見を述べてもらう。
・課外活動で近隣の都市農家のところへ視察や農業体験に行くことを推奨する。
(新型コロナウイルス感染拡大状況により、臨機応変に対応する)

科目学習の効果 (資格)
歴史と現状を学び、自らの見解を示す知識と経験を、将来、地域政策の現場で活かすことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	都市農業とは	都市や都市農業がどのように成立してきたのか、都市農業とは何かについて考える。	事前：シラバスの理解 事後：FORMS
2	都市農業と政策の変遷	都市農業がおかれてきた都市政策および農業政策の双方からの位置づけの変遷を理解する。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS
3	都市農業に対する意見交換と情報収集 (前調査)	知人・友人に対して、都市農業の役割や存在意義などについて、どのような見解を有しているかを調査し、自分のいけんとともに TEAMS のコメント欄にて発表する。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS
4	都市農業と食料供給	都市農業が有する食料供給機能、マルシェやファーマーズマーケットの取り組みについて理解を深める。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS
5	都市農業と環境保全	都市農業が有する様々な環境保全機能について理解を深める。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS
6	都市農業と食農教育	都市農業が有する食農教育機能や教育ファームの取り組みなどについて理解を深める。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS
7	都市農業と地域文化と防災・福祉	都市農業が地域文化や歴史にどのような影響を及ぼしているか、また地域の防災や福祉とどのような関わりを有しているかについて理解を深める。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS
8	リアルタイムのオンライン講義 「都市農業の現状と展望」	都市農業の現状と展望について、外部講師の榊田みどり先生 (明治大学客員教授) にお話いただく	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS
9	リアルタイムのオンライン講義 都市農地活用支援センター 定期講演会 「農が創造する新しい都市の魅力」	都市との対比“アートとの共生” 進士五十八氏 (福井県立大学 学長) ほか	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS
10	都市農業に対する意見交換と情報収集 (グループワーク)	都市農業の振興策—食料・農業・農村白書と都市農業振興基本法を学び、都市農業がこれからも存続するためのアイデアについて、グループワークを行う	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS
11	ケーススタディ①枚方市・寝屋川市	枚方市・寝屋川市における都市農業の実践事例について知識を修得する。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS
12	ケーススタディ②交野市	交野市アローズファーム*大矢耕平氏による講義	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS
13	交野市の BeNTO 試食とケーススタディ③堺市	交野市産の農産物だけでできたお弁当の試食 (ランチタイム) と堺市の農業振興施策について知識を修得する。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS
14	都市農業の振興方策に関する意見交換と情報収集 (グループワーク)	都市農業を振興するための施策やナッジについて考えをまとめ、自らのライフスタイルにおいてどのような関わりができるかを考察する。	事前：学習範囲の予習 事後：FORMS
15	理解度到達確認と総まとめ	都市農業に関する講義の総まとめと理解到達度の確認を行う。	事前：全学習範囲の復習 事後：FORMS

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特に指定しない		
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「やっぱりおもしろい関西農業」	高橋信正ほか	株式会社昭和堂
	2	地域活性化のデザインとマネジメント	池田潔ほか	晃洋書房
	3			
評価方法 (基準)	授業中の FORMS による回答 60% 期末レポート提出 40%で評価し、60%以上を合格とする。			
学生への メッセージ	都市部における農業について、過去の歴史と現状を学び、今後の展望について自らの見解を示せるようになりましょう。			
担当者の 研究室等	8号館 317号室			
備考				

科目名	比較農業論	科目名 (英文)	Comparative Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE2044a0		

授業概要・目的	さまざまな気候・生態環境、文化・歴史、社会・経済状況を背景に、世界各地には多様な農業が見られる。本授業では、国内外の農耕文化の類型や特徴、系譜と変遷、気候や生態環境および社会・経済状況との関わりを知り、それらを比較し相対化することでそれぞれの農業の成り立ちおよび気候や地域性を越えた共通性について理解する。多角的・多層的・俯瞰的に捉えることを通じて、農業や環境についての知識や理解を豊かにする。		
到達目標	① 世界各地の農耕文化の特徴、成り立ち、系譜、気候や生態環境および社会・経済状況との関わりを知る。 ② 地域・地球環境問題や未来社会の課題の本質や農業を通じての解決のあり方を知る。 ③ 農業と資源・生態環境との関わりや今日的な諸問題について、多角的・多層的・俯瞰的な視野で捉えられるようになる。 ④ グループ討論や総合討論を通じて、共同作業による知識の共有や理解の深化を進める経験をする。		
授業方法と留意点	パワーポイントや資料映像を用いる遠隔授業 (Web 授業) を行う。遠隔授業は、ICT ツールとして【Teams】を用いてのリアル方式 (時間割通りの曜日・時限に配信される教材や説明を受講する) とする。何らかの事情で受講できなかつたり通信不良が起こった場合には、非リアル方式 (Web 上にアップした教材に随時アクセスする) でバックアップするなどの対応をとる。授業には、いくつかの質疑を織り込み、基本知識の理解度の確認と共有を図る。理解を深めるために、毎回の授業後にリアクションペーパー (授業レポート) を課す。		
科目学習の効果 (資格)			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等 事前・事後学習課題
	1	世界の農耕文化 (1)	世界各地 (日本を含む) の農耕文化の類型とその系譜を知る。 事前: シラバスの理解 事後: リアクションペーパー
	2	世界の農耕文化 (2)	アフリカの農耕文化複合とその成り立ちや特徴を知る。 事後: リアクションペーパー
	3	世界の農耕文化 (3)	南アジアの農耕文化複合とその成り立ちや特徴を知る。 事後: リアクションペーパー
	4	世界の農耕文化 (4)	中南米の農耕文化複合とその成り立ちや特徴を知る。 事後: リアクションペーパー
	5	世界の農耕文化 (5)	中東・地中海地域の農耕文化複合とその成り立ちや特徴を知る。 事後: リアクションペーパー
	6	世界の農耕文化 (6)	東アジア・中央アジアの農耕文化複合とその成り立ちや特徴を知る。 事後: リアクションペーパー
	7	世界の農耕文化 (7)	東南アジア・オセアニアの農耕文化複合とその成り立ちや特徴を知る。 事後: リアクションペーパー
	8	世界の農耕文化 (8)	農耕文化複合の広域的な伝播と接触複合による生業システムの変容について理解する。 事後: リアクションペーパー
	9	これからの農業 (1)	滅びた文明の背景と気候変動および農業との関わりを理解し、今日の問題と農業の未来を展望する。 事後: リアクションペーパー
	10	これからの農業 (2)	農耕限界地 (乾燥地・半乾燥地) での地域・地球環境問題 (砂漠化、干ばつ) と解決への農業の役割を考える。 事後: リアクションペーパー
	11	これからの農業 (3)	脆弱環境 (山間地や斜面地) での地域・地球環境問題 (土壌侵食、森林荒廃) と解決への農業の役割を考える。 事後: リアクションペーパー
	12	これからの農業 (4)	未来社会が直面する諸問題 (人口変動、人間活動の拡大および高齢化、気候変動など) への対処のあり方考える。 事後: リアクションペーパー
	13	グループ討論	授業やリアクションペーパーから抽出された課題についてのグループ討論および総合討論への準備作業を行う。 事前: 抽出された課題群から割り当てられた課題についての予習 事後: リアクションペーパー
	14	総合討論 (1)	幾つかの課題についてのグループ発表と質疑応答および討論を行う。 事前: 総合討論の話題に関する予習 事後: 総合レポートの作成
	15	総合討論 (2)	幾つかの課題についてのグループ発表と質疑応答および討論を行う。 事前: 総合討論の話題に関する予習 事後: 総合レポートの作成
関連科目	アグロ・エコロジー論		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	栽培植物と農耕の起源	中尾佐助 (著) 岩波新書
	2	銃・病原菌・鉄 (上、下) 1万3000年にわたる人類史の謎	ジャレド・ダイヤモンド (著)、 倉骨彰 (訳) 草思社文庫
	3	農耕起源の人類史	ピーター・ベルウッド (著)、 永田俊樹・佐藤洋一郎 (監訳) 京都大学学術出版会
評価方法 (基準)	授業ごとのリアクションペーパー (授業レポート、70%) と総合レポート (30%) で評価し、60%以上を合格とする。		
学生へのメッセージ	教員の大切な仕事は学生との雑談だと思っています。授業時間を除く授業日 (午前、午後) をコアタイムとし、授業内容に関する質疑応答や雑談ができるようにします。希望があれば、コアタイム以外の日時でも対応するようにします。		

担当者の研究室等	枚方キャンパス 8号館 (農学部棟)・環境農学研究室 (213号室)
備考	

科目名	国際農業論	科目名 (英文)	International Agricultural Economics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	吉井 邦恒
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	OAE2045a0		

授業概要・目的
日本は世界有数の農産物輸入国であり、国民への食料供給を確保するためには、貿易交渉等を通じて、国内農業の生産力の維持と農産物輸入の安定化を図ることが重要である。また、世界の農産物貿易では、アメリカ、EU等の先進国が輸出・輸入ともに、主要なプレーヤーとなっており、先進国の農業事情や農業政策は世界の食料需給に大きな影響を与えている。本講義では、世界の食料需給、先進国の農業事情・農業政策、農産物に関する貿易交渉について、経済学的な考え方に基づき、理解し考察する。授業担当者は、中央政府の行政官としての実務経験を持ち、授業ではその経験を踏まえた事例の紹介などを取り入れる。

到達目標
① アメリカ、EU等における農業の特徴・農業政策と農産物貿易交渉の内容を理解する。
② アメリカ、EU等における農業政策の変遷とその背景にある農業事情等の変化を理解する。
③ 農産物貿易交渉の変遷とその背景にある農業事情等の変化を理解する。
④ 行政機関や企業・団体の農業・食料・食品部門の担当者とのコミュニケーションに必要な海外の農業事情に関する基礎知識を身につける。

授業方法と留意点
資料プリントを配布し、スライドと板書を用いて講義形式で行う。配付資料等により、予習・復習を行うこと。
ふりかえりシート (毎回) のほか、小テストやレポートにより、授業の理解度を把握する。
質問等には、授業後やオフィスアワー、電子メールで対応するので、積極的に利用すること。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	世界の食料需給	世界の食料需給の動向と世界人口の増加や地球温暖化等を考慮した将来予測について、理解する。	事前：シラバスの理解 事後：講義資料に記載した内容を学習する。
2	自由貿易と保護貿易	自由貿易と保護貿易に関する経済理論について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
3	農産物貿易交渉の歴史	GATT 及び WTO における農産物貿易交渉の歴史と日本の交渉上の立場について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
4	FTA・EPA と多国間貿易交渉	FTA (自由貿易協定)・EPA (経済連携協定) と多国間貿易交渉の現状について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
5	アメリカの農業構造	アメリカの農業構造について、日本と対比して理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
6	アメリカ農業法の変遷	アメリカの農業政策の根幹をなす農業法の変遷について、背景となる農業事情を含めて理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
7	アメリカの経営安定対策	アメリカの価格・収入安定対策と農業保険の仕組みと経済的効果について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
8	アメリカの環境・栄養政策	アメリカの環境保全対策と低所得者等を対象とする栄養プログラムの仕組みについて、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
9	EUの農業構造	EUの農業構造について、日本・アメリカと対比して理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
10	EUの共通農業政策の変遷	EU加盟国の農業政策の根幹をなす共通農業政策とその変遷について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
11	EUの経営安定対策	EUの価格安定対策、直接支払い及び国境措置の仕組みと経済的効果について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
12	EUの農村振興政策	EUの条件不利地域対策、農業環境政策及び青年農業者の就業支援の仕組みについて、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
13	フランス・ドイツの農業事情	EUの代表的な加盟国であるフランスとドイツの農業事情と農業政策について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
14	先進国と途上国の農業政策	アメリカ・EU以外の先進国の農業政策、先進国と開発途上国における農業政策の違いについて、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。
15	先進国農業政策の展開方向	アメリカの2018年農業法やEUの2020年以降の共通農業政策の推進状況に基づき、先進国農業政策の今後の方向について、理解する。	講義資料に記載した内容を事前・事後に学習する。

関連科目 食料・農業経済学、食料・農業・農村政策論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特に指定しない		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要に応じて紹介する		
2			
3			

評価方法 (基準)	①期末レポート50%、②小テスト・小レポート・ふりかえりシート50%で評価し、①と②を合計して60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	農業や食料は気候風土に根ざしており、世界各国は独自の食料・農業の問題を抱えています。日本の農業・食料の問題を考える上で、他国の事情も参考にしましょう。
担当者の 研究室等	食料・農業政策学研究室（農学部2階214）
備考	

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 雅之
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	<p>本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。</p> <p>SDGs 4</p>
到達目標	<p>① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。</p>
授業方法と留意点	<p>① 講義グループワーク・個人ワーク・ディスカッションなどを実施する。 ② 個人およびグループ毎に課題を設定して、その調査及び発表を課す。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>① 摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ② 主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第 1 章 摂南大学を知ろう ABD を実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第 1 章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。
2	第 2 章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 2 章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
3	第 3 章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学での主体的で深い学びの方法。ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 3 章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
4	第 4 章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第 5 章快適で安心な学生生活をおくるために	第 4 章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第 5 章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 4 章及び第 5 章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
5	第 6 章今までの自分を自分で分析しよう。 第 7 章キャリア・プランニング 第 8 章 SPI、公務員試験、TOEIC?, L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第 6～第 8 章章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
6	学外実習の準備	学外実習での訪問先について、事前に調べた内容を発表する。	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。 事後：発表を踏まえた補足学習。	
7	学外実習①	食と農に関する学外実習①	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。 事後：学外実習のまとめ。	
8	学外実習②	食と農に関する学外実習②	事前：学外実習の訪問先についての事前学習。 事後：学外実習のまとめ。	
9	学外実習の振り返り	学外実習での訪問先で学んだ内容について発表する。	事前：発表の準備。 事後：発表の振り返り。	
10	課題学習①	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。 事後：授業内容の振り返り。	
11	課題学習②	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。 事後：授業内容の振り返り。	
12	課題学習③	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みを調べ、取り組みの内容・方法を学ぶ。	事前：食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みの事例を調べる。 事後：授業内容の振り返り。	
13	課題学習④	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについてのレポート作成。	事前：課題学習①～③の学習内容の整理。 事後：レポート作成のための補足学習。	
14	課題学習⑤	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表	事前：発表資料の準備。 事後：発表資料作成のための補足学習。	

			表資料の作成。	
	15	最終発表とディスカッション	食と農の資源の保全・活用の取り組みや地域の活性化の取り組みについての発表とディスカッション。	事前：発表の準備。 事後：課題学習①～⑤の振り返り。
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室(小野)、地域マネジメント研究室(浦出)、食農共生研究室(北川)、農業経済学研究室(成)、農水産物・食品マーケティング研究室(副島)、環境農学研究室(田中)、持続型フードシステム研究室(谷口)、食品流通研究室(戴)、食農教育研究室(中塚)、食品産業研究室(濱田)、農業経営学研究室(柳村)、食料・農業政策学研究室(吉井)			
備考				

科目名	食農ビジネス学基礎演習 I	科目名 (英文)	Basic Seminar of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦出 俊和、副島 久実、谷口 葉子、戴 容秦思
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1068a0		

授業概要・目的	大学における学修・研究活動や社会におけるビジネス活動において、PC の利用は一般的であり、また、様々な情報がインターネットを通じて簡単に取得できるようになっている。本演習では、情報を正しく利用するための情報リテラシー、情報倫理を学修し、PC を使用するための基本的な知識と技能 (特に、Word、Excel、PowerPoint の基本的操作方法) を修得するとともに、Excel による経済データの基礎的な加工方法について学修する。各演習では、学修内容を補完するための課題を出し、知識・技能の定着を目指す。
到達目標	① PC、ネットワーク、情報セキュリティ等の ICT の基本知識について理解する。 ② アプリケーションを操作して、文書作成、表計算処理、プレゼンテーション資料の作成が行える。 ③ 経済データの基本的な統計処理が行える。
授業方法と留意点	PC を用いた実習形式の授業を行う。毎回資料を配布し、授業の前半で資料の内容にそって練習課題を行い、その後各自で提出課題に取り組み、それを提出してもらう。

科目学習の効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>PC の基本操作と情報倫理、情報セキュリティ</td> <td>PC の基本操作およびファイルの操作方法を修得する。また、情報倫理と情報セキュリティについて理解する。</td> <td>事前：シラバスの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Word による文書作成</td> <td>文字入力、文章の作成の操作方法を修得する。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Word による文書編集</td> <td>段組&オブジェクトの利用の操作方法などの文章の編集を修得する。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Excel による作表</td> <td>文字列・数値データの入力・編集と表の作成・編集の操作方法を修得する。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Excel による表計算</td> <td>数式および関数を用いて、数値データの計算方法を修得する。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Excel によるグラフ作成</td> <td>グラフ作成の操作方法を修得する。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Excel によるデータベース利用</td> <td>データの並べ替え、フィルタの利用、ピボットテーブルの利用の操作方法を修得する。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>度数分布表・ヒストグラムの作成</td> <td>度数分布表とヒストグラムを作成してデータの分布を把握する。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>データの中心と散らばり</td> <td>データの代表値と散布度を計算する。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>時系列データ</td> <td>移動平均や成長率を計算する。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>データの標準化</td> <td>標準化変量や偏差値を計算する。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>2変数のデータの取り扱い</td> <td>ピボットテーブルを用いてクロス集計を行う。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>2変数間関係</td> <td>2変数についての散布図の作成と相関係数の計算をする。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Word の活用</td> <td>Word と Excel を連携してレポートを作成する。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>PowerPoint の基本操作方法を修得する。</td> <td>事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	PC の基本操作と情報倫理、情報セキュリティ	PC の基本操作およびファイルの操作方法を修得する。また、情報倫理と情報セキュリティについて理解する。	事前：シラバスの理解	2	Word による文書作成	文字入力、文章の作成の操作方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	3	Word による文書編集	段組&オブジェクトの利用の操作方法などの文章の編集を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	4	Excel による作表	文字列・数値データの入力・編集と表の作成・編集の操作方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	5	Excel による表計算	数式および関数を用いて、数値データの計算方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	6	Excel によるグラフ作成	グラフ作成の操作方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	7	Excel によるデータベース利用	データの並べ替え、フィルタの利用、ピボットテーブルの利用の操作方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	8	度数分布表・ヒストグラムの作成	度数分布表とヒストグラムを作成してデータの分布を把握する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	9	データの中心と散らばり	データの代表値と散布度を計算する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	10	時系列データ	移動平均や成長率を計算する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	11	データの標準化	標準化変量や偏差値を計算する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	12	2変数のデータの取り扱い	ピボットテーブルを用いてクロス集計を行う。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	13	2変数間関係	2変数についての散布図の作成と相関係数の計算をする。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	14	Word の活用	Word と Excel を連携してレポートを作成する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	15	プレゼンテーション	PowerPoint の基本操作方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	PC の基本操作と情報倫理、情報セキュリティ	PC の基本操作およびファイルの操作方法を修得する。また、情報倫理と情報セキュリティについて理解する。	事前：シラバスの理解																																																														
2	Word による文書作成	文字入力、文章の作成の操作方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														
3	Word による文書編集	段組&オブジェクトの利用の操作方法などの文章の編集を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														
4	Excel による作表	文字列・数値データの入力・編集と表の作成・編集の操作方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														
5	Excel による表計算	数式および関数を用いて、数値データの計算方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														
6	Excel によるグラフ作成	グラフ作成の操作方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														
7	Excel によるデータベース利用	データの並べ替え、フィルタの利用、ピボットテーブルの利用の操作方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														
8	度数分布表・ヒストグラムの作成	度数分布表とヒストグラムを作成してデータの分布を把握する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														
9	データの中心と散らばり	データの代表値と散布度を計算する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														
10	時系列データ	移動平均や成長率を計算する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														
11	データの標準化	標準化変量や偏差値を計算する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														
12	2変数のデータの取り扱い	ピボットテーブルを用いてクロス集計を行う。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														
13	2変数間関係	2変数についての散布図の作成と相関係数の計算をする。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														
14	Word の活用	Word と Excel を連携してレポートを作成する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														
15	プレゼンテーション	PowerPoint の基本操作方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出																																																														

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第4版 はじめよう 経済学のための情報処理</td> <td>山下隆之・石橋太郎・伊東暁人・上藤一郎・黄愛珍・鈴木拓也</td> <td>日本評論社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	第4版 はじめよう 経済学のための情報処理	山下隆之・石橋太郎・伊東暁人・上藤一郎・黄愛珍・鈴木拓也	日本評論社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	第4版 はじめよう 経済学のための情報処理	山下隆之・石橋太郎・伊東暁人・上藤一郎・黄愛珍・鈴木拓也	日本評論社														
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Excel で読み取る経済データ分析</td> <td>橋本紀子</td> <td>新世社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>よくわかる統計学II 経済統計編 第2版</td> <td>御園謙吉・良永康平 編</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Excel による統計入門 第4版</td> <td>縄田和満</td> <td>朝倉書店</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Excel で読み取る経済データ分析	橋本紀子	新世社	2	よくわかる統計学II 経済統計編 第2版	御園謙吉・良永康平 編	ミネルヴァ書房	3	Excel による統計入門 第4版	縄田和満	朝倉書店
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Excel で読み取る経済データ分析	橋本紀子	新世社														
2	よくわかる統計学II 経済統計編 第2版	御園謙吉・良永康平 編	ミネルヴァ書房														
3	Excel による統計入門 第4版	縄田和満	朝倉書店														

評価方法 (基準)	課題の提出状況とその内容 (100%) で評価し、60%以上で合格とする。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	地域マネジメント研究室 (浦出)、農水産物・食品マーケティング研究室 (副島)、持続型フードシステム研究室 (谷口)、食品流通研究室 (戴)
備考	

科目名	食農ビジネス学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Basic Seminar of Agri-Food Business II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 雅之・成 善政・柳村 俊介・吉井 邦恒
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE2069a0		

授業概要・目的	本演習は、食農ビジネス学科での専門的な学修を本格的に始めるにあたって、わが国や世界の食料・農業・農村の動向と現状、解決すべき課題の所在について認識を深めるとともに、基礎的な知識を修得することを目的とする。具体的には、「食料・農業・農村白書」をはじめとする基礎的な文献をテキストにして、輪読、発表、ディスカッションを行うことによって、理解をより深めるとともに、主体的な学修の姿勢を身につけることを目的とする。
到達目標	① わが国や世界の食料・農業・農村の現状についての認識を深めることができる。 ② 食農ビジネス学科での学修に必要な基礎的な知識を身につけることができる。 ③ 文献の読み方、理解の仕方と、まとめや発表を行う能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	① 学生を4つのグループに分け、それぞれ担当の教員を決めて、少人数ゼミナール形式で行う。 ② 文献の輪読、発表、ディスカッションを中心に行う。

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	演習の進め方、役割分担等	事前：シラバスの理解 事後：次回取り上げる内容の確認
2	世界の食料需給の動向と課題	テキストに基づいて、世界の食料需給と農産物貿易の動向をプレゼンテーションし、課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
3	わが国の食料消費の動向と課題	テキストに基づいて、わが国の食料消費の動向をプレゼンテーションし、課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
4	食の安全と消費者の信頼確保の課題	テキストに基づいて、食の安全と消費者の信頼確保についてプレゼンテーションし、理解を深める。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
5	食品産業の動向と課題	テキストにもとづいて、食品産業の動向をプレゼンテーションし、課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
6	ディスカッション・意見交換Ⅰ	以上3回の内容を踏まえて、食料の安定供給の確保のあり方と課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
7	農業生産の動向と課題	テキストに基づいて、農業生産の動向をプレゼンテーションし、課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
8	農業経営の動向と担い手の確保の課題	テキストに基づいて、農業経営の動向と担い手の確保をプレゼンテーションし、課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
9	主要農畜産物の生産の動向と課題	テキストに基づいて、主要農畜産物の生産の動向をプレゼンテーションし、課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
10	農業関連団体の動向と課題	テキストに基づいて、農協をはじめとする農業関連団体の動向をプレゼンテーションし、課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
11	ディスカッション・意見交換Ⅱ	以上4回の内容を踏まえて、農業の持続的発展のあり方と課題についてディスカッションを行う。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
12	都市と農村の共生・対流の現状と課題	テキストに基づいて、都市と農村の共生・対流の現状をプレゼンテーションし、課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
13	農業・農村の多面的機能の維持・発揮	テキストに基づいて、農業・農村の多面的機能の維持・発展の取り組みをプレゼンテーションし、課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
14	ディスカッションⅢ	以上の2回の内容を踏まえて、農村の振興・活性化のあり方と課題についてディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
15	演習のまとめ	食料・農業・農村のこれからのあり方と課題、その解決方法について、ディスカッションする。	事前：これまでの内容の振り返り

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食料・農業・農村白書	農林水産省	農林水産省HP
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
2				

	3		
評価方法 (基準)	毎回の準備状況、発表内容、ディスカッションへの参加状況（ルーブリック評価）を総合的に評価し、60%以上で合格とする。		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室（小野）、農業経済学研究室（成）、農業経営学研究室（柳村）、食料・農業政策学研究室（吉井）		
備考			

科目名	食農ビジネス学基礎演習Ⅲ	科目名 (英文)	Basic Seminar of Agri-Food Business III
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北川 太一、田中 樹、中塚 華奈、濱田 英嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE2070a0		

授業概要・目的
 本演習は、食農ビジネス学科での専門的な学修をより深めるために、わが国や世界の食料・農業・農村の動向と現状、解決すべき課題の所在と解決の方向について認識をさらに深めるとともに、専門的な知識と考え方を修得することを目的とする。具体的には、より専門的な文献をテキストにして、輪読、発表し、ディスカッションを行うことによって、テキストの内容に関する理解をより深めるとともに、主体的な学修の姿勢を身につけることを目的とする。
 また、学外の地域、農業・食料関連の団体や施設等を対象としたエクスカージョン、小グループを単位とした課題学習と成果発表等も行う予定である。使用する教材も含めて詳細は、Teams および第1回目のオリエンテーション時に説明するので、十分に注意すること。

到達目標
 ① わが国や世界の食料・農業・農村の現状についての認識をより深めることができる。
 ② 食農ビジネス学科での学修に必要な専門的な知識と考え方を身につけることができる。
 ③ 文献の読み方、理解の仕方と、まとめや発表を行う能力を身につけることができる。

授業方法と留意点
 ① 学生を4つのグループに分け、それぞれ担当の教員を決めて、少人数ゼミナール形式で行う。
 ② 教員が指定する文献の輪読、発表、ディスカッションを中心に行う。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	演習の進め方、役割分担等	事前：シラバスの理解 事後：次回取り上げる内容の確認
2	食料に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の食料に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
3	食料に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の食料に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
4	食料に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の食料に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
5	食料に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の食料に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
6	ディスカッションⅠ	わが国や世界の食料の現状と課題に関してディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
7	農業に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の農業に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
8	農業に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の農業に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
9	農業に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の農業に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
10	農業に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の農業に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
11	ディスカッションⅡ	わが国や世界の食料の現状と課題に関するディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
12	農村に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の農村に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
13	農村に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の農村に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
14	農村に関する文献の輪読・発表・ディスカッション	わが国や世界の農村に関する文献を取り上げ、その内容についての発表・ディスカッションする。	事前：文献の該当箇所の読了 事後：文献の該当箇所の復習と次回の該当箇所の読了
15	ディスカッションⅢ	わが国や世界の食料の現状と課題に関するディスカッションする。	事前：これまでの内容の振り返り

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教員が指定する文献や資料		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
2				
3				

評価方法 (基準)	毎回の準備状況、発表内容、ディスカッションへの参加状況（ルーブリック評価）を総合的に評価し、60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	好奇心のアンテナを絶えず張りながら、農業、農村、地域を見つめる目を養いましょう！
担当者の 研究室等	北川：8号館 318 田中：8号館 213 中塚：8号館 317 濱田：8号館 217
備考	★9/16の第1回目は、学科全体のガイダンスを行うので、必ず出席すること。（上記、この授業全体のチャンネル nefesv3 より入室する）

科目名	日本語表現法	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OJA1402a2		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する力」を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。2回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 ほぼ毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――
2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	前回の復習
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
7	フィードバック	課題1のフィードバック	課題1を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
12	レポートの書き方1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
13	フィードバック	課題2のフィードバック	課題2を見直す
14	【レポート】	レポートを提出する	レポートを作成する
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	課題2回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
-----------	--

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	事前・事後学習の総時間の目安は、15時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
----	---

科目名	日本語表現法	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	筒井 大祐
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OJA1402a2		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。本講義は、文章作成を一方向的に講義するのではなく、受講者が実際に文章を書きながら、文章作成を習得することを目指す。そのため、練習問題や課題の作成を課す。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	1時間の事前事後学習を目安とする。
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
7	フィードバック	課題1のフィードバック	1時間の事前事後学習を目安とする。
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	1時間の事前事後学習を目安とする。
11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	1時間の事前事後学習を目安とする。
12	レポートの書き方1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	1時間の事前事後学習を目安とする。
13	フィードバック	課題2のフィードバック	1時間の事前事後学習を目安とする。
14	【レポート】	レポートを提出する	レポートを作成する
15	レポートの講評 文章作成に関するまとめ	レポートについて講評する 文章作成に関して、まとめを行う	これまでの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	課題2回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語 (話し言葉) と、レポートなどで書く日本語 (書き言葉) は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、文章表現の方法を勉強していきましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室
備考	提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	桑原 拓也
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1403c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業や成績評価等についての説明	
2	Unit 1 : 文の要素と基本 5 文型	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの予習
3	Unit 1 : 文の要素と基本 5 文型	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
4	Unit 2 : 動詞の種類	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
5	Unit 2 : 動詞の種類	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての復習
6	Unit 3 : 動詞の時制	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
7	Unit 3 : 動詞の時制	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 中間テストに向けての予習
8	中間テスト	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
9	Unit 4 : 助動詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
10	Unit 4 : 助動詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
11	Unit 5 : 名詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
12	Unit 5 : 名詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
13	Unit 6 : 代名詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
14	Unit 6 : 代名詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
15	まとめテスト	文法問題、資料の読解問題を解く	前期の範囲の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Steady Steps -Upgrading Grammar Skills for Better Reading and Writing-	日高正司 / 三幣友行 / Bruce Miller	朝日出版社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 提出課題 80%
-----------	--------------------------

学生へのメッセージ	基本的な文法事項から確認していくので、毎回出席し、課題などは忘れずに出すことを心がけてください。また、みなさんの興味や関心、レベルによって進度や内容も適宜変更してきます。積極的に授業に参加し、意見を出してもらえることを期待しています。
-----------	---

担当者の研究室等	1 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺脇 圭子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1403c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	・オリエンテーション ・Lesson 1 My Family (1)	・評価基準、授業の進め方、授業のルールなどについての説明 ・単語・フレーズ ・Reading	・Reading の復習
2	・Lesson 1 My Family (2)	・Listening ・家族/親戚に関する単語 ・be 動詞①	・授業の復習 ・英作文の予習
3	・Lesson 1 My Family (2) ・Lesson 2 Our Campus (1)	・英作文 ・ペアワーク ・単語・フレーズ ・Reading	・Lesson 1 の復習
4	・Lesson 1 小テスト ・Lesson 2 Our Campus (2)	・小テスト ・Listening ・場所の前置詞 ・be 動詞②(場所)	・授業の復習
5	・Lesson 2 Our Campus (3)	・名詞を修飾する前置詞句 ・ペアワーク	・Lesson 2 の復習
6	・Lesson 2 小テスト ・Lesson 3 Jobs and Workplaces (1)	・小テスト ・単語・フレーズ ・一般動詞① ・Listening	・授業の復習
7	・Lesson 3 Jobs and Workplaces (2)	・職業の単語 ・Listening ・一般動詞② ・場所・時の副詞句	・授業の復習
8	・Lesson 3 Jobs and Workplaces (3) ・Lesson 4 Everyday Activities (1)	・英作文(語順) ・ペアワーク ・単語・フレーズ ・Reading	・Lesson 3 の復習
9	・Lesson 3 小テスト ・Lesson 4 Everyday Activities (2)	・小テスト ・一般動詞③ ・単語・フレーズ	・授業の復習
10	・Lesson 4 Everyday Activities (3) ・Lesson 5 Transportation (1)	・代名詞 ・ペアワーク ・単語・フレーズ ・Reading	・Lesson 4 の復習
11	・Lesson 4 小テスト ・Lesson 5 Transportation (2)	・小テスト ・Listening ・交通機関の単語	・授業の復習
12	・Lesson 5 Transportation (3) ・Lesson 6 Part-time Jobs (1)	・命令文 ・前置詞 ・ペアワーク	・Lesson 5 の復習
13	・Lesson 5 小テスト ・Lesson 6 Part-time Jobs (2)	・小テスト ・単語・フレーズ ・Reading	・授業の復習
14	・Lesson 6 Part-time Jobs (3)	・Listening ・図・表の読み方 ・英作文 ・ペアワーク	前期の総復習(1)
15	・総復習 ・まとめテスト	・前期の総復習 ・まとめテスト	前期の総復習(2)

関連科目	他の英語科目
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	LET'S MAKE IT SIMPLE!	森田和子/高橋順子/北本洋子	株式会社 三修社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回辞書を持参する事 ・ 授業中の携帯電話の使用を禁止する 			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	3
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	木村 理恵子
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1403c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	・オリエンテーション ・Chapter 1 Breast Is Best	・評価基準、授業の進め方、授業のルールなどについての説明 ・Chapter 1 単語・フレーズの説明 ・Chapter 1 小テスト ・Chapter 2/3 単語・フレーズの説明	・Chapter 1 の情報内容の復習まとめ ・Chapter 2/3 の読解予習
2	・Chapter 2 Designer Foods ・Chapter 3 The Benefits of Physical Exercise	・Chapter 2/3 小テスト ・Chapter 4/5 単語・フレーズの説明	・Chapter 2/3 の情報内容の復習まとめ ・Chapter 4/5 の読解予習
3	・Chapter 4 How to Treat Acne ・Chapter 5 Cancer and Culture	・Chapter 4/5 小テスト ・Chapter 6/7 単語・フレーズの説明	・Chapter 4/5 の情報内容の復習まとめ ・Chapter 6/7 の読解予習
4	・Chapter 6 Don't Be Fooled by Tobacco ・Chapter 7 Overcoming Depression	・Chapter 6/7 小テスト ・Chapter 8/9 単語・フレーズの説明	・Chapter 6/7 の情報内容の復習まとめ ・Chapter 8/9 の読解予習
5	・Chapter 8 Bald Spots and Heart Disease ・Chapter 9 Eating Your Heart Out	・Chapter 8/9 小テスト ・Chapter 10/11 単語・フレーズの説明	・Chapter 8/9 の情報内容の復習まとめ ・Chapter 10/11 の読解予習
6	・Chapter 10 Healthy Drinks (1) ・Chapter 11 Healthy Drinks (2)	・Chapter 10/11 小テスト ・Chapter 12/13 単語・フレーズの説明	・Chapter 10/11 の情報内容の復習まとめ ・Chapter 12/13 の読解予習
7	・Chapter 12 Myths About Food ・Chapter 13 Beta-carotene Power	・Chapter 12/13 小テスト ・Chapter 14/15 単語・フレーズの説明	・Chapter 12/13 の情報内容の復習まとめ ・Chapter 14/15 の読解予習
8	・Chapter 14 The Fast Road to Good Health ・Chapter 15 Getting a Tan	・Chapter 14/15 小テスト ・Chapter 16/17 単語・フレーズの説明	・Chapter 14/15 の情報内容の復習まとめ ・Chapter 16/17 の読解予習
9	・Chapter 16 The Importance of Getting Fiber ・Chapter 17 Healthy Places to Live	・Chapter 16/17 小テスト ・Chapter 18/19 単語・フレーズの説明	・Chapter 16/17 の情報内容の復習まとめ ・Chapter 18/19 の読解予習
10	・Chapter 18 Treatment for the Morning After ・Chapter 19 Are You Getting Enough Exercise?	・Chapter 18/19 小テスト ・Chapter 20/21 単語・フレーズの説明	・Chapter 18/19 の情報内容の復習まとめ ・Chapter 20/21 の読解予習
11	・Chapter 20 Long-Life Insurance ・Chapter 21 Hippocrates and the Art of Medicine	・Chapter 20/21 小テスト ・テキスト情報の復習まとめを利用した Presentation の用意方法を知る ・科学的な思考方法のアプローチ方法を知る	・Chapter 20/21 の情報内容の復習まとめ ・思考方法について復習練習
12	応用 Reading (1)	・図表を利用した Reading を読む ・本日の Reading 内容からの小テスト	・Presentation の用意 (図表を探す)
13	応用 Reading (2)	・Abstract を読む ・本日の Abstract 内容からの小テスト	・自分の発表内容の Abstract を考察にいれながら、その他の Abstract を読む練習をする。
14	Presentation (1)	・個々人の発表を聞きながらレポートする	自分の Presentation の用意

	15	Presentation (2)	・個々人の発表を聞きながらレポートする	自分の Presentation の用意
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	HEALTHY LIVING	瀬谷幸男 他著	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単語力に非常に欠ける場合は辞書持参を強く勧める。 ・ 授業中の携帯電話の使用を禁止する 			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	木村 理恵子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1404c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	・オリエンテーション ・Unit 1 名詞の可算・不可算	・評価基準、授業の進め方、授業のルールなどについての説明 ・Unit 1 の考え方の説明 ・Unit 1 の小テスト ・Unit 2 の考え方の説明	・Unit 1 の復習と英作文練習
	2	・Unit 2 品詞の判断	・Unit 2 の小テスト ・Unit 3 の考え方の説明 (関連したリスニングがあります)	・Unit 2 の復習と英作文練習
	3	・Unit 3 準動詞	・Unit 3 の小テスト ・Unit 4 の考え方の説明 (関連したリスニングがあります)	・Unit 3 の復習と英作文練習
	4	・Unit 4 接続詞/前置詞	・Unit 4 の小テスト ・Unit 5 の考え方の説明 (関連したリスニングがあります)	・Unit 4 の復習と英作文練習
	5	・Unit 5 動詞/関係詞	・Unit 5 の小テスト ・Unit 6 の考え方の説明 (関連したリスニングがあります)	・Unit 5 の復習と英作文練習
	6	・Unit 6 比較/仮定法	・Unit 6 の小テスト ・Unit 7 の考え方の説明 (関連したリスニングがあります)	・Unit 6 の復習と英作文練習
	7	・Unit 7 副詞/形容詞	・Unit 7 の小テスト ・Unit 8 の考え方の説明 (関連したリスニングがあります)	・Unit 7 の復習と英作文練習
	8	・Unit 8 熟語の判断	・Unit 8 の小テスト ・Unit 9 の考え方の説明 (関連したリスニングがあります)	・Unit 8 の復習と英作文練習
	9	・Unit 9 語彙の判断	・Unit 9 の小テスト ・Unit 10 の考え方の説明 (関連したリスニングがあります)	・Unit 9 の復習と英作文練習
	10	・Unit 10 Part 6: 英文メール(1)	・Unit 10 の小テスト ・Unit 11 の考え方の説明 (関連したリスニングがあります)	・Unit 10 の復習と英作文練習
	11	・Unit 11 Part 6: 英文メール(2)	・Unit 11 の小テスト ・Unit 12 の考え方の説明 (関連したリスニングがあります)	・Unit 11 の復習と英作文練習
	12	・Unit 12 Part 6: 英文書	・Unit 12 の小テスト ・Unit 13 の考え方の説明 (関連したリスニングがあります)	・Unit 12 の復習と英作文練習
	13	・Unit 13 Part 7: Single Passage (1)	・Unit 13 の小テスト ・Unit 14 の考え方の説明 (関連したリスニングがあります)	・Unit 13 の復習と英作文練習
	14	・Unit 14 Part 7: Single Passage (2)	・Unit 14 の小テスト ・Unit 15 の考え方の説明 (関連したリスニングがあります)	・Unit 14 の復習と英作文練習
	15	・Unit 15 Part 7: Double Passage	・Unit 15 の小テスト (関連したリスニングがあります)	レポート提出準備

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC TEST READING 450	片野田浩子 他著	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テストおよびレポート	100%
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・単語力に非常に欠ける場合は特に毎回辞書を持参する事 ・授業中の携帯電話の使用を禁止する 	
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。	

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	桑原 拓也
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1404c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業や成績評価等についての説明	
	2	Unit 1 : 文の要素と基本 5 文型	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの予習
	3	Unit 1 : 文の要素と基本 5 文型	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
	4	Unit 2 : 動詞の種類	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
	5	Unit 2 : 動詞の種類	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての復習
	6	Unit 3 : 動詞の時制	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
	7	Unit 3 : 動詞の時制	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 中間テストに向けての予習
	8	中間テスト	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
	9	Unit 4 : 助動詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
	10	Unit 4 : 助動詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
	11	Unit 5 : 名詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
	12	Unit 5 : 名詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
	13	Unit 6 : 代名詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
	14	Unit 6 : 代名詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
	15	まとめテスト	文法問題、資料の読解問題を解く	前期の範囲の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Steady Steps -Upgrading Grammar Skills for Better Reading and Writing-	日高正司 / 三幣友行 / Bruce Miller	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	提出課題 100%
-----------	-----------

学生へのメッセージ	基本的な文法事項から確認していくので、毎回出席し、課題などは忘れずに出すことを心がけてください。また、みなさんの興味や関心、レベルによって進捗や内容も適宜変更してきます。積極的に授業に参加し、意見を出してもらえることを期待しています。
-----------	---

担当者の研究室等	1 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1 年	クラス	3
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺脇 圭子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1404c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	・オリエンテーション ・Lesson 1 My Family (1)	・評価基準、授業の進め方、授業のルールなどについての説明 ・単語・フレーズ ・Reading	・Reading の復習
	2	・Lesson 1 My Family (2)	・Listening ・家族/親戚に関する単語 ・be 動詞①	・授業の復習 ・英作文の予習
	3	・Lesson 1 My Family (2) ・Lesson 2 Our Campus (1)	・英作文 ・ペアワーク ・単語・フレーズ ・Reading	・Lesson 1 の復習
	4	・Lesson 1 小テスト ・Lesson 2 Our Campus (2)	・小テスト ・Listening ・場所の前置詞 ・be 動詞② (場所)	・授業の復習
	5	・Lesson 2 Our Campus (3)	・名詞を修飾する前置詞句 ・ペアワーク	・Lesson 2 の復習
	6	・Lesson 2 小テスト ・Lesson 3 Jobs and Workplaces (1)	・小テスト ・単語・フレーズ ・一般動詞① ・Listening	・授業の復習
	7	・Lesson 3 Jobs and Workplaces (2)	・職業の単語 ・Listening ・一般動詞② ・場所・時の副詞句	・授業の復習
	8	・Lesson 3 Jobs and Workplaces (3) ・Lesson 4 Everyday Activities (1)	・英作文 (語順) ・ペアワーク ・単語・フレーズ ・Reading	・Lesson 3 の復習
	9	・Lesson 3 小テスト ・Lesson 4 Everyday Activities (2)	・小テスト ・一般動詞③ ・単語・フレーズ	・授業の復習
	10	・Lesson 4 Everyday Activities (3) ・Lesson 5 Transportation (1)	・代名詞 ・ペアワーク ・単語・フレーズ ・Reading	・Lesson 4 の復習
	11	・Lesson 4 小テスト ・Lesson 5 Transportation (2)	・小テスト ・Listening ・交通機関の単語	・授業の復習
	12	・Lesson 5 Transportation (3) ・Lesson 6 Part-time Jobs (1)	・命令文 ・前置詞 ・ペアワーク	・Lesson 5 の復習
	13	・Lesson 5 小テスト ・Lesson 6 Part-time Jobs (2)	・小テスト ・単語・フレーズ ・Reading	・授業の復習
	14	・Lesson 6 Part-time Jobs (3)	・Listening ・図・表の読み方 ・英作文 ・ペアワーク	前期の総復習 (1)
	15	・総復習 ・まとめテスト	・前期の総復習 ・まとめテスト	前期の総復習 (2)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	LET'S MAKE IT SIMPLE!	森田和子/高橋順子/北本洋子	株式会社 三修社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	まとめテスト	30%		
	課題・小テスト	40%		
	授業への参加、貢献	30%		
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回辞書を持参する事 ・授業中の携帯電話の使用を禁止する 			
担当者の 研究室等	1号館 2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	桑原 拓也
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1405c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業や成績評価等についての説明	シラバスに目を通す
2	Unit 7: 冠詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの予習
3	Unit 7: 冠詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
4	Unit 8: 不定詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
5	Unit 8: 不定詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての復習
6	Unit 9: 分詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
7	Unit 9: 分詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 中間テストに向けての予習
8	中間テスト	文法問題、資料の読解問題を解く	次回に向けての予習
9	Unit 10: 動名詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
10	Unit 10: 動名詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
11	Unit 11: 接続詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
12	Unit 11: 接続詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
13	Unit 12: 関係詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
14	Unit 12: 関係詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
15	まとめテスト	文法問題、資料の読解問題を解く	後期の範囲の復習

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Steady Steps -Upgrading Grammar Skills for Better Reading and Writing-</td> <td>日高正司 / 三幣友行 / Bruce Miller</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Steady Steps -Upgrading Grammar Skills for Better Reading and Writing-	日高正司 / 三幣友行 / Bruce Miller	朝日出版社	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Steady Steps -Upgrading Grammar Skills for Better Reading and Writing-	日高正司 / 三幣友行 / Bruce Miller	朝日出版社													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂													
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>辞書</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	辞書			2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	辞書															
	2																
3																	

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% 授業における課題提出 80%
学生へのメッセージ	基本的な文法事項から確認していくので、毎回出席し、課題などは忘れずに出すことを心がけてください。また、みなさんの興味や関心、習熟度によってシラバスの予定や進度を適宜変えていきます。積極的に授業に参加し、意見を出してもらえることを期待しています。
担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺脇 圭子
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1405c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	・ Lesson 7 Health & Illness (1)	・ 単語・フレーズ ・ 病院の様子 ・ Listening	・ 授業の復習
	2	・ Lesson 7 Health & Illness (2)	・ Wh 疑問文① ・ 英作文 ・ ペアワーク	・ Lesson 7 の復習
	3	・ Lesson 7 小テスト ・ Lesson 8 Shopping (1)	・ 小テスト ・ 単語・フレーズ ・ オンラインショッピングのフォーム ・ Listening	・ 授業の復習 ・ 英作文の予習
	4	・ Lesson 8 Shopping (2)	・ Wh 疑問文② ・ 不加算名詞の数え方 ・ 英作文 ・ ペアワーク	・ Lesson 8 の復習
	5	・ Lesson 8 小テスト ・ Lesson 9 Leisure (1)	・ 小テスト ・ 単語・フレーズ ・ Reading ・ Listening	・ 授業の復習
	6	・ Lesson 9 Leisure (2)	・ 時の表現 ・ Listening ・ ペアワーク ・ 英作	・ Lesson 9 の復習
	7	・ Lesson 9 小テスト ・ Lesson 10 College Life (1)	・ 小テスト ・ 単語・フレーズ ・ Reading (メール) ・ Listening	・ 授業の復習
	8	・ Lesson 10 College Life (2)	・ 単語・フレーズ ・ Listening ・ 助動詞 ・ ペアワーク	・ Lesson 10 の復習
	9	・ Lesson 10 小テスト ・ Lesson 11 Countries (1)	・ 小テスト ・ 国・都市名 ・ 地図の読み取り ・ Listening ・ 天気	・ 授業の復習
	10	・ Lesson 11 Countries (2)	・ 比較と最上級 ・ ペアワーク	・ Lesson 11 の復習
	11	・ Lesson 11 小テスト ・ Lesson 12 Taking a Trip (1)-1	・ 小テスト ・ 国・都市名 ・ Listening	・ 授業の復習
	12	・ Lesson 12 Taking a Trip (1)-2	・ 単語・フレーズ(旅行) ・ Listening ・ ペアワーク ・ 英作文	・ Lesson 12 の復習
	13	・ Lesson 12 小テスト ・ Lesson 13 Taking a Trip (2)-1	・ 小テスト ・ 単語・フレーズ ・ チケットの読み取り	・ 授業の復習
	14	・ Lesson 13 Taking a Trip (2)-2	・ Reading ・ 英作文	後期の総復習 (1)
	15	・ 総復習 ・ まとめテスト	・ 後期の総復習 ・ まとめテスト	後期の総復習 (2)

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	LET'S MAKE IT SIMPLE!	森田和子/高橋順子/北本洋子	株式会社 三修社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回辞書を持参する事 ・ 授業中の携帯電話の使用を禁止する <p>* 授業初日は、時間割通りの時間前に Teams に参加してください。</p>			
担当者の 研究室等	1号館 2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	3
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木村 理恵子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1405c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	・Chapter 23 Healthy Dining Out ・Chapter 24 Mind/Body Medicine	・Chapter 23/24 小テスト ・Chapter 25/26 単語・フレーズの説明	・Chapter 23/24 の情報内容の復習まとめ ・Chapter 25/26 の読解予習
3	・Chapter 25 Juggle Your Troubles Away ・Chapter 26 Safer Sex at Tourist Resorts (1)	・Chapter 25/26 小テスト ・Chapter 27/28 単語・フレーズの説明	・Chapter 25/26 の情報内容の復習まとめ ・Chapter 27/28 の読解予習
4	・Chapter 27 Safer Sex at Tourist Resorts (2) ・Chapter 28 The Benefits of Massage	・Chapter 27/28 小テスト ・Chapter 29/30 単語・フレーズの説明	・Chapter 27/28 の情報内容の復習まとめ ・Chapter 29/30 の読解予習
5	・Chapter 29 Safer Sleep ・Chapter 30 Reach Out and Touch Somebody	・Chapter 29/30 小テスト ・Chapter 31/32 単語・フレーズの説明	・Chapter 29/30 の情報内容の復習まとめ ・Chapter 31/32 の読解予習
6	・Chapter 31 The Benefits of Quitting Smoking ・Chapter 32 The Effects of Vitamin E on Cardiovascular Health	・Chapter 31/32 小テスト ・Chapter 33/34 単語・フレーズの説明	・Chapter 31/32 の情報内容の復習まとめ ・Chapter 33/34 の読解予習
7	・Chapter 33 My Vegetable Love Will Grow ・Chapter 34 Smart Drugs	・Chapter 33/34 小テスト ・Chapter 35/36 単語・フレーズの説明	・Chapter 33/34 の情報内容の復習まとめ ・Chapter 35/36 の読解予習
8	・Chapter 35 Relaxation Exercises ・Chapter 36 Walking Your Body	・Chapter 35/36 小テスト ・Chapter 37/38 単語・フレーズの説明	・Chapter 35/36 の情報内容の復習まとめ ・Chapter 37/38 の読解予習
9	・Chapter 37 Let Music Soothe Your Heart ・Chapter 38 A Sensible Drinker	・Chapter 37/38 小テスト ・Chapter 39/40 単語・フレーズの説明	・Chapter 37/38 の情報内容の復習まとめ ・Chapter 39/40 の読解予習
10	・Chapter 39 The Benefits of Moderate Physical Activity ・Chapter 40 Testing Your Fitness	・Chapter 39/40 小テスト ・Chapter 41/42 単語・フレーズの説明	・Chapter 39/40 の情報内容の復習まとめ ・Chapter 41/42 の読解予習
11	・Chapter 41 The Fitness Craze ・Chapter 42 How to Overcome Work-Related Stress	・Chapter 41/42 小テスト ・テキスト情報の復習まとめを利用した Presentation の用意方法を知る ・科学的な思考方法のアプローチ方法を知る(前期の内容を振り返りながら、発展させる)	・Chapter 41/42 の情報内容の復習まとめ ・思考方法について復習練習
12	応用 Reading (1)	・複数の記事を利用した Reading を読む ・本日の Reading 内容からの小テスト	・Presentation の用意(キーワードを利用して複数の論文レポートを検索する)
13	応用 Reading (2)	・複数の Abstract を読む(関連性を知	・自分の発表内容の Abstract を考察にいれながら、

			ることを目的とする) ・本日の複数の Abstract 内容からの小テスト	その他の Abstract を読む練習をする。
	14	Presentation (1)	・個々人の発表を聞きながらレポートする	自分の Presentation の用意
	15	Presentation (2)	・個々人の発表を聞きながらレポートする	自分の Presentation の用意
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	HEALTHY LIVING	瀬谷幸男 他著	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%			
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・単語力に非常に欠ける場合は辞書持参を強く勧める。 ・授業中の携帯電話の使用を禁止する 			
担当者の研究室等	1号館 2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIb
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木村 理恵子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1406c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	・オリエンテーション ・Unit 1 Modern Technology	・評価基準、授業の進め方、授業のルールなどについての説明 ・Unit 1 の考え方の説明 ・Unit 1 の小テスト ・Unit 2 の考え方の説明	・Unit 1 の復習と英作文練習
	2	・Unit 2 Traveling	・Unit 2 の小テスト ・Unit 3 の考え方の説明 (関連したリスニングがあります)	・Unit 2 の復習と英作文練習
	3	・Unit 3 Health	・Unit 3 の小テスト ・Unit 4 の考え方の説明 (関連したリスニングがあります)	・Unit 3 の復習と英作文練習
	4	・Unit 4 Work	・Unit 4 の小テスト ・Unit 5 の考え方の説明 (関連したリスニングがあります)	・Unit 4 の復習と英作文練習
	5	・Unit 5 Food	・Unit 5 の小テスト ・Unit 6 の考え方の説明 (関連したリスニングがあります)	・Unit 5 の復習と英作文練習
	6	・Unit 6 Headlines	・Unit 6 の小テスト ・Unit 7 の考え方の説明 (関連したリスニングがあります)	・Unit 6 の復習と英作文練習
	7	・Unit 7 Shopping	・Unit 7 の小テスト ・Unit 8 の考え方の説明 (関連したリスニングがあります)	・Unit 7 の復習と英作文練習
	8	・Unit 8 Entertainment and Sports	・Unit 8 の小テスト ・Unit 9 の考え方の説明 (関連したリスニングがあります)	・Unit 8 の復習と英作文練習
	9	・Unit 9 Environment	・Unit 9 の小テスト ・Unit 10 の考え方の説明 (関連したリスニングがあります)	・Unit 9 の復習と英作文練習
	10	・Unit 10 Part 6: 英文メール(1)	・Unit 10 の小テスト ・Unit 11 の考え方の説明 (関連したリスニングがあります)	・Unit 10 の復習と英作文練習
	11	・Unit 11 Part 6: 英文メール(2)	・Unit 11 の小テスト ・Unit 12 の考え方の説明 (関連したリスニングがあります)	・Unit 11 の復習と英作文練習
	12	・Unit 12 Part 6: 英文書	・Unit 12 の小テスト ・Unit 13 の考え方の説明 (関連したリスニングがあります)	・Unit 12 の復習と英作文練習
	13	・Unit 13 Part 7: Single Passage (1)	・Unit 13 の小テスト ・Unit 14 の考え方の説明 (関連したリスニングがあります)	・Unit 13 の復習と英作文練習
	14	・Unit 14 Part 7: Single Passage (2)	・Unit 14 の小テスト ・Unit 15 の考え方の説明 (関連したリスニングがあります)	・Unit 14 の復習と英作文練習
	15	・Unit 15 Part 7: Double Passage	・Unit 15 の小テスト (関連したリスニングがあります)	レポート提出準備

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC TEST READING 550	片野田浩子 他著	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テストおよびレポート	100%
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・単語力に非常に欠ける場合は特に毎回辞書を持参する事 ・授業中の携帯電話の使用を禁止する 	
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。	

科目名	基礎英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	桑原 拓也
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1406c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を高めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期は CEFR-J [A1.1-A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の 効果 (資格)	TOEIC, 英検等
------------------	------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業や成績評価等についての説明	シラバスに目を通す
2	Unit 7 : 冠詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの予習
3	Unit 7 : 冠詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
4	Unit 8 : 不定詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
5	Unit 8 : 不定詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての復習
6	Unit 9 : 分詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
7	Unit 9 : 分詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 中間テストに向けての予習
8	中間テスト	文法問題、資料の読解問題を解く	次回に向けての予習
9	Unit 10 : 動名詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
10	Unit 10 : 動名詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
11	Unit 11 : 接続詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
12	Unit 11 : 接続詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
13	Unit 12 : 関係詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
14	Unit 12 : 関係詞	文法問題、資料の読解問題を解く	テキストの復習 次回に向けての予習
15	まとめテスト	文法問題、資料の読解問題を解く	後期の範囲の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Steady Steps -Upgrading Grammar Skills for Better Reading and Writing-	日高正司 / 三幣友行 / Bruce Miller	朝日出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書		
2			
3			

評価方法 (基準)	課題提出 60% 期末課題 40%
-----------	----------------------

学生へのメッセージ	基本的な文法事項から確認していくので、毎回出席し、課題などは忘れずに出すことを心がけてください。 また、みなさんの興味や関心、習熟度によってシラバスの予定や進度を適宜変えていきます。積極的に授業に参加し、意見を出してもらえることを期待しています。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	3
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺脇 圭子
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1406c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	・ Lesson 7 Health & Illness (2)	・ Wh 疑問文① ・ 英作文 ・ ペアワーク	・ Lesson 7 の復習
3	・ Lesson 7 小テスト ・ Lesson 8 Shopping (1)	・ 小テスト ・ 単語・フレーズ ・ オンラインショッピングのフォーム ・ Listening	・ 授業の復習 ・ 英作文の予習
4	・ Lesson 8 Shopping (2)	・ Wh 疑問文② ・ 不加算名詞の教え方 ・ 英作文 ・ ペアワーク	・ Lesson 8 の復習
5	・ Lesson 8 小テスト ・ Lesson 9 Leisure (1)	・ 小テスト ・ 単語・フレーズ ・ Reading ・ Listening	・ 授業の復習
6	・ Lesson 9 Leisure (2)	・ 時の表現 ・ Listening ・ ペアワーク ・ 英作	・ Lesson 9 の復習
7	・ Lesson 9 小テスト ・ Lesson 10 College Life (1)	・ 小テスト ・ 単語・フレーズ ・ Reading (メール) ・ Listening	・ 授業の復習
8	・ Lesson 10 College Life (2)	・ 単語・フレーズ ・ Listening ・ 助動詞 ・ ペアワーク	・ Lesson 10 の復習
9	・ Lesson 10 小テスト ・ Lesson 11 Countries (1)	・ 小テスト ・ 国・都市名 ・ 地図の読み取り ・ Listening ・ 天気	・ 授業の復習
10	・ Lesson 11 Countries (2)	・ 比較と最上級 ・ ペアワーク	・ Lesson 11 の復習
11	・ Lesson 11 小テスト ・ Lesson 12 Taking a Trip (1)-1	・ 小テスト ・ 国・都市名 ・ Listening	・ 授業の復習
12	・ Lesson 12 Taking a Trip (1)-2	・ 単語・フレーズ(旅行) ・ Listening ・ ペアワーク ・ 英作文	・ Lesson 12 の復習
13	・ Lesson 12 小テスト ・ Lesson 13 Taking a Trip (2)-1	・ 小テスト ・ 単語・フレーズ ・ チケットの読み取り	・ 授業の復習
14	・ Lesson 13 Taking a Trip (2)-2	・ Reading ・ 英作文	後期の総復習 (1)
15	・ 総復習 ・ まとめテスト	・ 後期の総復習 ・ まとめテスト	後期の総復習 (2)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>LET'S MAKE IT SIMPLE!</td> <td>森田和子/高橋順子/北本洋子</td> <td>株式会社 三修社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	LET'S MAKE IT SIMPLE!	森田和子/高橋順子/北本洋子	株式会社 三修社	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	LET'S MAKE IT SIMPLE!	森田和子/高橋順子/北本洋子	株式会社 三修社													
	2																
3																	
参考書																	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	まとめテスト 30% 課題・小テスト 40% 授業への参加、貢献 30%			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回辞書を持参する事 ・授業中の携帯電話の使用を禁止する <p>* 授業初日は、時間割通りの時間前に Teams に参加してください。</p>			
担当者の 研究室等	1 号館 2 階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	実践英語 I	科目名 (英文)	Practical English I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小川 洋介
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2407c2		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit01: You	授業の進め方 履修上の注意 クラス内ルール 会話練習	シラバスを読む 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	2	Unit01: You Learning Tips01	読解問題解説 Learning Tips 解説と練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	3	Unit02: Home	文法説明 聴解練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	4	Unit02: Home Learning Tips02	読解問題解説 Learning Tips 解説と練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	5	Unit03: Daily life	文法説明 聴解練習 会話練習 小テスト 01	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	6	Unit03: Daily life Learning Tips03	読解問題解説 Learning Tips 解説と練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	7	前半まとめ 会話テスト	前半まとめ 会話テスト	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	8	Unit04: Neighborhood	文法説明 聴解練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	9	Unit04: Neighborhood Learning Tips04	読解問題解説 Learning Tips 解説と練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	10	Unit05: Work	文法説明 聴解練習 会話練習 小テスト 02	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	11	Unit05: Work Learning Tips05	読解問題解説 Learning Tips 解説と練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	12	Unit06: Free time	文法説明 聴解練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	13	Unit06: Free time Learning Tips06	読解問題解説 Learning Tips 解説と練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	14	後半まとめ 会話テスト	後半まとめ 会話テスト	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	15	確認テスト・まとめ	確認テスト・まとめ	今学期の復習
関連科目				
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	World Voices 2 English as a Lingua Franca	Alastair Graham-Marr et al.	ABAX ELT Publishers
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%			
学生への メッセージ	しっかり喋りましょう			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はオンラインにて対応する。			

科目名	実践英語 I	科目名 (英文)	Practical English I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	箕田 正開
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2407c2		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Lesson 1 貧困をなくそう	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 1の予習 単語学習範囲: 01-35
	2	Lesson 1 貧困をなくそう	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 1の復習、予習 単語学習範囲: 36-70
	3	Lesson 2 飢餓をゼロに	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 2の予習 単語学習範囲: 71-105
	4	Lesson 2 飢餓をゼロに	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 2の復習、予習 単語学習範囲: 106-140
	5	Lesson 3 すべての人に健康と福祉を	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 3の予習 単語学習範囲: 141-175
	6	Lesson 3 すべての人に健康と福祉を	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 3の復習、予習 単語学習範囲: 176-210
	7	Lesson 4 質の高い教育をみんなに	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 4の予習 単語学習範囲: 211-245
	8	Lesson 4 質の高い教育をみんなに	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 4の復習、予習 単語学習範囲: 246-290
	9	Lesson 5 ジェンダー平等を実現しよう	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 5の予習 単語学習範囲: 291-325
	10	Lesson 5 ジェンダー平等を実現しよう	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 5の復習、予習 単語学習範囲: 326-360
	11	Lesson 6 安全な水とトイレを世界に	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 6の予習 単語学習範囲: 361-395
	12	Lesson 6 安全な水とトイレを世界に	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 6の復習、予習 単語学習範囲: 396-430
	13	Lesson 7 エネルギーをみんなに、そしてグリーンに	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 7の予習 単語学習範囲: 396-430
	14	Lesson 7 エネルギーをみんなに、そしてグリーンに	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 7の復習、予習 単語学習範囲: 396-430
	15	Lesson 8 働きがいも、経済成長も	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	定期試験 (前期末) の準備 単語学習範囲: 396-430

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AFP World News Report 5	Makoto Shishido	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 定期試験 40% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 40%
-----------	---

学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and (or but) steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に勉強を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応
----	--

する。

科目名	実践英語 I	科目名 (英文)	Practical English I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	3
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浅井 玲子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2407c2		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業計画と評価方法の確認	アンケートに答える Writing およびペアとの Speaking など	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
2	Unit 1 Introducing Yourself	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
3	Unit 1 Introducing Yourself	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
4	Unit 2 Introducing Companies	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
5	Unit 2 Introducing Companies	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
6	Unit 3 Explaining Your Role	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
7	Unit 3 Explaining Your Role	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
8	Unit 4 Introducing Products	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
9	Unit 4 Introducing Products	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
10	Unit 5 Checking Information	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
11	Unit 5 Checking Information	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
12	Unit 6 Giving your Opinion	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
13	Unit 6 Giving your Opinion	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
14	Performance	ダイアログを覚えて発表する (ペア) Memory, Pronunciation, Emotion に気を付けて発表をする	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
15	Review & TEST	Unit1~6の復習 まとめテストを受ける	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Go Global English for Global Business</td> <td>Garry Pearson Graham Skerritt Hiroshi Yoshizuka</td> <td>SEIBIDO</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Go Global English for Global Business	Garry Pearson Graham Skerritt Hiroshi Yoshizuka	SEIBIDO	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Go Global English for Global Business	Garry Pearson Graham Skerritt Hiroshi Yoshizuka	SEIBIDO													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂													
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
学生への メッセージ	この科目では、積極的に英語で話すことを目的としています。そのためには、まず、e-learning 等も積極的に利用して、英語を聞くことと音読する練習を各自行ってください。ペア活動も取り入れていきます。一年間楽しく学んでいきましょう。
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅱ	科目名(英文)	Practical English II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小川 洋介
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2408c2		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit07: Food and Drink	授業の進め方の確認 履修上の注意の確認 クラス内ルールの確認 会話練習	シラバスを読む 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	2	Unit07: Food and Drink Learning Tips07	読解問題解説 Learning Tips 解説と練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	3	Unit08: Travel	文法説明 聴解練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	4	Unit08: Travel Learning Tips08	読解問題解説 Learning Tips 解説と練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	5	Unit09: Education	文法説明 聴解練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	6	Unit09: Education Learning Tips09	読解問題解説 Learning Tips 解説と練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	7	前半まとめ 確認課題 発表課題	前半まとめ 確認課題 発表課題	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	8	Unit10: Health	文法説明 聴解練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	9	Unit10: Health Learning Tips10	読解問題解説 Learning Tips 解説と練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	10	Unit11: Numbers and Prices	文法説明 聴解練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	11	Unit11: Numbers and Prices Learning Tips11	読解問題解説 Learning Tips 解説と練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	12	Unit12: People 発表準備	文法説明 聴解練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	13	Unit12: People Learning Tips12 発表準備	読解問題解説 Learning Tips 解説と練習 会話練習	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
	14	後半まとめ 発表課題	後半まとめ 発表課題	既習項目の復習 次週の予習 指定単語の学習 その他授業内で指示された課題
15	確認テスト・まとめ	確認テスト・まとめ	今学期の復習	
関連科目				
教科書				

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>World Voices 2 English as a Lingua Franca</td> <td>Alastair Graham-Marr et al.</td> <td>ABAX ELT Publishers</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	World Voices 2 English as a Lingua Franca	Alastair Graham-Marr et al.	ABAX ELT Publishers	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	World Voices 2 English as a Lingua Franca	Alastair Graham-Marr et al.	ABAX ELT Publishers														
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%																
学生への メッセージ	しっかり喋りましょう																
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																

科目名	実践英語Ⅱ	科目名(英文)	Practical English II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	箕田 正開
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2408c2		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Lesson 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 9の予習 単語学習範囲: 809-858
	2	Lesson 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 9の復習、予習 単語学習範囲: 859-908
	3	Lesson 10 人や国の不平等をなくそう	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 10の予習 単語学習範囲: 909-958
	4	Lesson 10 人や国の不平等をなくそう	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 10の復習、予習 単語学習範囲: 959-1008
	5	Lesson 11 住み続けられるまちづくりを	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 11の予習 単語学習範囲: 1009-1058
	6	Lesson 11 住み続けられるまちづくりを	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 11の復習、予習 単語学習範囲: 1059-1108
	7	Lesson 12 つくる責任、つかう責任	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 12の予習 単語学習範囲: 1109-1158
	8	Lesson 12 つくる責任、つかう責任	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 12の復習、予習 単語学習範囲: 1159-1208
	9	Lesson 13 気候変動に具体的な対策を	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 13の予習 単語学習範囲: 1209-1258
	10	Lesson 13 気候変動に具体的な対策を	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 13の復習、予習 単語学習範囲: 1259-1308
	11	Lesson 14 海の豊かさを守ろう	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 14の予習 単語学習範囲: 1309-1358
	12	Lesson 14 海の豊かさを守ろう	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 14の復習、予習 単語学習範囲: 1359-1408
	13	Lesson 15 陸の豊かさを守ろう	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 15の予習 単語学習範囲: 1409-1458
	14	Lesson 15 陸の豊かさを守ろう	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 15の復習、予習 単語学習範囲: 1459-1500
	15	Lesson 16 平和と公正をすべての人に	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	定期試験(前期末)の準備 単語学習範囲: 1459-1500

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AFP World News Report 5	Makoto Shishido	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% 定期試験 40% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 40%
----------	--

学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし)にあるように英語学習に王道などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and (or but) steady wins the race. (急がば回れ)を心に留め、ゆっくりでも着実に勉強を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応
----	--

する。

科目名	実践英語Ⅱ	科目名 (英文)	Practical English II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	3
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅井 玲子
ディプロマポリシー (DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2408c2		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業計画と評価方法についての説明 前期の振り返り 夏休みについてのトーク	アンケートに答える Writing&Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
2	Unit 7 Making Requests	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
3	Unit 7 Making Requests	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
4	Unit 8 Asking Permission	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
5	Unit 8 Asking Permission	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
6	Unit 9 Making Invitations	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
7	Unit 9 Making Invitations	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
8	Unit 10 Making Appointments	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
9	Unit 10 Making Appointments	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
10	Unit 11 Canceling and Rescheduling	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
11	Unit 11 Canceling and Rescheduling	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
12	Unit 13 Looking after a Visitor	Vocabulary Quiz 教科書の Quiz に答える Speaking に向けて Writing	教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
13	Unit 7~11 Review Preparation for Presentation	復習をする Original Dialogue の作成	Original Dialogue の作成 (ペア) 次週までに原稿提出 教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
14	Original Dialogue 音読練習 まとめテスト	ペアで音読練習をする まとめテストを受ける	Original Dialogue の提出・練習 (ペア) 教科書を使って予習復習をする e-learning の音声・動画を見て理解を深める
15	Presentation Reflections	Original Dialogue の発表を行う (ペア) *Memory, Pronunciation, Emotion, Content などが評価基準となる	ダイアログの音読練習をして発表できるようにしておく。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Go Global English for Global Business</td> <td>Garry Pearson Graham Skerritt Hiroshi Yoshizuka</td> <td>SEIBIDO</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Go Global English for Global Business	Garry Pearson Graham Skerritt Hiroshi Yoshizuka	SEIBIDO	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Go Global English for Global Business	Garry Pearson Graham Skerritt Hiroshi Yoshizuka	SEIBIDO													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂													
3																	
参考書																	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%			
学生への メッセージ	この科目では、積極的に英語で話すことを目的としています。そのためには、まず、e-learning 等も積極的に利用して、英語を聞くことと音読する練習を各自行ってください。ペア活動も取り入れていきます。一年間楽しく学んでいきましょう。			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	OIL1414a2		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。
授業方法と留意点	当面は遠隔形式での講義となります。遠隔で受講の場合には、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャンネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) 等の資格取得出題範囲の約 40% を学ぶ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 タイピングについて	事前：シラバスの確認 (30 分) 事後：摂南大学の ICT 環境の確認 (1 時間)
2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列や段落の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題 (自習あり)	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (1 時間)
7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表準備 (50 分) 事後：事後課題の完成・提出 (40 分)
8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)

関連科目	情報リテラシー II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618)	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617)	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の実習課題 (60%)、2 回の総合課題などの演習 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	疑問を放置しないこと。何でも質問してください。			
担当者の 研究室等	8 号館 1 階 (非常勤講師室)			
備考				

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OIL1415a2		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成を行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できる。
授業方法と留意点	毎回、PCを使った実習を行う。実習内容に関連する用語、知識については講義による説明を行う。実習を中心に行うため、授業への出席は必須であり、遅刻も厳禁とする。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル	事前：情報リテラシーⅠの復習 (1時間) 事後：事後課題の完成・提出 (30分)
2	【Word 応用】 効率的な文書の作成	テンプレートを使用して新しい文書を作成する Word で PDF ファイルを開き編集する ファイルまたは外部データからテキスト挿入する ブックマークを作成する 文書内の特定の場所またはオブジェクトに移動する ハイパーリンクを挿入する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
3	【Word 応用】 書式や文書のカスタマイズ	文書のテーマを適用する 文書のスタイルセットを適用する ページの背景要素の書式を設定する ズーム機能を使用して、表示をカスタマイズする ウィンドウを分割する 文書のプロパティに値を追加する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 印刷の設定を変更する 別のファイル形式で文書を保存する 隠しプロパティや個人情報がないか文書を検査する アクセシビリティに関する問題がないか文書を検査する 下位バージョンとの互換性に問題がないか文書を検査する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
4	【Word 応用】 文字列や段落の高度な設定 表やリストの高度な設定	配置、インデントを設定する 書式をクリアする 文字列をワードアートに変更する 文字列や段落に組み込みスタイルを適用する セクション区切りを挿入する 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表のデータを並び替える 表、行、列のサイズを調整する 表を分割する タイトル行の繰り返しを設定する リストの新しい行頭文字や番号書式を定義する リストのレベルを変更する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
5	【Word 応用】 参考資料の作成と管理	脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する 資料文献を変更する 引用文献を挿入する 図表番号を挿入する 図表番号のプロパティを変更する 標準の目次を挿入する 目次を更新する 表紙を追加する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
6	【Word 応用】 グラフィック要素の活用	図形を挿入する 図を挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスを挿入する アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果を適用する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)

			図のスタイルを適用する オブジェクトを書式設定する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する オブジェクトに代替テキストを追加する SmartArt グラフィックを作成する SmartArt グラフィックを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を変更する	
	7	【Word 応用】 課題演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
	8	【Excel 応用】 ワークシートやブックの高度な編集と設定	区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする ワークシートをコピーする、移動する ブック内のデータを検索する 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ワークシートの見出しの色を変更する ブックのテーマを変更する ブックの表示を変更する ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 数式を表示する 列や行を表示する、非表示にする ワークシートを表示する、非表示にする ドキュメントプロパティを変更する クイックアクセスツール	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	9	【Excel 応用】 高度なブックの設定 効率的なセルの入力や編集	複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する ブック内の非表示のプロパティや個人情報を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する ブック内の互換性の問題を検査する セルを挿入する、削除する データを置換する セルの書式を適用する セルの配置やインデントを変更する セル内の文字列を折り返して表示する 数値の書式を適用する セルのスタイルを適用する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	10	【Excel 応用】 高度な表の作成とデータ管理 関数の利用	データのアウトラインを作成する 小計を挿入する 条件付き書式を適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルにスタイルを適用する テーブルスタイルのオプションを設定する テーブルに集計行を挿入する 複数の列でデータを並び替える レコードを抽出する 重複レコードを削除する UPPER, LOWER, PROPER 関数を使用して文字の書式を設定する CONCATENATE 関数を使用して文字の書式を設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	11	【Excel 応用】 グラフやオブジェクトの高度な設定	データ範囲の行と列を切り替える クイック分析を使用してデータを分析する グラフをグラフシートに移動する テキストボックスや図形を挿入する 画像を挿入する オブジェクトのプロパティを変更する アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	12	【Excel 応用】 課題演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
	13	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	14	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	15	総合演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
関連科目	情報リテラシー I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集	富士通 FOM	FOM 出版

		(FPT1618) 【前期のテキストと同じ(再購入不要)】		
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617) 【前期のテキストと同じ(再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中の実習課題 (60%)、模擬試験や総合課題などの演習 (40%) を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席 (課題提出) が単位取得の必要条件となる。			
学生へのメッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の研究室等	非常勤講師室 (8 号館 1 階)			
備考	授業時間外の質問は、メールまたは Teams メッセージをお願いします。すぐに返信できない場合がありますが、なるべく迅速な対応を心がけています。			

科目名	スポーツ科学 I	科目名 (英文)	Sports Science I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	瀧 千波, 前田 奎
ディプロマポリシー (DP)	DP6○		
科目ナンバリング	OPH1416a2		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的とする。本科目では、スポーツ・身体運動を通して①健康の維持・増進をはかる②運動技能を向上させることができる③マナーやルールを理解することができる④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことを目指す。 SDGs-3, 4, 5
到達目標	①健康の維持・増進をはかる ②運動技能を向上させることができる ③マナーやルールを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	本科目は「遠隔授業」として授業を行う。使用する ICT ツールは「Microsoft teams」とする。なお、対面が可能になった場合は、対面授業を行う。
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。 「汎用的技能」: コミュニケーション・スキル、問題解決力。「態度」: 自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観。「創造的思考力」: 課題解決能力を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意など (講義室)	ルールの理解。 運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。 (事後学習時間 30 分)
2	体力測定①	体力測定 屋外種目 (グラウンド)	測定記録評価 (事前事後学習時間 30 分)
3	体力測定②	体力測定 屋内種目 (体育館)	測定記録評価 (事前事後学習時間 30 分)
4	体力測定集計・評価	体力測定の集計・評価 (講義室)	測定記録評価 各自の体力要素を評価すると共に、今後の課題・解決方法を理解する。 (事前事後学習時間 30 分)
5	各コース別実技① 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習 (グラウンドおよび体育館)	事前: スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
6	各コース別実技① 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
7	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
8	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
9	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
10	各コース別実技② 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習 (グラウンドおよび体育館)	事前: スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
11	各コース別実技② 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
12	各コース別実技② ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
13	各コース別実技② ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
14	各コース別実技② ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
15	各コース別実技② ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 本科目の振り返り (事前事後学習時間 30 分)

関連科目	スポーツ科学Ⅱ、栄養とスポーツ、栄養と健康
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	なし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25% 遠隔授業：活動点40%、実技課題点30%、講義課題点30% ※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。遠隔授業の評価は、やむを得ず遠隔授業に切り替えた場合に適応する。			
学生への メッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 総合体育館1階			
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと			

科目名	スポーツ科学Ⅱ	科目名 (英文)	Sports Science II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美, 前田 奎
ディプロマポリシー (DP)	DP6○		
科目ナンバリング	OPH1417a2		

授業概要・目的	「スポーツ科学Ⅰ」で培った学修内容を応用し、心技体のさらなる向上を目標とする。①<心>スポーツ活動を通じた成功体験や規範遵守、主体性、自己統制、表現力、協調性、他者受容意識の向上など人間力の醸成を目指す。②<技>スポーツ科学Ⅰよりも高度なスポーツ技術の獲得を目指す。③<体>運動やスポーツが身体へ及ぼす影響やそのメカニズムについて理解し、自らの生活行動の中にスポーツを実践できる能力の育成を目指す。 SDGs-3, 4, 5
到達目標	①健康の維持・増進をはかる ②生涯スポーツへ継続できる ③運動・スポーツの役割や、それらが生体へ及ぼすメカニズムについて理解できる ④多様な背景をもつ人々に対する運動・スポーツの実践方法を身につける
授業方法と留意点	摂南大学の「新型コロナウイルス感染症への対応」に基づき、Microsoft Teams を用い、「遠隔授業 (オンデマンド形式)」により行います。初回の授業は、ガイダンスも含めた資料を Teams に提示します。 今後、新型コロナウイルスの感染状況の変化に伴い摂南大学の授業運営方針が変更された場合は、この科目の授業形態も対面授業に変更する可能性があります。その際は、変更日や内容を事前にお知らせします。
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。 「汎用的技能」：コミュニケーション・スキル、問題解決力。「態度」：自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観。「創造的思考力」：課題解決能力を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意など (講義室) コース分け	ルールの理解。 運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。 (事後学習時間 30 分)
2	各コース別実技① 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
3	各コース別実技① 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
4	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
5	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
6	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
7	各コース別実技② 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
8	各コース別実技② 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
9	各コース別実技② ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
10	各コース別実技②	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
11	各コース別実技②	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
12	各コース別実技③ 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
13	各コース別実技③ ゲーム	基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
14	各コース別実技③ ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：内容の振り返り (事前事後学習時間 30 分)
15	各コース別実技③ ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前：基礎・応用技術に関する情報収集 事後：本科目の振り返り (事前事後学習時間 30 分)

関連科目	スポーツ科学Ⅰ、栄養とスポーツ、栄養と健康			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。			
学生への メッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。			
担当者の 研究室等	8号館3階 食品栄養学科 運動生理学研究室			
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと			

科目名	心理学	科目名 (英文)	Psychology
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 萍萍
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1418a2		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 心理学は、人間の行動を予測することを究極的な目標としている。本授業は、これまでに得られた心理学的知見を学ぶことで、自己と他者、そして自分の周囲を取り巻く社会を科学的な視点から見直すことを目指している。これにより、学生の友人や教員との関係の変化に柔軟に対応できるような人間力を得て、他者と接する上での心のあり方やマナーなどの態度について改善されることも期待している。</p> <p>【授業目的】 本講義の目的は下記の3つである。 1) 心理学という学問に対する初歩的な理解ができるようにする。 2) 情報を捉えるメカニズムを理解できるようにする。 3) 自己を探究するための手がかりをつかめるようにする。</p>
到達目標	<p>本講義の具体的な到達目標として以下の3点を挙げる。 1) 「学問としての心理学」に触れ、通俗的な心理学への誤解を解く。 2) 心理学のいくつかの理論について説明が出来る。 3) 現実場面の現象を見て、心理学の理論で解釈が出来る。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> Teams と Moodle を用いた遠隔授業を行う。 受講生は、必ず毎週各自 PC やスマホなどを利用して、teams や Moodle にアクセスすること。
科目学習の効果 (資格)	講義を通して自己理解・他者理解を深め、自分と社会との関わりを考えるきっかけを得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業概要、目的、内容、授業の進め方、授業のルール、評価基準について説明します。	身の回りで起きているさまざまなことについて心理学的に考える習慣をつけましょう。
2	心理学概論	心理学の歴史、発展、学派、研究対象、研究分野、研究方法等について概説します。	心理学に対するこれまでのイメージと比較しながら、新たに認識した心理学を考えましょう。教科書第10章を予習してください。
3	心と脳	心と脳、脳と行動、脳の特徴・構造、部位の損傷と症状、脳波と自律系反応、睡眠と夢、記憶と脳、発達と脳について解説します。	脳に関する写真・ビデオなどを図書館などで見つけ、授業内容を映像で理解してください。3D Brain というアプリをダウンロードして、脳の各構造と機能を学習してください。
4	感覚と知覚(1)	感覚(視覚・聴覚・味覚・嗅覚・皮膚感覚)の種類と特性、感覚の役割・相互作用・基本特性について解説します。	教科書の第5章を事前に予習してください。
5	感覚と知覚(2)	知覚の体系化、知覚の恒常性、距離・奥行き、動きの知覚、動きの知覚、知覚から認知へについて解説します。	教科書の第5章を事前に予習してください。「錯覚」の例を調べてきて A4 1枚のレポートにまとめましょう。
6	学習	学習とは、学習の方法、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、二つの条件付けの違いについて解説します。	教科書第4章の前半を事前に予習してください。例を挙げながら、二つの条件付けの違いについてレポートにまとめましょう。
7	記憶	記憶の過程、短期記憶、長期記憶、系列位置効果、忘却のメカニズムについて解説します。	教科書第4章の後半を事前に予習してください。
8	思考と言語	演繹推論と帰納推論、問題解決、概念とカテゴリ化について解説します。	教科書第6章を事前に予習してください。
9	動機づけと情動	動機付けの分類、達成と自己実現の動機づけ、フラストレーションと葛藤、情動の種類、情動の認知評価説について解説します。	教科書第7章を事前に予習してください。
10	パーソナリティ	精神分析学とパーソナリティ、外見とパーソナリティ、類型論、特性論、血液型とパーソナリティについて解説します。	教科書第8章を事前に予習してください。事前に自身のパーソナリティがどのようなものであるかについて、すぐ答えられるようになっておいてください。
11	発達	意識と行動、遺伝と環境、行動発達を規定する要因、発達の变化、発達障害について解説します。	教科書の第2章と第3章を事前に予習してください。
12	社会的認知	自己の認知(自我と自己、自己評価)、印象形成、帰属過程、クレーの共変動モデルについて解説します。	教科書第9章前半を事前に予習してください。
13	対人魅力と対人関係	対人魅力の規定要因について解説します。	教科書第9章9.5を事前に予習してください。
14	社会的影響と集団	社会的促進、社会的手抜き、同調、少数派集団の影響、集団意思決定について解説します。	教科書第9章9.3と9.4と9.6を事前に予習してください。これまでの授業テーマを見直し、最も興味のあるもの、そしてそれに関わる現象について考えてみてください。
15	まとめ	授業全体のまとめ	授業後、教科書およびこれまで配布したプリントに基づき、すべての内容を復習してください。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>心理学 [第5版補訂版]</td> <td>鹿取廣人など</td> <td>東京大学出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	心理学 [第5版補訂版]	鹿取廣人など	東京大学出版	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	心理学 [第5版補訂版]	鹿取廣人など	東京大学出版													
	2																
3																	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	心理学	無藤隆など	有斐閣
	2	心理学概論	岡市廣成・鈴木直人（編）	ナカニシヤ出版
	3			
評価方法 （基準）	【授業内小テスト】50% 【授業内課題】30% 【教科書などを用いた課題（小レポート）】20%			
学生への メッセージ	心理学は、みなさんが想像しているよりもはるかに幅広い領域を扱っており、人間の社会生活の全てを研究対象としていると言っても過言ではありません。講義を通じ、自分を取り巻く社会と結びつけて考えることによって理解を深めてください。			
担当者の 研究室等	11号館6階 経営学部事務室			
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけるようにしてください。 自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計20時間かけるようにしてください。 遅刻、講義中の無断退出は他の受講者の迷惑にもなりますので厳に謹んでください。 新型コロナウイルス感染拡大の対策として、私語が禁止です。			

科目名	倫理学	科目名 (英文)	Ethics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1419a2		

授業概要・目的
「他の人のためと思ってやっていることも、実際のところは自分のためではないのでは?」「自分よりも困っている人が世界中にいると知っ
ていながら、彼らに寄付せずに自分の買いたいものを買うのは非情なことだろうか?」「価値観は人や文化によって異なり、そこに優劣はないと
したら、他人にアドバイスしたり批判することは余計なこと、失礼なことだろうか?」
このようなことは、別に倫理学者や哲学者でなくとも、誰もがふとしたときに考えたことがある(人によっては常に考えている)ことなのでは
ないかと思います。本授業ではこのような身近なテーマから出発し、現代社会の諸問題(中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、人
種差別、ジェンダー等)に関してどのような倫理学、哲学、宗教上の主張がなされてきたかを学びます。また、それらと対照することで自分自身
のコンセンサス(常識)を自覚し、再検討することが目的です。

到達目標
1. 授業で扱う現代社会の諸テーマ(中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、ジェンダー、宗教と道徳の関係、非利己性、寄付の義
務等)について『現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズムまで』(ジェームズ・レイチェルズ著、古牧徳生・次田憲和訳、晃洋書房)
の議論を参考に、専門的な視点を身に付ける。
2. 上記の諸問題に関して自分なりの考えをまとめる。

授業方法と留意点
Teams を使用して、講義原稿と課題読書を配布します(毎回、ある程度の読書量があります)。授業ごとに Google Form を利用して、それらのテ
キストに関する小問題に答えてもらいます。
【※※ コロナウイルスの影響で対面授業が不可能である場合は、対面授業が行われるべき日時に、Teams の動画配信機能を利用しリアルタイム
で授業を行います。また、その際の動画と音声は録画し、Teams 経由でオンデマンドでも配信します。※※】

科目学習の
効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・倫理とは何か ・哲学との関係性	予習: なし 復習: なし
2	道徳とはどういうことか	・道徳は定義できるのか ・道徳の最小概念 ・回復の見込みのない乳児をどのように 扱うべきか	予習: 配布資料を読むこと 復習: 読書課題(哲学、倫理学の古典からの抜粋で あることが多い)がある場合は、それを読み、選択 問題形式の課題を解いて提出すること
3	文化的相対主義	・異なる文化はいかにして道徳規範を持 つのか ・文化的相対主義を本気で受け止めると どうなるか ・文化的相対主義から何を学ぶことがで きるか	2に同じ
4	倫理における主観主義	・倫理学に証明はあるのか ・同性愛の問題	2に同じ
5	道徳は宗教に基づくか	・道徳と宗教の関係 ・道徳は神の命令か ・キリスト教と中絶の問題	2に同じ
6	心理学的利己主義	・非利己性は可能か ・「どんなことも結局自分のためでしか ない」という主張は本当か	2に同じ
7	倫理的利己主義	・飢餓救済に寄付する義務はあるのか ・「何が人のためになるかは難しい」「自 分のためになることだけをやるべきで ある」という主張は本当か	2に同じ
8	功利主義者のアプローチ	・安楽死の問題 ・動物の権利の問題	2に同じ
9	功利主義をめぐる議論	・幸福の問題 ・結果がすべてか	2に同じ
10	絶対的道徳規則はあるのか	・普遍的な道徳は可能か	2に同じ
11	カントと人格の尊重	・「人間の尊厳」という考え ・刑罰の理論における応報と功利性	2に同じ
12	社会契約の思想	・ホプズの主張 ・囚人のジレンマ ・市民的不服従についての問題	2に同じ
13	フェミニズムと気づかひの 倫理	・女と男は倫理についての考えが違うか	2に同じ
14	徳の倫理	・徳の倫理と正しい行動の倫理 ・様々な徳	2に同じ
15	満足のいく道徳説とはいか なるものか	・思い上がりのない道徳 ・道徳共同体 ・正義と公正	2に同じ

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズム まで	ジェームズ・レイチェルズ著、古 牧徳生・次田憲和訳	晃洋書房
2				

	3		
評価方法 (基準)	授業毎の課題（インターネット経由で提出）：70%（Google Form によって提出してもらった各授業回の課題×14 回分（第 2 回-第 15 回分）。第 1 回目は授業資料、課題共にありません） 期末試験（インターネット経由で提出）：30%		
学生への メッセージ	毎回の授業ごとに、一定量の読書課題と授業後の課題があるので、頑張ってついてきてください。 答えがないと言われる現代社会を生きる上で、簡単に消費されず、長い間参考になるであろう知見を得ることができたと思ってもらえれば幸いです。		
担当者の 研究室等	非常勤講師控室		
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。非常勤講師室等における対応可能時間についての相談や、授業に関連する相談等がある場合は、メールでお問い合わせください。		

科目名	哲学から学ぶ	科目名 (英文)	Philosophy
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 俊
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1420a2		

授業概要・目的	ある事柄が「科学的に正しい」と言われたら、私たちはつい、それが絶対的に正しいのだと思ってしまうがちです。ところがそれにもかかわらず、私たちは日常生活の上では、「科学的に」正しいだけでなく、「将来的に」「倫理的に」「文脈的に」等々、様々な正しさの中で自分の行動を決定しなければなりません。つまり私たちは、科学を唯一絶対の基準として生活することはできないのです。しかもその一方で、複数の基準は互いに相容れないこともあります。そのため、人生においては正しいか間違っているのか、一概には言えない場面に出会うことになります。こうした割り切れない状況に向き合うために人間は「様々な見方同士がどのようにして関わり合っているのか」ということを考えてきました。この営みは「哲学」と呼ばれています。本講義では、その哲学において登場する問題と考え方のいくつかを学びます。
到達目標	1. 一つの物事には多様な見方が存在するということを学ぶ 2. 哲学の歴史と学説に関する基礎的な知識を学ぶ
授業方法と留意点	配布資料を教科書として用いる。 毎回授業終わりにコメントを提出してもらい（方法は初回授業で指示する）、次回の授業冒頭でそれに対する応答を行う。
科目学習の効果 (資格)	哲学的思考を用いて物事を立体的に理解することができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	講義の進め方や評価基準等を確認する	予習：シラバスに目を通しておく 復習：哲学について考える (30分)
2	古代哲学 (1)	古代懐疑主義の哲学を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
3	古代哲学 (2)	ソクラテスのイデア論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
4	古代哲学 (3)	アリストテレスの目的論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
5	自然科学の発展	ガリレオの自然の数学化を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
6	認識論 (1)	デカルトの「我思う故に我在り」を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
7	認識論 (2)	ロックの観念論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
8	認識論 (3)	バークリとヒュームの観念論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
9	心と物 (1)	カントの理性批判を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
10	心と物 (2)	唯物論を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
11	心と物 (3)	フッサールの志向性分析を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
12	人間の生きる世界 (1)	フッサールの生活世界を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
13	人間の生きる世界 (2)	ハイデガーの根本気分を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
14	人間の生きる世界 (3)	バシュラールの夢を学ぶ	予習：主題となる人物と時代について調べておく (30分) 復習：講義ノートを見直す (30分)
15	まとめ	講義全体を振り返り、哲学の意義を考える	予習・復習：講義ノートを見直す (計1時間)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生活世界の構造	アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン	ちくま学芸文庫
	2	観念論ってなに？ オックスフォードより愛をこめて	富田恭彦	講談社現代新書
	3			

評価方法 (基準)	学期末のレポート50%、毎回の授業内課題(コメント)50%の割合で評価する。
学生への メッセージ	一見して奇妙に見える意見も、必ず発言者なりの見方や考え方に基づいています。これは親しい友人でもはるか昔の哲学者でも同じことことです。見慣れない考え方に粘り強く接することによって、人生の可能性(生きている間にできること)が広がります。
担当者の 研究室等	
備考	講義に関する質問等は授業前後に教室または非常勤講師控室にて対応する。

科目名	地誌学	科目名 (英文)	Regional Geography
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡邊 英明
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1421a2		

授業概要・目的	地誌学は、地域を構成する諸要素を体系的に捉え、その特色を解明しようとする分野である。本講義では、世界各地における自然環境と人間生活との関わりを通して、地域の特色を学習する。
到達目標	さまざまな地域における固有の人間生活とその重要性を理解し、自らが生きる社会について相対的に捉える視点を身につける。
授業方法と留意点	講義内容を収録した音声付パワーポイントをオンデマンド配信する。音声付パワーポイントは、Moodleにアップロードする。第5回から対面授業に切り替える。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方	講義ノートを復習しておくこと (事後学習 3時間)
2	熱帯気候と住民生活 (1)	熱帯雨林とサバンナ	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
3	熱帯気候と住民生活 (2)	熱帯雨林の近年の変化	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
4	熱帯気候と住民生活 (3)	タンザニアのコーヒー生産	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
5	熱帯気候と住民生活 (4)	熱帯雨林の狩猟採集民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
6	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (1)	砂漠と季節河川	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
7	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (2)	砂漠ゾウと地域住民	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
8	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (3)	乾燥地帯で生きる人々	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
9	寒帯・冷帯気候と住民生活 (1)	氷河地形と人々の暮らし	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
10	寒帯・冷帯気候と住民生活 (2)	極北の狩猟民・イヌイット	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
11	寒帯・冷帯気候と住民生活 (3)	山岳地帯の住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
12	温帯気候と住民生活 (1)	ヨーロッパの自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
13	温帯気候と住民生活 (2)	先進国の都市問題	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
14	温帯気候と住民生活 (3)	日本の自然と住民生活	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 1.5時間、事後学習 1.5時間)
15	試験 (授業内で実施)	授業内で実施する試験	教科書の該当ページを読み、講義ノートを復習すること (事前学習 3時間)

関連科目	人文地理学、自然地理学
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界がわかる地理学入門	水野一晴	筑摩書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	試験 70%, 授業内課題 30%
-----------	-------------------

学生へのメッセージ	高校で地理 (A・B) を履修していない人も問題なく受講できます。授業内容を正しく理解するため、毎回きちんと出席し、ノートを取りながら集中して受講してください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館2階 (非常勤講師室)。質問等は学内メールで受け付ける。
------------	---------------------------------

科目名	人文地理学	科目名 (英文)	Human Geography
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	麻生 将
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1422a2		

授業概要・目的	現代世界・社会の諸問題に地理学がどのように向き合っているかを考えるにあたり、具体的な事例を通して主要な人文地理学の研究成果とアプローチを紹介する。
到達目標	人文地理学の様々な研究成果や事例を通して、私たちが生きる現実世界すなわち身近なものから現代世界・社会の様々な現象や課題を地理学的な発想から捉え直し、解決に向けて取り組む視点、知識、発想の習得を目指す。そのためには、当然のこととして見過ごしてしまいがちな身近な事象について「なぜここに?」「どこからどこへ?」などのような地理的好奇心を常に持ち続けることが重要である。
授業方法と留意点	配付資料を用いて、講義形式で行う。授業中に何度か課題を出す。それらの課題に取り組むことで、授業内容をしっかりと復習してほしい。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:地理学を学ぶ意義、地理学から見える世界・現象	授業の進め方、授業全体の参考書の紹介など	中学校(高校での地理選択者は高校地理)までの「地理」の学習内容を振り返る(事後学習)(2時間) オンライン
2	地図の読解	様々な地図の読解と理解について	紹介した参考文献を読む(事後学習) テーマに沿った地図(身近な地域の地図またはメンタルマップ)作成の課題に取り組む(事後学習)(2時間) オンライン
3	都市の空間現象	都市の歴史、現代の都市で生じる様々な現象と課題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 オンライン
4	農村の現状と課題	農業地理学の基礎と農村の成り立ちと現状、課題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 オンライン
5	経済地理学①工業	工業立地の歴史と現状、将来の変化について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
6	経済地理学②農業	日本と世界の農業の現状と課題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
7	経済地理学③商業・流通	事業所の立地と流通システム、および経済のグローバル化について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
8	環境問題と地理学	様々なスケールから見た環境問題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
9	災害と地理学	災害と人間活動との関わりについて	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
10	社会問題と地理学	日本と世界の主な社会問題の空間現象について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
11	ジェンダーの地理学	ジェンダーをめぐる空間現象について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
12	空間と政治	都市における空間の管理と政治的背景について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
13	文化の広がり	文化と社会の関わりについて	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
14	生活世界の認識	メンタルマップ、時間地理学について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド
15	まとめ	授業の総括	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。 対面+オンデマンド

関連科目	「自然地理学」「地誌学」
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人文地理学への招待	竹中克行編	ミネルヴァ書房
	2	地理学概論	上野和彦ほか編	朝倉書店
	3			
評価方法 (基準)	期末レポート70%、平常点30% (平常課題を何度か課す。)			
学生への メッセージ	<p>1. 講義中の私語、飲食、携帯操作は禁止する。講義の進行を著しく妨害するような態度をとった場合、退室を命ずることがある。</p> <p>2. 授業では毎回の冒頭で配布するレジュメを用いる。講義形式を基本とするが、簡単なディスカッションを時々行う。高等学校で地理を履修していなかったとしても、初学者にも分かりやすい授業を心掛けるので、問題はない。</p> <p>3. 中学や高校の地理の授業で用いた地図帳を常時持参することが望ましい。</p> <p>4. 講義中に何らかの作業を行うことがあるので、マーカーまたは色鉛筆を数色準備しておくこと。</p>			
担当者の 研究室等				
備考	授業外の質問等については、メールにて対応する。メールアドレスは dankebitte0605@gmail.com			

科目名	文学から学ぶ	科目名 (英文)	Literature
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村口 進介
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1423a2		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 『源氏物語』を中心に、平安時代の古典文学作品を「研究」の観点からあらためて読み直す。 『源氏物語』をはじめとした平安文学の代表作の読解を通して、個々の作品の世界観や文学史的な位置づけを理解し、古典文学における「ことばの論理」や展開のパターンなどを学び、現代の文学や物語にも通じる平安文学の世界を学ぶ。
到達目標	現代語訳を介さず、「古文」を「古文」のまま読むことに親しみ、紫式部や清少納言、光源氏などの「見ぬ世の人を友とする」(『徒然草』13段)。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 講義を録音した音声ファイルとPDFをMoodleへアップロードし実施。
科目学習の効果 (資格)	いま観たり、読んだりしている小説やマンガや映画への理解度がさらに深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			(事後) 授業で取り上げる作品について、辞書で調べる。
1	イントロダクション	授業の概要と進め方について。	(事後) 授業で取り上げる作品について、辞書で調べる。
2	桐壺巻と『更級日記』	<ul style="list-style-type: none"> 光源氏の誕生と物語への耽溺 表現の工夫を学ぶ 	参考文献&図書を読み理解を深める。
3	帚木巻と『落窪物語』	<ul style="list-style-type: none"> 物語の主人公の条件1 雨夜の品定めと手紙の機能 	参考文献&図書を読み理解を深める。
4	夕顔巻と『宇治拾遺物語』	<ul style="list-style-type: none"> 物語のパターン 物語と禁忌 (タブー) との関わり 	参考文献&図書を読み理解を深める。
5	若紫巻と『紫式部日記』	垣間見から始まる恋	参考文献&図書を読み理解を深める。
6	末摘花巻と『古本説話集』	・紅鼻の戯れと平中	参考文献&図書を読み理解を深める。
7	紅葉賀巻と『建礼門院右京大夫集』	・和歌の修辞 (枕詞、序詞、掛詞) を学びなおす。	参考文献&図書を読み理解を深める。
8	花宴巻と『六百番歌合』	<ul style="list-style-type: none"> 和歌の活用法 贈答歌の作法 	参考文献&図書を読み理解を深める。
9	葵巻と『蜻蛉日記』	<ul style="list-style-type: none"> 贈答歌の機能 平安時代の結婚 (通い婚) の実態 	参考文献&図書を読み理解を深める。
10	賢木巻と『枕草子』	平安時代の社会制度	参考文献&図書を読み理解を深める。
11	須磨巻と『栄花物語』	道隆家の悲劇	参考文献&図書を読み理解を深める。
12	明石巻と『うつほ物語』	平安時代の教養と音楽	参考文献&図書を読み理解を深める。
13	滯標巻と『源順集』	<ul style="list-style-type: none"> 物語の主人公の条件2 漢詩文の影響 	参考文献&図書を読み理解を深める。
14	絵合巻と『竹取物語』	物語文学の伝統	参考文献&図書を読み理解を深める。
15	まとめ	授業で取り上げた作品を文学史的に捉えなおす。	参考文献&図書を読み理解を深める。またこれまでのプリントをまとめる。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業中の課題 (ミニレポートや小テスト) 30%、学期末レポート70%
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 現代語訳が目的ではないので、文法の話はほとんどしません。 時にはジブリやマーベル、鬼滅の刃などの話も交えつつ、「物語」について、みなさんと考えたいと思います。
担当者の研究室等備考	7号館2階 (非常勤講師室)

科目名	文化人類学	科目名 (英文)	Cultural Anthropology
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	片 雪蘭
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1424a2		

授業概要・目的	文化人類学の基礎的な概念と思考方法を学び、多様な文化を理解するための知識と態度を身に着ける。またそのことを通して、これまで当たり前だと考えていた身の回りの事柄を新しい観点から観察できるようになる。
到達目標	以下三点について修得することを到達目標とする <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな文化の違いを知り、他文化の人々と接するときの基本的な態度を身につける ・自分が当たり前だと考えてきた物事を、新たに客観的な視点から観察できるようになる ・文化人類学の基礎的な考え方をを用いて、自らの文化を相対的にとらえ直す視点を身につけることができる。
授業方法及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・原則オンデマンド形式で行います。 ・授業ではある文化の実践を映した映像や画像を共有する場合があります (オンライン授業の場合は、Youtube 映像を共有)。その文化に属さない者にとってときに「不愉快」や「残酷」と見えることがある。そうした偏見を乗り越えることを目的とする講義ではあるものの、予め留意しておくこと。 ・毎回、コメント・シートを提出する必要がある。コメントや質問に対するフィードバックは、次回の授業である。 ・教科書は不要。毎回、教材を TEAMS で共有するので、各自ダウンロードすること。

科目学習の 効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション		シラバスを読んでおく
	2	異文化を知るための方法(1)	文化人類学の誕生と歴史	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと
	3	異文化を知るための方法(2)	フィールドワークと民族誌	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと
	4	食と生業(1)	食べるとはどのようなことか	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと
	5	食と生業(2)	食料獲得のさまざまなやり方	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと
	6	家族と親族(1)	家族になること	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと
	7	家族と親族(2)	世界のさまざまな家族のかたち	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと
	8	ジェンダーとセクシュアリティ(1)	「女らしさ」「男らしさ」	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと
	9	ジェンダーとセクシュアリティ(2)	第三の性	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと
	10	儀礼(1)	通過儀礼 — 別な私になること	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと
	11	儀礼(2)	死とはなんだろうか	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと
	12	贈与と売買(1)	贈り物をめぐって	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと
	13	贈与と売買(2)	お金と市場	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと
	14	グローバル化の人類学(1)	観光と開発をめぐって	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと
	15	グローバル化の人類学(2)	移民と難民	毎回の授業時に平易な課題論文を提示するので、目を通すこと

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	文化人類学の思考法	松村圭一郎・中川理・石井美保編	世界思想社
	2	21世紀の文化人類学	前川啓治・箭内匡ほか著	新曜社
	3	ようこそ文化人類学へ：異文化をフィールドワークする君たちへ	川口幸大	昭和堂

評価方法 (基準)	期末レポート 70% (定期試験からレポートに変更) コメント・シート 30% (授業への参加度等を総合的に評価。Teams で提出)
-----------	--

学生へのメッセージ	対面からオンラインに変更されましたが、シラバスの内容は変わりません。レポートの課題については、授業の時に説明します。
-----------	--

担当者の研究室等備考	
------------	--

科目名	女性学	科目名 (英文)	Women's Studies
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	荒木 菜穂
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1425a2		

授業概要・目的	女性学とは、男女ともが、社会のしくみについて考える場である。社会の「主人公」が男性であることが自明であった時代、「見えない存在」とされていた女性のあり方に目を向けることが女性学のきっかけとなった。しかし、それは、性別によって個人が生き方を決められてしまう社会のしくみそのものを問う学問および活動を意味する。現在では、性をめぐる社会のしくみは、男女それぞれの個人としての「生きにくさ」と何かしら関係があるのかもしれないと捉えられる一方、「もはや性別による不都合など存在しない」という意見も多く見られる。本授業では、1970年代以降、今日にいたるまで、女性学において語られてきた様々なトピックをヒントに、性をめぐっての、今日的な社会のしくみについて、家族、恋愛、仕事、セクシュアリティなど様々な角度から理解を深める。
到達目標	女性学、ジェンダーに関する基本的なキーワードを理解する。その上で、日々のニュースや社会問題などを知り、考える作業を意識的に行い、一般論としての「あたりまえ」ではなく、自分を主語としてそれらの問題について語ることができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	各回、テーマに関して、女性学等においてこれまで語られてきたことの振り返りと並行させ、ニュースや図表や文献資料、映像など、今日的な問題に沿った資料を使用し授業を進める。授業終了後に、そのテーマについて、各人が自分の考えをまとめる時間を設ける。 ※4月22日以降はオンライン授業となります。詳細はTeamsにてご連絡いたします。
科目学習の効果 (資格)	様々な角度からの議論を紹介していきたいと思えます。自分とは異なる価値観を持つ他者と柔軟に向き合うことができ、幅広い視野で社会を読み解くことができるようになればよいと思えます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション/女性学とは何か	女性学について、また、日本における女性学誕生からジェンダー概念の普及までの簡単な歴史的な振り返りを行う。	配布プリントの復習 (1時間)
2	メディアの中の男女のイメージ (1)	様々なメディアの中で、男性、女性のイメージがどのように描き分けられているか、またなぜそうなっているのかについて考える。	配布プリントの復習 (1時間)・意識的にメディアを視聴し次回に備える (1時間)。
3	メディアの中の男女のイメージ (2)	メディアにおける表現の問題性、また、メディアと接する際のリテラシーについて考える。	配布プリントの復習 (1時間)・意識的にメディアを視聴する (1時間)
4	恋愛・結婚・家族とジェンダー (1)	モテ非モテ、愛と暴力など、日常的な問題の背景にある社会のしくみを知る。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
5	恋愛・結婚・家族とジェンダー (2)	恋愛意識、経済、家族のあり方など、様々な社会の問題と結びつく「結婚」という制度について、結婚が困難になりつつある近年の現状をデータなどで振り返り、その構造について考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
6	恋愛・結婚・家族とジェンダー (3)	結婚・家族などをめぐる「あたりまえ」を疑ってみる。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
7	女性運動から学ぶこと	過去および現在のフェミニズム運動やその主張の多様性から平等とは何かを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
8	個人の外見と身体と社会	個人の「見た目」がジェンダーや社会による制約を受ける問題について、単に批判するだけでなく、我々が積極的に表現する行為としての意味を考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
9	身体と性	出産・健康・医療をめぐる、男女の身体や性が社会とどのような関係にあったのかを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
10	セクシュアリティとジェンダー	快楽の性、性的なものをめぐる差別など、性と社会に関する様々なことを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
11	労働と社会 (1)	個人が生きる上での仕事、労働、生活について、現代の男女のライフコースとの関わりで考える。	配布プリントの復習 (1時間)・事例を探すレポート (1時間) 次回テーマについての予習 (1時間)
12	労働と社会 (2)	格差社会と男女共同参画といった観点から、資本主義社会の中のジェンダーと労働について学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
13	グローバリゼーションとジェンダー	様々な文化における男女を取り巻く社会状況に目を向け、「私」とは、どのような立ち位置の女性 (男性) か、について考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
14	性の多様性とジェンダー	性の多様性に関する論点、現状をジェンダーの視点で考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)
15	今日の課題と向き合う	女同士の関係、貧困、ネット社会など、社会の変化をもたらした様々なキーワードを、女性学、ジェンダーの切り口から再考する。	配布プリントの復習 (2時間)

関連科目 社会と個人について考える科目全てに関連性があるといえます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内課題 (30%)、最終レポート (70%) により総合評価する。			
学生への メッセージ	難解な理論を把握することよりも、日常生活の中の問題を、「あたりまえ」だけではない様々な視点で考えることができるようになることが本授業の目的です。この問題はなぜ起きているのだろう、世の中ってどうなってるんだろう、と一緒に考えていけたらと思います。			
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	ボランティア活動論	科目名 (英文)	Study of Volunteer Activity
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01426a2		

授業概要・目的	<p>みなさんはボランティア活動についてどのようなイメージをもっておられるでしょうか。学校で授業の一環として地域の清掃を行ったり募金活動をしったりするのはボランティア活動と言えるでしょうか。チャリティー番組にタレントが報酬を得て出演するのもボランティア活動でしょうか。</p> <p>商業的なイベントで多額の報酬を受け取る人がいる一方で、専門的な知識や経験、資格や免許を有する人々には〈やりがい〉〈思い出づくり〉〈社会貢献〉といった名のもとに無償のボランティアが求められることに批判の声があります。これとは逆に、NPO (非営利団体) の職員が報酬を受け取っていることや NPO に寄付したものがそのまま困っている人たちへの支援にまわされず経費として使用されることについて批判する人たちもいます。こうした問題について、みなさんはいまどのような理解をしているのでしょうか。</p> <p>ひとことでボランティア活動と言っても、地域の清掃や通学路の見守りといった身近なものから専門的な知識を要するものまで活動の分野、規模、種類、求められる条件などはさまざまです。この授業では、ボランティア活動の意義、歴史、活動の分野や種類、そして社会制度との関係など、ボランティア活動の基本を学修し理解することを目標にしています。</p>
---------	---

到達目標	<p>この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。</p> <p>(1) ボランティア活動の意義について理解し説明できる (2) 多様なボランティア活動について理解し説明できる (3) ボランティアを必要とする人びとがいることを知るとともに、ボランティアを必要とする社会のしくみについて理解し説明できる</p>
------	--

授業方法と留意点	この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リアクションペーパーを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			事前学習: シラバスをしっかりと読んでから授業に出席すること。また、授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態しておくこと。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)
1	イントロダクション	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の時期、方法、基準についても確認します。	事後学習: 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習する
2	概論	ボランティア活動の意義、目的、必要性、種類、歴史について学修します。	事前学習: 授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)
			事後学習: 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
3	なぜボランティアが必要なのか?	ボランティアの必要性について学修します。	事前学習: 授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)
			事後学習: 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
4	支え合いによって成り立つ社会——市民社会論	支え合いによって成り立つ社会、市民社会について学修します。	事前学習: 授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)
			事後学習: 授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
5	NPO、NGO	NPO、NGO とは何か、またそれらがボランティア活動において果たす役割はどのようなものなのか学修します。	事前学習: 授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこ

			<p>これまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
6	社会制度とボランティア活動	社会制度が NPO、NGO の活動やボランティア活動にもたらす影響について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
7	グループワーク（1）——国内外の NGO 団体について調査	5人前後のグループに分かれ、国内外の NGO 団体について調査します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
8	グループワーク（2）——国内外の NGO 団体について発表の準備	前回に引き続き、各グループで担当するテーマについて発表の準備をします。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
9	グループワーク（3）——国内外の NGO 団体について発表	グループで調査した内容にしたがって、国内外の NGO 団体がどのような活動を行っているのか紹介します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
10	災害とボランティア	災害とは何か、また災害時にどのようなボランティア活動があるのか学修します。災害時に活躍する専門ボランティアについて学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
11	医療福祉ボランティア	医療福祉ボランティアの種類や特徴について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
12	マイノリティとボランティア活動	マイノリティを支援するボランティア活動について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復</p>

				習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	13	国際ボランティア	国際ボランティアの種類や特徴について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	14	文化ボランティア、その他のボランティア	文化ボランティア、およびその他のボランティアについて学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	15	まとめ、全体のふり返り	この授業で何を学んだのかを振り返ります。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ボローニャ紀行	井上ひさし	文春文庫
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	この授業は授業内課題(リアクションペーパー)15%、グループワーク20%、期末レポート65%で評価します。評価の基準については学部の規定に準じます。			
学生への メッセージ	決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。日本でも毎日いろいろなことが起こっていますが、世界ではもっといろいろなことが起こっています。ボランティアが必要であるということも、そうした世界での出来事に目を向けることから始まります。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。			
担当者の 研究室等	メールアドレス：xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)			
備考	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。 この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。			

科目名	経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Economics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	並木 州太郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01427a2		

【授業概要】
 グローバル経済、知識経済の時代である現代において、日本経済は急激かつ大幅な変化の渦中にあります。変化の過程においては、様々な経済・社会・環境問題が発生し、それらは私たちの生活とは一見無縁のようであり、密接に関わり合っています。経済学の基本的な考え方を学び、現象を理解し、対処する力を身につける事は、現代社会において役割を担う私達にとって欠かすことのできない能力です。本講義は、経済学の基本的な考え方を身につける事を目標としますが、グローバル経済や知識経済という現代経済の動向、そのもとの日本経済の課題と展望を踏まえた、現実感あふれる内容を題材にして進めていきます。

到達目標
 1. 経済学の基礎的な概念・キーワードについて理解できる。
 2. それらを用いて現実のさまざまな経済・社会・環境問題を読み解く力を身につけることができる。

授業方法と留意点
 この授業は講義と教員とのディスカッションを中心に行います。授業では日本経済新聞や日経ビジネスの記事を使用しますので、書店や図書館等で入手して、気になったトピックを読む習慣をつけましょう。
 この授業は原則対面で行いますが、緊急事態宣言の発出等により、遠隔授業に切り替わる可能性があります。その際の手順等については別途案内しますので、安心して受講してください。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション: 授業概要、学習目標、授業の進め方のほか、経済学と私達の生活の関係について	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前: シラバスを確認すること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
2	経済循環を学ぶ: 古典派経済学とマルクス	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
3	シュンペーターと経済発展の理論	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
4	価値と分配の理論: 価値説と限界効用説、リカードから新古典派へ	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
5	需要と供給: 需要曲線、供給曲線について	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
6	ケインズ入門: 有効需要の原理とは何か	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
7	制度派経済学: 制度 (法律や慣習、罰則) を重視する経済学の系譜	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書①を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
8	地域経済と地域経済政策: 地域の経済発展を考える	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
9	戦後の日本経済史: 高度経済成長の背景	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
10	労働市場の構造変化と格差問題	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
11	政府の役割: 市場の失敗と政府の失敗	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
12	人口減少と社会保障制度	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
13	ベンチャー企業や起業家の役割: 社会起業家に注目して	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
14	ポスト資本主義社会を考える: これからの私達が生きる社会	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)
15	まとめ: これまでの講義の振り返り	配布するレジュメやスライド資料による講義。適宜、参考書②を使用する。	事前: 授業のテーマについて、書籍や新聞、ニュース等で調べること (30分) 事後: 配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)

	り返り	る講義。	ス等で調べること(30分) 事後：配布資料と今回の講義内容、参考図書について復習すること。(1時間)	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門 経済学の歴史	根井雅弘	筑摩書房(ちくま新書)
	2	日本経済論〈第2版〉	宮川努、細野薫、細谷圭、川上淳之	中央経済社
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 30%、講義期間中に実施する小テスト/レポート 70%。(60%以上で合格) (新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、定期試験はレポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。)			
学生への メッセージ	私達の身の回りには、経済用語が溢れています。それらの用語の背景にある理論に触れ、エッセンスを持ち帰り、自らの働き方や社会との関わりを考えるヒントにしてほしいと思います。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考				

科目名	日本の政治	科目名 (英文)	Japanese Politics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01428a2		

授業概要・目的	人間が集団で生活している限り、法や条例、環境、貿易協定の影響を避けて生きることができません。それらを決定・介入するのが政治であり、皆さんは政治参加することによって自分自身の生活をより善いものに作りかえることができます。しかし逆に、政治参加しないことによってより悪いものになってしまう可能性も否定できません。こうしたことは、人間の私的な領域まで積極的に介入してくる福祉国家のなかで環境や国内外の市場に関わろうとする農学部の皆さんには、より深刻な事実として突きつけられる事柄でしょう。 この授業では、有権者である学生の皆さんに日本の政治と政治学についての基本的な知識・技能を与えることを一番大きな目的としています。政治学の中でも、もっとも基本的な事柄である日本政治史、政治体制論、政治過程論、国際政治にあたる内容を授業する予定です。また皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治的な時事問題についても紹介し、解説します。
到達目標	この授業を通じて学生は、日本の政治・政治学についての基本的な知識・技能を獲得し、いかなる法・政策・立候補者が望ましいか理性的・論理的に判断し、政治に積極的に参加する中でそれを表明していくという政治・政治学に関する思考力・判断力・表現力を育成することができます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーに政治問題に関する意見を論理的に書いてもらったり、予習・復習テストに答えてもらったりすることもあります。
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職活動において、日本の政治や政治学の内容が一般常識として問われる場合があります。また現在でも一人の有権者として政治参加するさいに、判断材料として政治的な事柄について知っておく必要があります。そうした事柄に対応し、身の回りで起こっている政治・社会の出来事に造詣の深い人物になるべく、基本的な政治的知識・技能を獲得し、そのメリット・デメリットを判断し、政治的意見として表明することができます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～政治とは何か?	イントロダクションとして、講義の内容と身近な日常生活で現れる政治について授業します。	事前学習：政治・政治学について文献を収集し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
2	政治と権力～政治とは何か? 正当な権力とは何か?	身近な日常生活で現れる政治と、マックス・ウェーバーの権力観を理解し、政治・経済における近代性とは何かを考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
3	国家と政治システム～システムとは何か?	政治システムとはどういう構造になっているのか考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第六章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
4	デモクラシー～デモクラシーの条件とは何か?	さまざまな政治システムがあるなかで、戦後の日本政治の基礎になっているデモクラシーとはいかなる政治システムなのか考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
5	戦前の日本の政治体制～天皇制と日本が戦争へと向かった理由	戦後の日本政治とはまったく異なる戦前の政治体制について授業します。また軍部を戦前の政府が抑えられなかった理由を映像資料を見て考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
6	マスメディアと世論①～政治文化と初期の世論研究	世論と政治文化について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
7	マスメディアと世論②マスメディアの役割とは何か?	マスメディアの役割とそのさまざまな効果について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
8	選挙と政党～中選挙区制から小選挙区比例代表並立制へ	日本の選挙制度を中心に、選挙と政党制について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十二章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
9	国会と内閣～議院内閣制と今世紀の行政改革	行政改革による内閣の権限強化を中心に、日本の国会と内閣について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
10	国際政治の二つの観点①～アイディアリズム	国際連盟から国際連合への経過について授業します。また国際連盟から離脱したときの日本の状況について映像資料を見て考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第七章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
11	国際政治の二つの観点～リアリズム	東西冷戦の基盤となるリアリズムの考え方について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
12	冷戦終結後の日本外交①～	冷戦終結後の新しい国際秩序を開くこ	事前学習：教科書の該当箇所 (第八章) を読み、マ

		湾岸戦争とその結果	とになった湾岸戦争と日本政府の対応について授業します。	メディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジюме・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。																
	13	冷戦終結後の日本外交②～米国同時多発テロとアフガニスタン戦争、イラク戦争	米国同時多発テロをきっかけに生じたアフガニスタン戦争と後のイラク戦争と日本の新法作成について授業します。	事前学習:教科書の該当箇所(第八章)を読み、メディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジюме・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。																
	14	冷戦終結後の日本外交③～安全保障体制の転換	集団的自衛権の行使の閣議決定を中心に、近年の日本外交の転換について授業します。	事前学習:教科書の該当箇所(第八章)を読み、メディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジюме・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。																
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習:来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジюме・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく(30分)。 事後学習:試験に向けて教科書やノート、レジюмеを読み直す(時間の許す限り)。																
関連科目	中学・高校の現代社会、政治・経済、日本史、世界史など。大学の政治学、社会学、国際政治など。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>政治学</td> <td>久米郁男・川出良枝ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで—</td> <td>仲正昌樹編</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>18歳から考える日本の政治</td> <td>五十嵐仁</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで—	仲正昌樹編	法律文化社	2	18歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで—	仲正昌樹編	法律文化社																	
2	18歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社																	
3																				
評価方法(基準)	レポート(約70%)と小テスト(約30%)で評価します。Aの取得率は、全受講者数の25%以下とします。																			
学生へのメッセージ	新聞・TV・ネットなどメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治・政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。																			
担当者の研究室等	11号館10階 和田講師室																			
備考	予習・復習テストについては次回の授業で解説します。提出してもらったリアクションペーパーについてもいくつか匿名で紹介し、短評を与えます。																			

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安藤 由香里
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01429a2		

授業概要・目的	本授業は、皆さんの「日常生活」で、法がどのような機能を果たしているかについて「楽しく」学ぶことを目的とする。
到達目標	1. 社会における法の役割について理解する。 2. グローバルな視野を身につけるために多様な事象を考察する。 3. 批判力および分析力を養うために、参加型講義を実施する。
授業方法と留意点	教科書以外にも授業中に適宜参考資料を紹介する。 毎週、講義と関連する事件・ニュースの新聞記事を持参する。 授業冒頭で、近くの席の人に自分の印刷した記事を見せ、事件の概要となぜその記事を選んだかを説明する。
科目学習の効果 (資格)	法律の基本的知識やその活用について学ぶことは、社会人として、そして日常生活に必ず役立ちます！

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	人間らしく生きる権利の保障-基本的人権(1)	基本的人権、自己決定権、プライバシー、宗教の自由	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
3	人間らしく生きる権利の保障-基本的人権(2)	平等権、表現の自由、生存権、参政権	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
4	現代行政における国民	外国人の権利、入国管理、難民	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
5	すべては契約から	契約の自由、損害賠償、住まいと法律	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
6	いろいろな決済方法	クレジットカード、連帯保証、自己破産	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
7	家族と法(1)-結婚・離婚	法律婚、事実婚、離婚、養子縁組	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
8	家族と法(2)-親子関係小テスト	生殖補助医療、親権、後見制度、扶養、相続	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
9	日常生活のアクシデント-交通事故	交通事故、自動車、自転車	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
10	日常生活のアクシデント-医療事故	インフォームドコンセント、医療過誤	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
11	日常生活のアクシデント-製造物責任・悪徳商法	クーリングオフ	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
12	罪と罰-犯罪(1)	脳死・臓器移植と刑法、インフォームドコンセント	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
13	罪と罰-犯罪(2)	インフォームドコンセント、安楽死・尊厳死と刑法	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
14	労働・社会保障と法(1)	労働契約、解雇・失業、	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
15	労働・社会保障と法(2)小テスト	子育て・介護	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認

関連科目	日本国憲法
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法学概論-身近な暮らしと法	國友順市、畑雅弘(編著)	嵯峨野書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	1. 試験 (総括的評価) 50% 2. 毎回新聞記事を持参して積極的に討議し、コメント用紙に記入し提出する。 50% 新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、レポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。
-----------	---

学生へのメッセージ	法は、私たちの生活のどこにでも常に関わってくる問題です。社会人として知らないではすまされない基礎知識があります。本講義を通じて、そのことを実感し、社会問題を問いなおす視点を身につけてください。
-----------	--

担当者の研究室等	Email: yukari.ando@edu.setsunan.ac.jp
----------	---------------------------------------

備考	原則対面授業だが、新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、遠隔授業 (教材・課題提供型授業) にて実施する場合もある。 1. 講義前の予習 (教科書を読む。1時間×15回) 2. 復習 (講義の重要事項をまとめる。1.5時間×15回) 3. 自己学習 (講義に関連する新聞記事を読み、次週に持参する)
----	--

科目名	経営学入門	科目名 (英文)	Introduction to Management
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小沢 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01430a2		

授業概要・目的	<p>経営学の基本について、全体を網羅して講義を行います。講義で紹介する代表的な事例を通じて、経営学への理解を深めます。企業での企画調査やコンサルティングの実務経験を講義に取り入れます。</p> <p>この講義では、現代の企業や会社組織における運営のあり方について真剣に議論していく中で、経営学の基本的なことを学びます。</p> <p>身の回りのものを眺めるだけで、本講義で説明する理論と深く関係する事例が見つかるはず。経営学を深く学ぶということは、様々な学問分野の基礎を学ぶ事にもつながります。それは、これからの皆さんの人生をより豊かなものとする第一歩になるでしょう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 現代企業に関する個々の理論にみえる考え方の全体像を把握した上で、現実を生じる物事を考える姿勢を身に付ける 実際に組織構造やビジネス・システムを構築する際の基本となる「概念的な」道具立てを知る 複数の考え方を駆使して、自分たちの置かれた状況を多面的に読み解く 専門用語に目を奪われることなく、「ものの見方」を習得する
授業方法と留意点	この講義は、基本的に教科書と、私の用意する教材を基に講義を進めていきます。また座学だけでなく、実在する企業のケースを元に、組織の仕組みに関する巧拙や組織マネジメントのあり方などについて、議論を行います。よって学習課題への返答を求めるなど、参加を重視します。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	はじめに	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	事前：シラバスを読んでおく	事後：講義内容を復習する
2	企業経営の全体像	企業経営を中心に講義します	事前：教科書の第1章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
3	経営学の全体像	経営学の特徴や、経済学との違いについて講義します	事前：教科書の第2章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
4	企業と社会	株式会社制度などについて講義します 場合によっては、企業の社会的責任にテーマを変える時もあります (その折は、事前にお知らせします)	事前：教科書の第3章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
5	企業とインプット	金融資本や労働に関する市場について、学びます	事前：教科書の第4章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
6	企業とアウトプット	製品やサービスの市場について、考えます	事前：教科書の第5章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
7	競争戦略のマネジメント 1	企業の成長、競争に打ち勝つ考え方を説明します	事前：教科書の第6章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
8	競争戦略のマネジメント 2	違いを作る3つの基本戦略と、仕組みの競争について、講義します	事前：教科書の第7章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
9	マーケティング	製品やサービスの販売 (対象や価値伝達) に関して学びます	事前：事前の配布資料を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
10	多角化戦略のマネジメント	新しい事業の創出、そのプロセスについて講義します	事前：教科書の第8章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
11	国際化のマネジメント	企業が国境を越える理由について、講義します	事前：教科書の第9章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間) * 参考書で、理解がグッと深まるでしょう
12	マクロ組織のマネジメント	企業が活動できる仕組みを学びます	事前：教科書の第10章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
13	ミクロ組織のマネジメント	インセンティブ・システムやリーダーシップについて学びます	事前：教科書の第11章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
14	キャリアデザイン	キャリアについて考えます	事前：教科書の第12章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
15	病院組織のマネジメント	経営学の広がりについて講義します	事前：教科書の第14章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1からの経営学 (第3版)	加護野 忠男・吉村 典久 (編著)	碩学舎
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	市場再活性化のメカニズム	小沢 貴史	千倉書房
2				
3				

評価方法 (基準)	<p>この講義では、レポートを2回、課します。レポートは、指定する期日 (講義の中でお知らせします) までに提出してください。期日を遅れて提出した場合は、減点の対象となります。</p> <p>2回のレポートと、出席および教材へのアクセス状況を加味して、総合的に評価します。レポートの評価項目は、次の通りです。</p> <p>「重要な要因や問題の識別」 「論理一貫性」、「客観性」</p>
-----------	---

	「分析内容の完結性」 「適切な概念やモデルの適用」
学生への メッセージ	受講される皆さんは、組織論や戦略論、マーケティング論などを問わず、さまざまな分野の本を余力のあるうちに読んでおいてください。たとえば社会学や心理学、経済学、歴史学、哲学などです。自分の関心のある分野で結構です。無理なく読んでいただき、その本の考え方を吸収してください。
担当者の 研究室等	担当者は、非常勤講師です。
備考	

科目名	観光学	科目名 (英文)	Tourism Studies
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金 志善
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01431a2		

授業概要・目的	本講義では、観光の概念について理解し、観光学の基礎的な専門知識を習得することを目的とします。観光は、今やグローバル産業と言われるまでに大きく成長しました。国内では、東京オリンピックによる経済波及効果が地域活性化にも繋がると観光への期待が膨らんでいます。そこで、この授業では、観光の歴史、文化そして経済的側面からその潜在力を捉え、多様な観光産業との関わりやその果たす役割を包括的に理解することを期待します。
到達目標	①観光の歴史的発展を概観しながら、観光産業の機能と役割について理解できる。 ②観光を捉えるための基本的な考え方、社会情勢などの基礎的な知識を身につけることができる。 ③国内観光、海外旅行、外国人の訪日旅行等の現状を理解し、その要点を説明できるようになる。
授業方法と留意点	・講義中心 ・課題（調査、レポートなど） 毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
科目学習の効果（資格）	観光地で起きている問題を自らの課題として考え、自ら関わろうとする態度を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	観光の概念	授業の進め方の説明の後、観光の基礎的な概念について学習します。	これまで思い出に残る旅の経験を列挙する。事前学習2時間、事後学習2時間。
2	観光の歴史	人はなぜ旅行に行くのだろうかについて学び、旅のかたちの変遷を学習します。第1回レポートを課します。	産業革命以降、人々を運送する手段が発展し、今日に至っている。当時どのような交通手段があったかを調べておくこと。事前学習2時間、事後学習2時間。
3	宿泊業 (1)	日本のホテルの発達史を学び、現在の宿泊業の特徴と役割を理解します。	日本のホテルの今後の方向性について考えをまとめる。事前学習2時間、事後学習2時間。
4	宿泊業 (2)	ホテルチェーンの現状と宿泊業務の基礎について学習します。	興味を持っている外資系ホテルチェーンに関して、ネットなどでその歴史と現状について調べてくる。事前学習2時間、事後学習2時間。
5	旅行業	旅行業の仕組みと旅行業の商品について学習します。旅行商品の成り立ち、流通、販売の機能を学び、商品を販売する立場で企画してみます。第2回レポートを課します。	旅行業の役割や機能をまとめておくこと。事前学習2時間、事後学習2時間。
6	地域における SDGs とは	SDGs とは何かについて学び、企業がSDGs に取り組むべき課題などについて学びます。	なぜSDGsは注目されるのかについて調べておく。事前学習2時間、事後学習2時間。
7	運輸業	航空会社・空港・鉄道について学習します。航空会社の歴史と企業が現在置かれている状況をサービス、格安航空会社の台頭などから理解して行きます。第3回レポートを課します。	格安航空会社 (LCC) について調べる。事前学習2時間、事後学習2時間。
8	メディカルツーリズム	アジアにおけるメディカルツーリズムの現状と各国の事例について学習します。	日本においてメディカルツーリズムが難しい理由について調べる。事前学習2時間、事後学習2時間。
9	オーバーツーリズム	オーバーツーリズムとは何か、また、それが地域住民・観光客に及ぼす影響と今後求められる対応策について学習します。第4回レポートを課します。	観光公害の問題点について調べておく。事前学習2時間、事後学習2時間。
10	統合型リゾート (IR)	統合型リゾート (IR) とは何か。日本のIRの現状と世界のIRについて学習します。	統合型リゾート (IR) の課題、その対策などについて調べる。事前学習2時間、事後学習2時間。
11	観光マーケティング	マーケティングとは何か、観光にマーケティングがなぜ必要なのかについて学習します。第5回レポートを課します。	事前に配布する資料を事前に読んでおくこと。事前学習2時間、事後学習2時間。
12	観光業の環境分析	観光産業の環境分析、SWOT分析について学習します。	SWOT分析について復習しておく。事前学習2時間、事後学習2時間。
13	ダークツーリズム	ダークツーリズム概念の登場と拡散について事例を挙げて紹介します。	ダークツーリズムの役割について調べておく。事前学習2時間、事後学習2時間。
14	コンテンツツーリズム	コンテンツツーリズムによる地域振興について学習します。	アニメツーリズムについて調べておく。事前学習2時間、事後学習2時間。
15	これまでのまとめ	テストを実施します (1~13回)。 観光の発生過程から現在の発展へのプロセスを学習します。観光のもたらす影響にはどのようなプラスとマイナス面があったか復習します。	これまで学んだ内容を復習しておく。事後学習2時間。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代観光総論	前田勇	学文社
	2	入門観光学	竹内正人	ミネルヴァ書房
	3	新・観光学入門	中村忠司・王 静	晃洋書房
評価方法 (基準)	テスト 50%、5 回の課題レポート 50%			
学生への メッセージ	本授業では、観光学に関わる確かな知識・技能を身につけるために、レポートにより課題を出す。レポートは、授業中に提示した課題について、5 回提出する。			
学生への メッセージ	楽しく観光を学びましょう。			
担当者の 研究室等				
備考	非常勤講師室 (相談可能時間: 月曜日 12 時 30 分~13 時 10 分) stellakim0217@gmail.com			

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Japanese Constitution
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01432a2		

授業概要・目的	本講義では、日本国憲法の基礎的知識を修得することを目的としています。さらにその知識を活用して、社会における多様な問題について、憲法の視点を踏まえて自分の言葉で発言できるようになることを目標とします。できるだけ身近な素材を利用して講義を進めますので、「憲法」と日常生活との関わりについて考えてもらえる機会になるでしょう。また、憲法をめぐるさまざまな考え方にふれ、物事を多角的にみる能力を養います。
到達目標	この授業を通して学生は、「憲法」の意義、および日本国憲法の基礎知識を修得し、社会の中の憲法にかかわる諸問題について自分の意見を述べるができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	基本は教材・課題配置型の講義形式で行います。オンライン授業方法の詳細は、第2回授業の中で説明します。毎回の授業の最後に小テストなどの課題に取り組んでもらいます。授業の進行にあわせて、2回分のテーマを1回にまとめることもあります。
科目学習の効果 (資格)	各資格試験や就職試験における法学科目の基礎知識としても有益です。 教員免許取得上必修

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに 現代日本の法制度の概要について	講義 日本法全体における憲法の位置づけ	事前：日本国憲法全文を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
2	「憲法」とは 日本における「憲法」の成立と歩み	講義 欧米の「憲法」の歴史を概観する。「立憲主義」という言葉の意味を考える。日本において「憲法」はどのように誕生したのか？大日本帝国憲法の特徴とともに、日本国憲法の成立過程及び現在までの歩みを学ぶ	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
3	「日本国憲法」の基本構造・基本原理	講義 日本国憲法の基本原理および基本構造(統治の基礎と人権の基礎)を確認する。第1条から、日本国憲法における「天皇」制と国民主権について考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
4	統治の基礎(1) 国会	講義 日本の統治機構の基本を学ぶ。特に国会の役割、さらに三権分立の意義を考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
5	統治の基礎(2) 裁判所	講義 裁判・裁判所の基礎を学ぶ 裁判所の組織、司法権の独立、裁判員制度	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
6	人権総論 憲法で保障される人権とは	講義 日本国憲法の人権規定の基本にある考え方を学ぶ。人権規定の種類・分類を学び、人権の意義と全体像を確認する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
7	自由権① 信教の自由	講義 重要判例を通して信教の自由・政教分離の原則の意義を考える。また信教の自由をめぐる欧米の歴史も概観する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
8	自由権② 表現の自由 (その他の自由権)	講義 「表現活動」やその他の自由権をめぐる判例や近年の動向を検討する	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
9	自由権③ 刑事手続上の権利、他	講義 適正手続の保障、公判手続における権利などについて学ぶ	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
10	社会権 生存権・労働者の権利	講義 まず社会権の歴史を学ぶ。生存権の意義と、日本の貧困問題を考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
11	法の下での平等①	講義 憲法上の「平等」とは？「憲法」で保障される平等の意味・歴史を学ぶ。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
12	法の下での平等②	講義 14条・24条をめぐる近年の重要判例を検討しつつ、家族をめぐる法や諸問題(夫婦別姓、同性婚の問題など)を憲法を通して考える	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
13	新しい人権	講義	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)

		自己決定権	新しい人権、特に「自己決定権」について考える。	<p>びその他文献（参考図書・新聞等）を読んでおく。（2時間）</p> <p>事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2時間）</p>																
	14	平和主義	<p>講義</p> <p>戦後から現在までの「9条」をめぐる様々な動向・多様な意見を確認し、今後の日本の「平和」と憲法の意義を考えてみる。</p>	<p>事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献（参考図書・新聞等）を読んでおく。（2時間）</p> <p>事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。（2時間）</p>																
	15	憲法改正の諸問題まとめと復習	<p>講義</p> <p>憲法改正をめぐる動向と諸問題を検討する。これまでの講義内容全体を復習する。憲法の重要判例も再度確認する。</p>	<p>事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所を読んでおく。（1時間）</p> <p>事後：これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する。（3時間）</p>																
関連科目	法学入門																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>スタディ憲法</td> <td>曾我部真裕 他</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	スタディ憲法	曾我部真裕 他	法律文化社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	スタディ憲法	曾我部真裕 他	法律文化社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>憲法（第7版）</td> <td>芦部信喜</td> <td>岩波書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	憲法（第7版）	芦部信喜	岩波書店	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	憲法（第7版）	芦部信喜	岩波書店																	
2																				
3																				
評価方法（基準）	授業内課題（小テスト、小レポートなど）40%と、期末試験（レポート、他）60%によって、総合的に評価します。詳細は、オンライン授業開始の際に、説明します。																			
学生へのメッセージ	「憲法」をめぐる議論が活発化する今、憲法の基礎知識をしっかりと修得しましょう。気軽に質問してください。																			
担当者の研究室等	1号館2階（非常勤講師室）																			
備考	各授業の最後に実施する課題については、次の授業で解説します。参考文献は、授業の中で、随時紹介します。																			

科目名	教養数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	友枝 恭子
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1433a2		

授業概要・目的	教養数学では、農学部の専門的知識を学ぶ上で必要となる（統計学などの）応用数学と言われる知識を修得するための基礎的・基本的な数学の知識や考え方を扱う。それらを学び、理解することを通じて、論理的思考能力・判断力・表現力といった、農学部を含む理系学部生一般に求められる素養を身につける。さらにそのような数学的素養を活かし、農学領域やそれを取り巻く様々な分野に対しても応用できるような基本的技能を習得することをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 微積分の基本的計算を行うことができる。 (2) 簡単な微分方程式を解くことができる。 (3) 基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	Moodle を経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業で実施する。理解の促進と達成の度合いをみるため課題演習を適時行う。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	微分法の基本	・接線と微分係数 ・導関数	課題レポート
	2	微分法の基本	・微分計算の公式 ・1次近似式	課題レポート
	3	微分法の基本	・関数の増減 ・関数の凹凸 ・関数のグラフ	課題レポート
	4	微分法の基本	・速度と加速度 ・運動量保存則	課題レポート
	5	指数関数と対数関数	・指数法則と対数法則	課題レポート
	6	指数関数と対数関数	・グラフ	課題レポート
	7	指数関数と対数関数	・簡単な微分方程式	課題レポート
	8	三角関数	・三角関数の復習 ・グラフ	課題レポート
	9	三角関数	・加法定理 ・三角関数の微分	課題レポート
	10	不定積分	・基礎的な公式	課題レポート
	11	不定積分	・置換積分 ・部分積分	課題レポート
	12	定積分	・不定積分と定積分 ・面積と定積分	課題レポート
	13	定積分	・定積分の計算 ・置換積分と部分積分	課題レポート
	14	定積分	・表面積と回転体の体積	課題レポート
	15	微分方程式	・変数分離型 ・1階線型	課題レポート

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	確率・統計のための数学基礎	小林俊公・島田伸一・友枝恭子	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題演習で30% 期末試験70%の合計によって判断する。なお、期末試験については COVID19 感染状況次第ではレポート等の代替手段への変更も有り得る。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	友枝 : 寝屋川学舎3号館3階(学期途中で5号館1階へ移転予定)(数学研究室) tomoeda@mpg.setsunan.ac.jp
備考	事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	教養数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 俊介
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1433a2		

授業概要・目的	教養数学では、農学部の専門的知識を学ぶ上で必要となる（統計学などの）応用数学と言われる知識を修得するための基礎的・基本的な数学の知識や考え方を扱う。それらを学び、理解することを通じて、論理的思考能力・判断力・表現力といった、農学部を含む理系学部生一般に求められる素養を身につける。さらにそのような数学的素養を活かし、農学領域やそれを取り巻く様々な分野に対しても応用できるような基本的技能を習得することをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 微積分の基本的計算を行うことができる。 (2) 簡単な微分方程式を解くことができる。 (3) 基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため課題演習を適時行う。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	微分法の基本	・接線と微分係数 ・導関数	課題レポート
	2	微分法の基本	・微分計算の公式 ・1次近似式	課題レポート
	3	微分法の基本	・関数の増減 ・関数の凹凸 ・関数のグラフ	課題レポート
	4	微分法の基本	・速度と加速度 ・運動量保存則	課題レポート
	5	指数関数と対数関数	・指数法則と対数法則	課題レポート
	6	指数関数と対数関数	・グラフ	課題レポート
	7	指数関数と対数関数	・簡単な微分方程式	課題レポート
	8	三角関数	・三角関数の復習 ・グラフ	課題レポート
	9	三角関数	・加法定理 ・三角関数の微分	課題レポート
	10	不定積分	・基礎的な公式	課題レポート
	11	不定積分	・置換積分 ・部分積分	課題レポート
	12	定積分	・不定積分と定積分 ・面積と定積分	課題レポート
	13	定積分	・定積分の計算 ・置換積分と部分積分	課題レポート
	14	定積分	・表面積と回転体の体積	課題レポート
	15	微分方程式	・変数分離型 ・1階線型	課題レポート

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	確率・統計のための数学基礎	小林俊介・島田伸一・友枝恭子	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分の押さえどころ	辻川享・大塚浩史・出原浩史・伊藤翼・矢崎成俊	学術図書出版社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題演習で30% 期末試験70%の合計によって判断する。 なお、期末試験については、COVID-19による感染状況次第では、レポート等の代替手段への変更も有り得る。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。
担当者の研究室等	
備考	事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	生命倫理	科目名 (英文)	Bioethics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	喜多 大三
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ONA1434a2		

授業概要・目的
 農学の学びにおいて「総合科学」の基礎となる幅広い知識の獲得に加え、倫理観をもった豊かな人間性を涵養する教育が必要であり、農学分野における生命科学の倫理的配慮が社会的、科学的、技術的側面などから求められている。中でも、農学分野において、ゲノム解析、各種細胞の研究利用、遺伝子組み換えによる品種改良など生命に係る技術利用が行われ、人類に有益な結果をもたらす一方で、予期せぬ有害な影響なども予測される。したがって、本授業では、生命科学分野で配慮されるべき生命倫理観及びその行動を学ぶ。「ヒトの生死や生命とは何か」、「人間とは何か」などの根源的な問いに向き合いながら、農学における生命科学の最新技術がヒトや地球環境に及ぼす影響を考察し、倫理的行動のあり方について学修することを目的としている。

- 到達目標**
- ① 生命倫理に関する諸問題について、農学部の学生として必要な知識や考察力を身につける。
 - ② バイオテクノロジーと環境の問題について、倫理的理解を深める。
 - ③ ヒトの生命の誕生および死について学修し、それらに対する知識と倫理観を身につける。
 - ④ 食に関わる倫理的課題を理解し、説明出来る。
 - ⑤ ヒトの生活を支えている様々な生命を理解し、それらに対する倫理観を身につける。

授業方法と留意点
 授業は、教員による講義と各種のワークを取り混ぜて行う。オンライン授業はTeamsを用いたリアルタイム形式で行う。対面授業でグループワークを行う場合は、学生は複数の講義室の決められた席に着席する。その場合は、教員は各講義室を往き来して指導するほか、ビデオ中継によって各講義室を連結して授業を進める。講義はパワーポイントと板書、テキスト、配付資料などを用いて行うが、授業の理解度を高めるために事前・事後の学習課題を課す。事前学習の小テストは、テキストなどの指定された部分を読んでから Moodle 上で解答する。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	環境倫理	・環境倫理の様々な論点を知る。 ・様々な環境課題における「世代間倫理」について考える。	事前学習：テキストの予習 (30章) と小テスト 事後学習：事後レポート
3	バイオテクノロジー (1)	・新しいバイオテクノロジーの社会的受容に関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (2章) と小テスト、事前講義の視聴 事後学習：事後レポート
4	バイオテクノロジー (2)	・ゲノム編集技術に関する具体的課題について考える。	事前学習：事前配布資料について的小テスト 事後学習：事後レポート
5	ヒトの死について	・医療資源の配分、脳死と臓器移植に関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (9, 11章) と小テスト 事後学習：事後レポート
6	患者の権利と個人の尊厳について	・インフォームド・コンセントに関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (16章) と小テスト 事後学習：事後レポート
7	患者の意思決定と QOL (quality of life)	・医療倫理の四原則に関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (18章) と小テスト 事後学習：事後レポート
8	安楽死・尊厳死、終末期医療	・安楽死・尊厳死、終末期医療に関する具体的課題について考える。	事前学習：テキストの予習 (14, 15章) と小テスト 事後学習：事後レポート
9	食のプロセスについて	・食のプロセスについて知る。 ・食のプロセスについて関わる具体的な課題について考える。	事前学習：配布資料の予習 小テストは、授業中に行います。 事後学習：事後レポート
10	食の安全性について	・食料の安全保障について知る。 ・食の安全性保障に関する具体的な倫理的問題について考える。	事前学習：配布資料の予習 小テストは、授業中に行います。 事後学習：事後レポート
11	食と健康について	・食べ物のリスクと安全性をどのように理解し評価するかについて、その問題点を知る。 ・食べ物と健康についての様々な倫理的な観点から理解を深める。	事前学習：配布資料の予習 小テストは、授業中に行います。 事後学習：事後レポート
12	ヒト以外の生命 1: 伴侶動物とペット産業	・動物の生命と愛護について考える。 ・伴侶動物の生と死、ペット産業などについて学び、理解を深める。	前学習：テキストの予習 (21章) と小テスト 事後学習：事後レポート
13	ヒト以外の生命 2: 野生動物と産業動物	・野生動物と産業動物の生命を考える。 ・野生動物の生と死、産業動物と食肉産業などについて学び、理解を深める。	事前学習：配布資料の予習 事後学習：事後レポート
14	ヒト以外の生命 3: 社会文化と生命	・文化と生命観の関係を考える。 ・ヒトの生活や産業と生命の関係について理解を深める。	事前学習：テキストの予習 (23, 24章) と小テスト 事後学習：事後レポート
15	ヒト以外の生命 4: 私たちの生活と生命の関係を考える	・ヒトの生活と生命の様々な関係について、事前課題を通じて考えた意見を交換し、理解を深める。	事前学習：事前課題に取り組む 事後学習：事後レポート

関連科目 生物学、生物学演習、

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テーマで読み解く生命倫理	小泉博明ら編著	教育出版

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業全体について、事前学習課題の総得点を50点に換算し、授業内の成果物や事後レポートなどを50点とし、合計100点満点で教科の成績を評価する。60点以上で合格とする。			
学生への メッセージ	農学は「いのち」を扱う学問であり、農業は「いのち」を利用させていただく産業です。この授業では、「いのち」を、自然科学、人文・社会科学、医療・看護、食、農業生産、などの様々な視点から、考えていきます。中には、心にとって重い課題も、そうでない課題もあり、また、結論のない、出せない課題も沢山あります。この授業では、このような課題を通じて、「いのち」とは何か、私たちは「いのち」にどう向き合うべきなのかを、皆さんとともに、考えていきたいと思ひます。			
担当者の 研究室等	岩崎 綾乃	薬学部・薬学科	1号館4階	岩崎講師室
	椎名 隆	応用生物科学科	8号館3階	303号室
	喜多 大三	食品栄養学科	8号館2階	225号室
	小保方潤一	応用生物科学科	8号館3階	301号室
備考				

科目名	生物と環境	科目名 (英文)	Life and Environment
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	宮寄 英寿
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1435a2		

授業概要・目的	本講義では、世界の環境問題と生態系の構造を俯瞰的にみることで、それらの基礎知識を習得することを目的とする。加えて、実際に生じている世界の環境問題を様々な事例研究を解説し、地域社会の特徴とそれが抱える諸問題から共通点と相違点についての考察を深めてもらいます。また、グループワークやプレゼンテーションを通じて環境問題の問題発見と解決策を模索します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生物（ヒトも含む）と環境とのかかわりを理解し、自ら説明できる。 ・日本だけではなく世界各地域特有の状況から、これからの環境問題のあり様について考えを述べるができる。 ・日々の暮らしの中で生物と環境に関する気づきや発見を得る喜びを持つようになる。
授業方法と留意点	講義は主に PPT や映像を用いておこないます。 受講者によるグループワーク、個別・グループプレゼンテーションなどを実施します。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画、採点方法に関する説明	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
2	基礎知識の習得 1	気候、農業、資源	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
3	基礎知識の習得 2	環境・生態と人々の暮らし	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
4	基礎知識の習得 3	環境問題、生物多様性と生態系サービス	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
5	生物と環境のかかわりを学ぶ 1	西アフリカ、ブルキナファソにおける事例研究から (砂漠化・農牧混交)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
6	生物と環境のかかわりを学ぶ 2	南部アフリカ、ザンビアにおける事例研究から その 1 (レジリアンス・気候変動)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
7	生物と環境のかかわりを学ぶ 3	南部アフリカ、ザンビアにおける事例研究から その 2 (食料安全保障・貧困削減)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
8	生物と環境のかかわりを学ぶ 4	南アジア、インドにおける事例研究から その 1 ラージスターン (気候変動・移動牧畜)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
9	生物と環境のかかわりを学ぶ 5	南アジア、インドにおける事例研究から その 2 タミル・ナドゥ (気候変動・外来生物)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
10	生物と環境のかかわりを学ぶ 6	中東、アラブ首長国連邦における事例研究から (国際労働移動・生計向上)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
11	生物と環境のかかわりを学ぶ 7	東南アジア、ラオス・ミャンマーにおける事例研究から (農村開発・都市開発)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
12	生物と環境のかかわりを学ぶ 8	東南アジア、インドネシアにおける事例研究から (貧困削減・生計向上)	日々の暮らしの中で生物と環境に関する情報を収集し、それに対する自分の考えをまとめる。 講義中に出す課題レポート
13	総合討論 1	これからの生物と環境について考えよう (個人あるいはグループ討論)	講義中に出す課題レポート 発表準備
14	総合討論 2	これからの生物と環境について個人あるいはグループ討論成果、発表と議論	講義中に出す課題レポート 発表準備
15	総合討論 3	これからの生物と環境について個人あるいはグループ討論成果、発表と議論	講義中に出す課題レポート 発表準備

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	講義への参加姿勢 (発言) (30%)、リアクションペーパーと各講義中に出す課題レポート (30%)、グループワークとプレゼンテーション (40%) で評価します。
学生への	

メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	キャリアデザイン I	科目名 (英文)	Career Design I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OCA1438a2		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 <p>ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び海外を含む高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	<p>講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。</p> <p>なお、コロナ禍の観点から Teams を用いたリアルタイム型講義を行うが、収束が見込まれた折には対面による講義に戻す可能性もあるので、連絡を確認すること。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること (0.5 時間)
2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：大学で学ぶ意味について考えること (0.5 時間)
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・アセスメントを実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：摂南大生として、建学の精神と教育理念を理解すること / 大学の中にある「機会」の活用の仕方について考えること (0.5 時間) ・事後学修：講義で課された課題に取り組むこと (2 時間/継続)
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：設定された個人ワークに取り組むこと (2 時間)
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：SDGs とは何かについて予習をしておくこと (0.5 時間) ・事後学修：グループで課題に取り組むこと (2 時間)
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：社会で求められる人材について考えること (0.5 時間)
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (0.5 時間)
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (0.5 時間)
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (1 時間)
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (0.5 時間)
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えること (0.5 時間)
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (1 時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (1 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (0.5 時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (1 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (0.5 時間)
15	講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 4 で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：夏休み以降の大学生活の目標を考えること (0.5 時間) ・事後学修：期末レポートを作成すること (1.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内活動(30%)、グループ課題(20%)、最終レポート(50%)で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター(石井)			
備考	1. 2020年度以前入学の再履修者はこの教室で実施する。 2. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 3. ミニレポートは採点した後に返却する。			

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名 (英文)	Career Design II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OCA2439a2		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	10月11日より対面にて実施。講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしてまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後:2時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること(0.5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べる(事後:0.5時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べる(0.5時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後1時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後:0.5時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後:0.5時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前:0.5時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5時間)
13	自分を高める⑤	・講義⑧⑨⑩の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前:1時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題について調べる(事前:0.5時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5時間)

関連科目 キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。

学生へのメッセージ 来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。

担当者の 研究室等	8号館1階（非常勤講師室）
備考	

科目名	数的能力開発	科目名 (英文)	Development of Mathematical Ability
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	OCA2440a2		

授業概要・目的	数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講義では基礎から応用力の習得をめざします。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと
授業方法と留意点	当面はリモートの受講形式となります。(今後は状況により変更の可能性はあります) 初回の授業は Teams の一般チャネルの会議にて授業方法について説明しますので、受講希望者は必ず参加してください。 まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようになっていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。
科目学習の効果 (資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロ・実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	事後学修：実力テストの復習 30分以上を目安とする
	2	計算で解く文章題①	方程式・割合と比：割合と比 (第1, 2章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	3	計算で解く文章題②	割合の応用問題 (第2章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	4	計算で解く文章題③	損益算 (第3章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	5	計算で解く文章題④	速度算 (第4章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	6	計数問題復習	定着問題 (第5章)	事前学修：今まで学習した全問題の復習 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	7	まとめと中間テスト	まとめ 中間テスト	事前学修：今まで学習した全問題の復習 30分～1時間程度を目安とする
	8	思考力・応用力が必要な問題①	集合 (第6章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	9	思考力・応用力が必要な問題②	場合の数 (第7章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	10	思考力・応用力が必要な問題③	確率 (第8章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	11	思考力・応用力が必要な問題④	表の読み取り① (第9, 10章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	12	思考力・応用力が必要な問題⑤	表の読み取り② (第10, 11章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	13	思考力・応用力が必要な問題⑥	推論① (第12, 13章)	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	14	思考力・応用力が必要な問題⑦	推論② (第13, 14章)	事前学修：今まで学習した全問題の復習 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも30分以上を目安とする
	15	論理問題復習	定着問題 (第15章)	事前学修：今まで学習した全問題の復習 事後学修：テストに出た問題の復習 いずれも30分以上を目安とする

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！ 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部 数学テキスト編集チーム	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%、その他授業態度等により総合的に判断します。
学生への メッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の 研究室等	1F 講師室 (対面の場合)
備考	本人確認のため、メールで連絡する際には大学のアドレスから送信してください。

科目名	海外語学研修	科目名(英文)	Overseas Language Training
学部	農学部	学科	農業生産学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	カーティス チュウ・鎌田 美保
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN2413c2		

授業概要・目的	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン(地球市民)の育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習(応用)での学びに生かすことが期待される。</p> <p>なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMPの必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。TOEIC(英語の場合)の得点アップなど、客観的指標での成果も得る。 ・英語力または現地言語の能力が不十分、現地事情の理解が不十分などの理由で、「理想とするレベルでの相互理解や信頼関係の構築には至らなかった」という挫折体験も得る。挫折体験と、その体験を帰国後の学びに生かすための計画を自身の言葉で説明できる。 <p>※以上に加え、各派遣先に特化した到達目標を設定する場合がある。</p>																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合(アルバイト、旅行等)による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課程を履修する学生の履修を想定しているが、そうでない学生が本科目を単独で履修することもできる。 ・年度末にあたる2~3月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会~事前授業~現地派遣~事後授業のサイクルが、年間2回実施される。()内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の2~3月になる場合のスケジュールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集説明会：4月中旬 (9月下旬~10月上旬) ・事前授業10回：6月中下旬~7月下旬 (11月~2月) ・現地派遣：2週間程度 8月中旬~9月上旬 (2月中下旬~3月下旬) ・事後授業5回(成果報告会含む)：9月~10月中旬 (3月~4月下旬) <p>【注意】新型コロナウイルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。詳細は随時ポータルサイトで連絡します。</p> <p>本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしないといけない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の2~3月に現地派遣されるプログラムの場合は、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。</p> <p>事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地が必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップであるECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALLの英語e-learningサービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。</p> <p>派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまってはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるよう行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。</p> <p>事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとつての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書(レポート)および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。</p>																
関連科目	グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバル・シチズンシップ論(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2							
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	

	3		
評価方法 (基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)		
学生への メッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。		
担当者の 研究室等 備考	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は2号館2階グローバル教育センター(旧：国際交流センター)まで		